

鹿角市文化財調査資料66

特別史跡
大湯環状列石

発掘調査報告書(16)

2000-3

秋田県鹿角市教育委員会

序

特別史跡「大湯環状列石」は、我国を代表する縄文時代の遺跡であります。

この貴重な文化遺産を保存し、学術的、歴史的価値を正しく後世に継承していくため、昭和59年より発掘調査を継続し、本年度で16年目を迎えました。これまでの調査により、万座環状列石の周囲に建物跡が規則的に配置されていたことや大湯環状列石が長い時間のなかで作られていたこと等、大湯環状列石の解明にせまる多くの成果を得ることができました。

これと並行し、周辺遺跡の特別史跡への追加指定、追加指定地の公有化事業等も進み、平成10年度から文化庁の地方拠点史跡等総合整備事業により、史跡の整備事業を進めております。

本報告書は、整備に必要な基礎資料収集と大湯環状列石の解明を目的に発掘調査した、万座環状列石周囲と野中堂環状列石周辺の調査成果をまとめたものです。縄文文化の研究、文化財保護の資料として活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、環境整備・発掘調査に際し、多大なご協力とご指導を賜りました文化庁並びに秋田県教育委員会・関係各位に心から感謝を述べるとともに、今後もより一層のご指導賜りますようお願い申し上げます。

平成12年3月

鹿角市教育委員会

教育長 浅利 忠

例 言

1. 本報告書は、平成11年度に国・県の補助を得て実施した特別史跡大湯環状列石第16次発掘調査の成果をまとめたものである。なお、本調査は地方拠点史跡等整備事業の一環として行ったものである。

2. 調査の概要については機会あるごとに公表してきたが、本報告書を正式なものとする。

3. 本報告書の執筆は第Ⅰ章は藤井安正、他は花海義人が執筆した。

4. 出土資料等の鑑定及び分析については、下記に依頼・委託した。

石器類の石質鑑定 …………… 秋田県立十和田高等学校 教諭 録田 健 一

炭化樹種の鑑定 …………… 小坂町立十和田小中学校 教諭 山谷 昌 久

遺跡出土赤色岩石の鑑定 …… 随秋田県資源技術開発機構

金属鉱業研修技術センター 研究員 岸 勉

5. 土層・土器等の色調の記載には『新版 標準土色帖』（日本色彩研究所）を使用した。

6. 遺物の実測、採拓、トレース等の一連の整理作業は、花海の指導のもとに調査補助員、整理作業員が行なった。

7. 本報告書に掲載した図版には各々にスケールとともに縮尺率を付した。なお、写真図版については任意の縮尺とした。

8. 本報告書の文中において用語の主たるものについては統一するように努めたが、数度にわたり使用されるものについては簡略しているものもある。

なお、図版や写真図版で下記のような記号やスクリーントーンを使用した。

SB … 建物跡、 Pit … 柱穴状ピット、 SK … 土坑

SK(F) … フラスコ状土坑、 SK(T) … Tピット、 SX(f) … 焼土遺構

SX(O) … 屋外炉、 SX(S) … 配石遺構・配石列

 … 遺構確認面下の土層、  … 柱痕・焼土

9. 発掘調査及び報告書作成にあたって、下記の方々よりご指導・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

本中 真、岡村道雄、小林 克（文化庁記念物課）、沢田正昭、浅川滋男（奈良国立文化財研究所）、小林達雄（國學院大学）、熊谷常正（盛岡大学）、佐原 真、阿部義平（国立歴史民俗博物館）、村越 潔（青森大学）、葛西 勲（青森短期大学）、富樫泰時（秋田県立図書館）、遠藤正夫、児玉大成（青森市教育委員会）、鈴木克彦（青森県立郷土館）、高田和徳（一戸市教育委員会）、井上雅孝（滝沢村教育委員会）、桜田 隆（秋田県埋蔵文化財センター）、安部 実（山形埋蔵文化財センター）

本文目次

序

例言

本文目次

図版・写真図版・表目次

第I章 遺跡の環境

1. 遺跡の位置と立地 1
2. 遺跡の層序 2

第II章 調査の概要

1. 調査要項 7
2. 調査の方法 8
3. 調査の経過 8

第III章 D区検出遺構と出土遺物

1. 建物跡と柱穴状ピット 12
2. 配石遺構 32
3. 土坑 35
4. 遺構外出土遺物
 - ① 土器 44
 - ② 石器 50
 - ③ 土製品 58
 - ④ 石製品 63

第IV章 B区検出遺構と出土遺物

1. 建物跡と柱穴状ピット 67
2. 配石遺構 67

(1) 配石列

3. 土坑 67
 - (1) Tピット
 - (2) フラスコ状土坑
 - (3) 土坑
4. 焼土遺構 88
5. 遺構外出土遺物
 - ① 土器 95
 - ② 石器 100
 - ③ 土製品 108
 - ④ 石製品 118

第V章 歴史時代の遺構

1. 溝状遺構 121

第VI章 自然科学的調査

- B区第20号柱穴状ピット
出土炭化材の樹種同定結果 122
遺跡基本層序の成分分析とSK(F)22号
出土赤色岩石の鑑定 124

第VII章 調査のまとめ

参考文献 133

第VIII章 特別史跡大湯環状列石環境整備事業

..... 134

報告書抄録 148

図版・写真図版・表目次

図 版 目 次

第1図	遺跡の位置と立地	1	第26図	D区第9904号、9905号、9906号 配石遺構実測図	34
第2図	調査区位置図	3	第27図	D区第9902号配石遺構 第9908号配石列実測図	36
第3図	万座環状列石内トレンチ層序図	4	第28図	D区第9909号配石列実測図 配石遺構実測図	37
第4図	B区基本層序	5	第29図	D区第9910号、9911号 配石列実測図	38
第5図	B区基本層序	6	第30図	D区フラスコ状土坑実測図	39
第6図	D区遺構配置図	10	第31図	D区土坑実測図	42
第7図	B区遺構配置図	11	第32図	D区フラスコ状土坑出土 土器拓影図	43
第8図	D区建物跡実測図	13	第33図	D区フラスコ状土坑 出土遺物実測図	44
第9図	D区建物跡実測図	14	第34図	D区土器破片分布状況	45
第10図	D区建物跡実測図	16	第35図	D区縄文時代後期中葉 土器破片分布状況	46
第11図	D区建物跡実測図	17	第36図	D区遺構外出土土器実測図	49
第12図	D区柱穴状ピット実測図(1)	17	第37図	D区遺構外出土土器拓影図(1)	51
第13図	D区柱穴状ピット実測図(2)	18	第38図	D区遺構外出土土器拓影図(2)	52
第14図	D区柱穴状ピット実測図(3)	19	第39図	D区遺構外出土土器拓影図(3)	53
第15図	D区柱穴状ピット実測図(4)	20	第40図	D区遺構外出土土器拓影図(4)	54
第16図	D区柱穴状ピット実測図(5)	21	第41図	D区遺構外出土土器実測図(1)	55
第17図	D区柱穴状ピット断面図(1)	22	第42図	D区遺構外出土土器実測図(2)	56
第18図	D区柱穴状ピット断面図(2)	23	第43図	D区土器分布状況	58
第19図	D区柱穴状ピット断面図(3)	24	第44図	D区遺構外出土土器実測図(3)	59
第20図	D区柱穴状ピット断面図(4)	25	第45図	D区遺構外出土土器実測図(4)	60
第21図	D区柱穴状ピット断面図(5)	26	第46図	D区土製品分布状況	61
第22図	D区柱穴状ピット 出土土器拓影図(1)	29	第47図	D区遺構内出土土製品実測図	62
第23図	D区柱穴状ピット 出土土器拓影図(2)	30			
第24図	D区柱穴状ピット 出土土製品・石製品実測図	31			
第25図	D区第9901号、9903号 配石遺構実測図	33			

第48図	D区土器片利用土製品分布状況	63	第75図	B区焼土遺構実測図②	94
第49図	D区遺構外出土土器片利用 土製品拓影図①	64	第76図	B区土器破片分布状況	95
第50図	D区遺構外出土土器片利用 土製品拓影図②	65	第77図	B区縄文時代後期中葉 土器破片分布状況	97
第51図	D区石製品分布状況	66	第78図	B区遺構外出土土器実測図	101
第52図	D区遺構外出土土製品実測図	66	第79図	B区遺構外出土土器拓影図①	102
第53図	B区柱穴状ビット実測図①	68	第80図	B区遺構外出土土器拓影図②	103
第54図	B区柱穴状ビット実測図②	69	第81図	B区遺構外出土土器拓影図③	104
第55図	B区柱穴状ビット実測図③	70	第82図	B区遺構外出土土器拓影図④	105
第56図	B区柱穴状ビット実測図④	71	第83図	B区遺構外出土土器拓影図⑤	106
第57図	B区柱穴状ビット断面図①	72	第84図	B区石器分布状況	107
第58図	B区柱穴状ビット断面図②	73	第85図	B区遺構外出土土器実測図①	109
第59図	B区柱穴状ビット断面図③	74	第86図	B区遺構外出土土器実測図②	110
第60図	B区柱穴状ビット断面図④	75	第87図	B区遺構外出土土器実測図③	111
第61図	B区柱穴状ビット断面図⑤	76	第88図	B区遺構外出土土器実測図④	112
第62図	B区柱穴状ビット 出土土器拓影図①	78	第89図	B区遺構外出土土器実測図⑤	113
第63図	B区柱穴状ビット 出土土器拓影図②	79	第90図	B区遺構外出土土器実測図⑥	114
第64図	B区第02号配石列実測図	80	第91図	B区土製品分布状況	115
第65図	B区第03号配石列実測図	80	第92図	B区遺構外出土土製品実測図	115
第66図	B区Tビット実測図	81	第93図	土器片利用土製品分布状況	116
第67図	B区フラスコ状土坑実測図①	83	第94図	B区遺構外出土土器片利用 土製品拓影図①	117
第68図	B区フラスコ状土坑実測図②	85	第95図	B区遺構外出土土器片利用 土製品拓影図②	118
第69図	B区土坑実測図	87	第96図	B区石製品分布状況	119
第70図	B区土坑出土土器実測図	88	第97図	B区遺構外出土土製品実測図	120
第71図	B区土坑出土土器拓影図①	89	第98図	B区第01号溝状遺構実測図	121
第72図	B区土坑出土土器拓影図②	90	第99図	D区万座環状列石実測図 (昭和26、27年調査時図面)	129
第73図	B区土坑出土遺物実測図	91	第100図	D区万座環状列石実測図 最新版(1999年)	130
第74図	B区焼土遺構実測図①	93			

写真図版目次

PL 1	D区調査区全景	136	PL 7	D区遺構内外出土遺物	142
PL 2	B区調査区全景	137	PL 8	B区遺構外出土土器	143
PL 3	D区遺構	138	PL 9	B区遺構外出土遺物	144
PL 4	B区遺構	139	PL 10	万座環状列石周辺の整備状況	145
PL 5	B区, D区遺構内出土遺物	140	PL 11	整備状況(1)	146
PL 6	B区, D区遺構外出土遺物	141	PL 12	整備状況(2)	147

表目次

第1表	D区柱穴状ピット一覧表(1)	27
第2表	D区柱穴状ピット一覧表(2)	28
第3表	B区柱穴状ピット一覧表	77

第I章 遺跡の環境

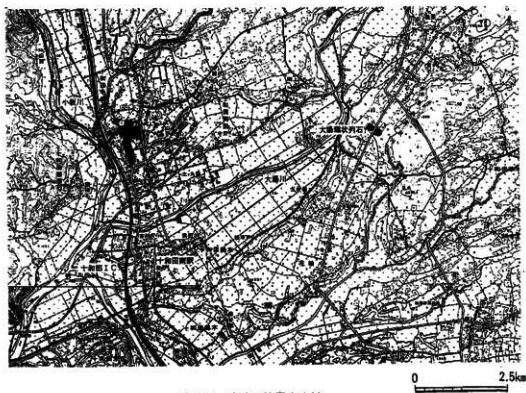
1. 遺跡の位置と立地 (第1図、2図)

鹿角市は、秋田県北東部に位置し、十和田八幡平国立公園を初めとする豊かな自然に恵まれ、北東北三県の観光拠点となっている。

鹿角の所在する鹿角盆地は、東の奥羽山脈と西の高森山地の間に形成された盆地である。県北最大河川の米代川が北へ向かい貫流し、その支流は蛇行と合流を繰り返して本流である米代川へ注ぎ込んでいる。これらの支流は十和田火山の噴火に由来する火砕流によって形成された段丘を侵食し、沖積面とは比高差約30m程を測る舌状台地を造り出している。市内で発見される遺跡は、この舌状台地上の至る所に分布し、平成元年の遺跡分布調査により、現在416箇所の遺跡が周知されている。

特別史跡大湯環状列石は市内北東部に位置し、大湯川と豊真木沢川の浸食によって作り出された全長5.6km、幅0.5～1.0km、標高150～190mの舌状台地、通称「風張台地」の中央に立地する。

遺跡は、秋田県鹿角市十和田大湯字万座、字野中堂、字一本木後口に所在し、J R花輪線十



第1図 遺跡の位置と立地

和田南駅の北東3.5km、東北縦貫自動車道十和田ICの北東3.7kmの地点である。

本年度の調査地は、万座環状列石周囲（D区）及び野中堂環状列石周辺（B区）で双方とも史跡買上げ地である。D区は現在、列石保護のためのフェンスがあり、B区は原野となっている。

2. 遺跡の層序と地形

遺跡の層序（第3～5図）

各調査区の基本層序は下記のとおりである。

第Ⅰ層は、大湯浮石層までの堆積層で、20cm～45cmの厚さで各調査区に堆積する。第Ⅱ層は、大湯浮石層（十和田a降下火山灰）で各調査区にみられるが、後世の攪乱により消失している地域もある。色調や粒子の粗細によって分層することができる。Ⅱa層は粒子の極めて細かな火山灰層、Ⅱb層は粒径0.5cm～4cmの明黄褐色の浮石（軽石）である。層の厚さはⅡa層で平均4cm程、Ⅱb層で平均10cm程を測る。また、B区においては、野中堂環状列石南東側の台地縁辺部では、沢部分に第Ⅱ層が厚さ15～20cm程を測る箇所も見受けられた。B区において確認された平安時代の溝状遺構は当該時期の遺構確認面である。

第Ⅲ層は、大湯浮石層から地山漸位層（第Ⅳ層）までの堆積層で、色調・堅さ・混入物の量によって5層に分層することができる。Ⅲa層は混入物をほとんど含まない黒色土層で、堅く締まっている。Ⅲb層も黒色土層であるが、堅さや粗密度からⅢa層とは区別される。Ⅲc層はチョコレート色に近い黒褐色土層で少量の地山粒を含む。Ⅲd層は、地山粒を少量含んだ黒褐色土層で、遺物包含層・遺構確認面である。また万座環状列石周辺や環状列石内でⅢc層よりⅢd層に近いがⅢd層とは異なる暗褐色のⅢd'層がみられることがあったが、本調査で地山面に環状列石外帯の粗石が構築されていることが確認されたことから、整地の可能性が考えられ、その排土である可能性が高い。第Ⅳ層は、地山直上の暗褐色土層で地山ブロックを多量に含み、締まりのある層である。第Ⅴ層は、申ヶ野火山灰と呼ばれる黄褐色土層で、十和田火山の火砕流にあたる。確認された遺構の掘り込みはすべてこの層まで達し、なかには本層下のシラス層まで達しているものもある。

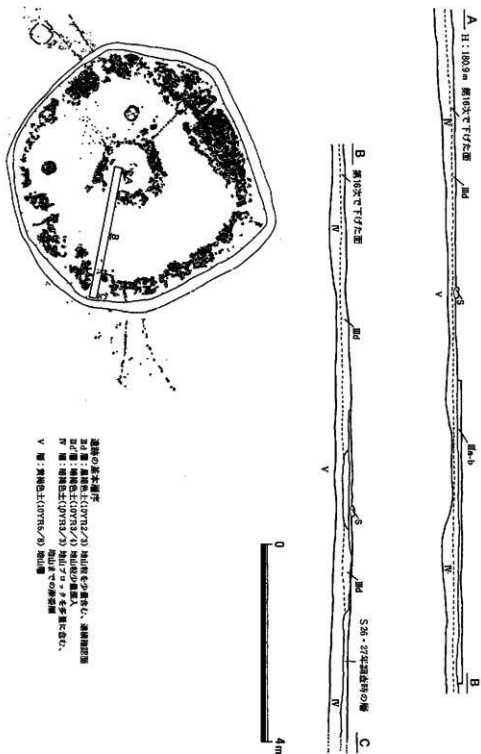
遺跡の地形

遺跡ののる台地の至る所から大小様々な沢が入り込み、起伏に富んだ地形であったことが基本層序から知ることができる。

縄文時代後期前葉が主な所産である環状列石、土坑、フラスコ状土坑は標高がほかより高い地域、言い換えれば目に付きやすい地点に構築されているといえる。

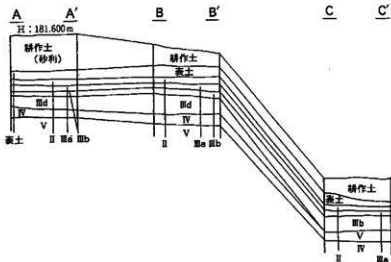
第 2 图 炮兵阵地示意图





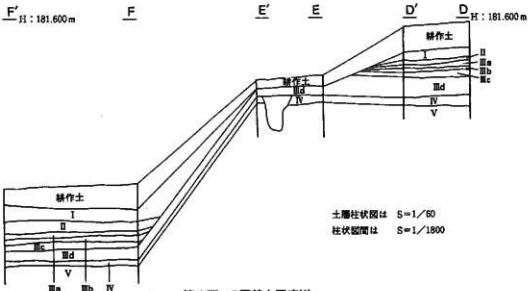
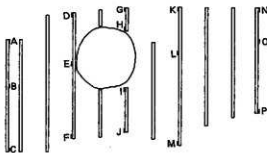
遺跡の基本層序
 M1d層：黄褐色土(10YR2/3) 堆山層を少量含む、遺跡埋没層
 M1c層：黄褐色土(10YR3/4) 堆山層を少量含む
 B層：黄褐色土(10YR3/3) 堆山層を多量に含む、
 堆山までの集積層
 V層：黄褐色土(10YR5/3) 堆山層

第3図 万座環状列石内トレンチ層序図



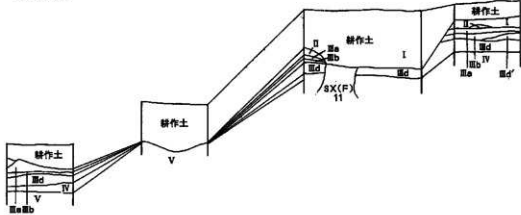
道路の基本層序

- I 層: 黒色土(10YR3/3) 耕作土
- II 層: 黒色土(10YR3/3) 耕作土
- III a 層: 黒色土(10YR3/3) シルト質火山灰
- III b 層: 暗褐色砂土(10YR5/4) 粒径0.5-4mmの浮石散
- III c 層: 黒色土(10YR3/3) シルト質
- III d 層: 黒色土(10YR3/3) シルト質で多数の地山塊を含む
- IV 層: 黒褐色土(10YR3/3) 全層に砂みをおびチョコレートに近い色調地山塊を少量含む。腐物混入層である。
- V 層: 暗褐色土(10YR3/4) 地山塊少量混入
- VI 層: 暗褐色土(10YR3/3) 地山塊少量混入
- VII 層: 暗褐色土(10YR3/3) 地山塊

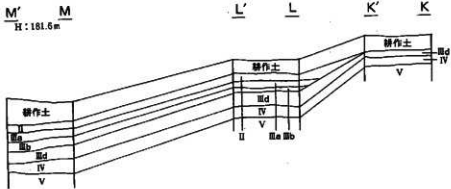


第4図 B区基本層序(1)

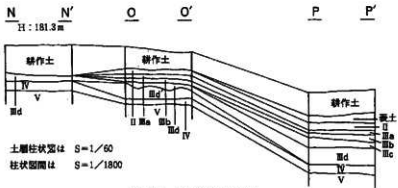
$\frac{J'}{H} : 182.00m$



$\frac{M'}{H} : 181.6m$



$\frac{N}{H} : 181.3m$



土層柱狀圖は $S=1/60$
柱狀圖間は $S=1/1800$

第5圖 B区基本層序(2)

第Ⅱ章 調査の概要

1. 調査要項

1. 遺跡名 特別史跡大湯環状列石
2. 調査目的 万座環状列石のフェンス下及び内・外帯間の遺構の分布を確認し、環境整備の資料とする。また、野中堂環状列石周辺の遺構分布状況を確認し、平成12年・13年度の発掘調査計画立案のための基礎資料を得る。

3. 調査地 D区 鹿角市十和田大湯字万座24-2・25番地

B区 鹿角市十和田大湯字野中堂2番地他

4. 発掘面積 D区・2,110㎡、 B区・1,800㎡ 合計 3,910㎡

5. 調査期間 発掘調査 平成11年4月20日～平成11年10月30日

整理・報告書作成 平成10年10月1日～平成11年3月31日

6. 調査主体者 鹿角市教育委員会

7. 調査担当者 鹿角市教育委員会 生涯学習課

(主任 藤井 安 正、 主任 花 海 義 人)

8. 調査参加者 調査指導 大野 憲 司 (秋田県教育庁文課 課長補佐)

調査員 鎌 田 健 一 (秋田県立十和田高等学校 教諭)

山 谷 昌 久 (小坂町立十和田小中学校 教諭)

岸 勉 (財秋田県資源技術開発機構

金属工業センター研究員)

調査補助員 柳 沢 和 仁、 松 田 隆 史

発掘・整理作業員

佐藤 一男、土井口敬三、三浦 茂雄、苗代沢ノブ、宮沢トミエ、

柳沢 勝江、川又 リサ、宮沢 カヨ、柳沢恵美子、兔沢サツ子、

柳沢 ミネ、木村千鶴江、田中美千栄、柳館 愛子、安村 ヨコ、

児玉 フア、田中 ミヤ、木村 キン、関 イサ、田中 栄子、

福島美紀子、黒沢 文子、成田由紀子、柳沢 ヤス、佐藤 敦子、

関 イサ、工藤 チエ

9. 事務局 鹿角市教育委員会・生涯学習課

課 長 奈 良 勝 哉

主席課長補佐 金 澤 文 好

課長補佐 村 木 伸 夫

主 査 秋 元 信 夫

主 任 藤 井 安 正

主 任 花 海 義 人

主 事 古 川 昭 子

10. 協力機関・協力者 文化庁文化財保護部記念物課、奈良国立文化財研究所
秋田県教育委員会、青森市教育委員会、
安村二郎、諏訪善綱

2. 調査の方法

調査区内のグリッドについては、第1次発掘調査以来のN-49°-Wを基準線とし、万座環状列石内の基準杭より延長し、5m単位の方眼を設定した。なお、B区については調査区内に基本的に20m間隔のトレンチを設定した。グリッドの名称はアルファベットと算用数字の組合せとし、西側の杭をもってグリッド名とした。

作業の効率化を図るため、本年度調査区に隣接する調査区の基本層序を参考に表土（第I層）除去については重機を導入した。遺物包含層や遺構確認面である基本層第Ⅲa～d層については人力による分層発掘とし、極力上面での遺構確認に努めた。

確認された遺構については発見順に番号を付したが、精査の結果遺構として認定できないものもあったことから欠番としているものもある。本調査は遺跡環境整備に係わる基礎資料を把握することが主目的であったことから、遺構は半数するに留め、遺構の保護を考慮したことから実測図に十分な情報が提示されていないものもある。

遺構の実測図作成についてはグリッド杭を使用し、簡易遣り方測量を用い1/20で図化した。

なお、万座環状列石の実測については、ラジコンヘリによる航空写真実測により1/40で図化した。

遺物の取り上げについては、各グリッド・各層ごとに一括して取り上げたが、復元土器・一
個体土器、石製品、土製品については出土位置・出土状況の写真撮影を行い、遺構内については、出土レベル等の記録を行い取り上げるように努めた。

写真撮影については3台のカメラを使用し、調査の各段階ごとにフィルムに納めた。

3. 調査の経過

特別史跡大湯環状列石第16次発掘調査は平成11年4月20日より開始し、全調査を終了したのは10月30日である。なお、12月7日より4日間を費やし遺構の埋め戻しを人力で行なった。

4月16・19日に調査区的环境整備と調査準備を調査員・補助員で行なう。

4月20日、調査作業員へ事務連絡、調査目的説明のあとB区89・93ライトレンチの調査を行なう。4月23日には柱穴状ピット、フラスコ状土坑等の遺構が検出され始める。

その後、トレンチ調査は東側へと移動しながら、多数の遺構、多量の遺物を検出した。

6月2日より万座環状列石のフェンス下、D区に調査を移し、これまで未確認であった建物跡の柱穴状ピットやフラスコ状土坑、立石をもつ土坑を確認する。遺構の精査については随時行い遺構半敷・土層断面図作成・写真撮影を行なう。

6月28日には万座環状列石内・外帯間のⅢa～Ⅲb層除去作業に移行する。南東側から調査を始め、時計回りで作業を進め、東側部分では、礫群や川原石を検出する。7月6日には内帯・外帯間で予想もしなかった方形配石を検出、次いで内帯から外帯に延びる直線の配石列を確認し、現場が盛り上がる。

同9日より外帯の組石露出作業も同時進行することとし、北側出入口付近組石より大型土偶の右手部分が見つかり、同じく組石隣接地より右足大腿部付近もみつかる。その後、これらが以前F区見つかっている左足と旧大湯中学校から寄贈された左手と同一個体であることが判明し、国内最大級の大型中空土偶として注目を集めた。

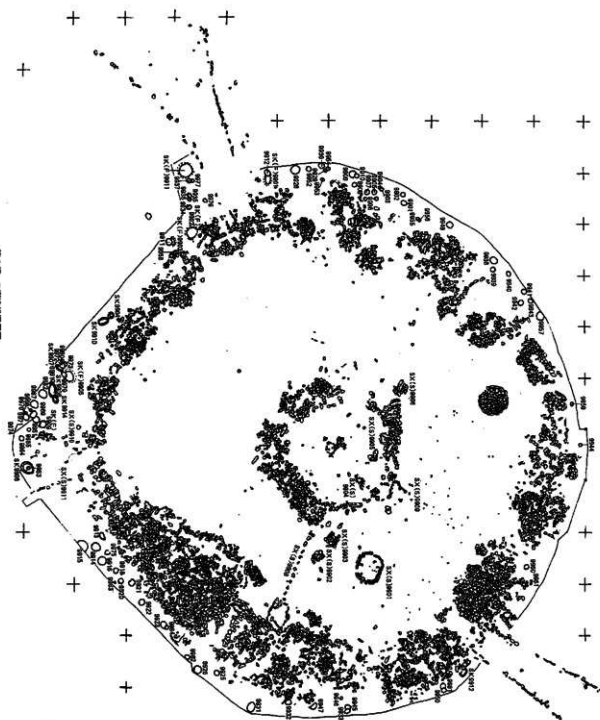
D区の調査も終盤を迎えたことから、一時中断していたB区の調査を7月22日より再開する。引き続き多数の遺構が確認され、遺構数は10月上旬で柱穴状ピット70基余り、フラスコ状土坑・土坑計21基となり、調査最終日までD区・B区において総計57基の遺構を確認した。

7月24日、10月1日には環境整備検討委員会検討委員の現地視察があり、調査全般にわたる指導と助言を受けた。

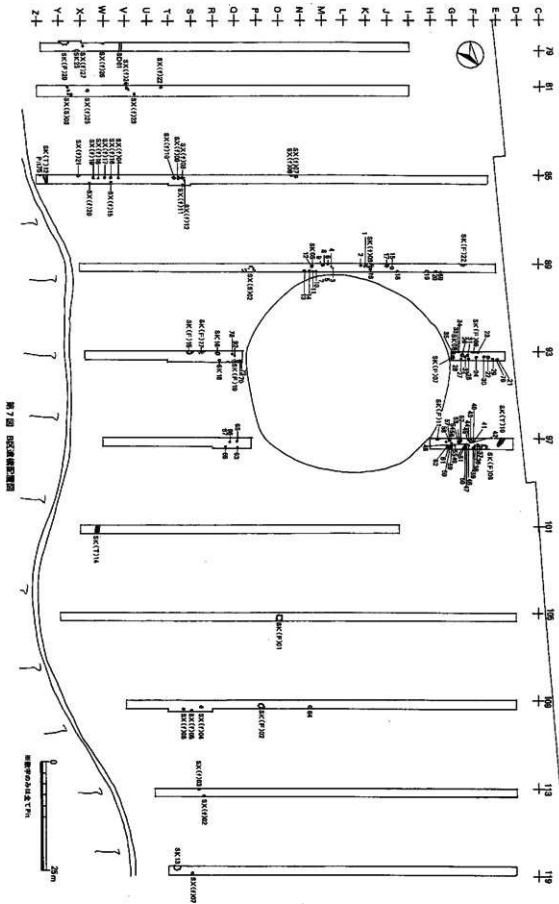
10月30日には、遺構の精査と作業を終了した。

11月3日には現地説明会を行い、多数の参加者があった。

なお、環境整備事業の一環として、万座環状列石の組石復元作業を11月21～25日にかけて行い発見当時の姿を再現した。



第6図 Ogasawara Shoto



第三章 D区検出遺構と出土遺物

D区において、確認された縄文時代の遺構は、柱穴状ピット89個、配石列4条、配石遺構6基、フラスコ状土坑7基、土坑7基である。

1. 建物跡と柱穴状ピット

D区からは89個の柱穴状ピットが確認された。それらはこれまで、万座環状列石周囲を取り囲んでいたフェンス下から検出した。柱穴状ピットの輪郭は基本層序第Ⅲd層で確認された。

柱穴状ピットの規模は径18cm～130cm、深さ9cm～164cmを測る。確認される柱痕は径11cm～49cmである。なお本報告書では、本調査で明確となった、これまでの万座環状列石周囲でその存在が予想されていた、建物跡8棟について記載する。なお、建物跡番号及びピット番号については旧番号を付し、本調査区出土のピットについては9900番台を付している。

柱穴状ピットからは、縄文土器破片が出土している。

第01号建物跡（第8図）

第15次調査・D区、ZO-83・84グリッドにおいて確認されていたものである。万座環状列石南側より延びる南側出入口部分と思われる配石列と重複し、本遺構が古い。第02号・第03号建物跡、第9901号フラスコ状土坑とも重複し、その新旧関係はSB02→SB01→SB03→SK(F)9901である。建物跡を構成する6個の柱穴状ピットのうち本調査で確認した北側の柱穴は第9901号フラスコ状土坑と重複し、崩壊されている。

ピット2、6、15、19、20、第9901号フラスコ状土坑内(a) |旧番号| を柱穴とする6本柱の建物で、長辺2.84m×短辺3.80m、張り出し部軸長4.02mを測る。軸長方向はN-49°-Wである。

柱穴の掘り方は径55cm～63cm、深さ59cm以上～95cmを測る。

建物柱穴より縄文後期の土器破片が出土している。

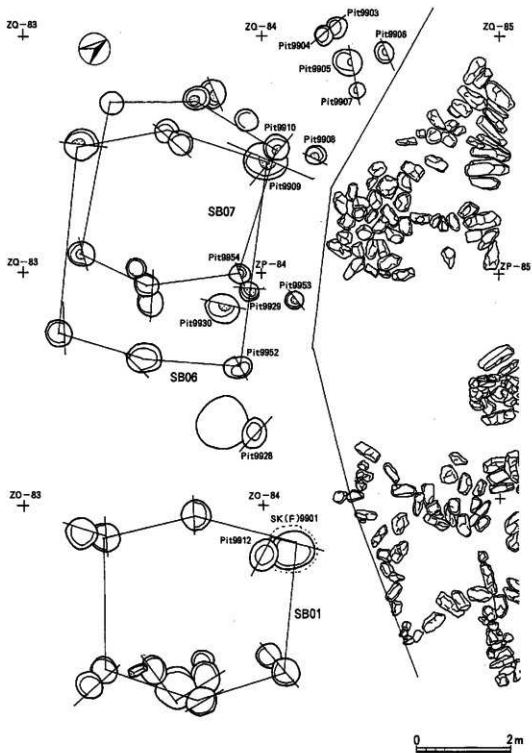
第06号建物跡（第8図、第23図）

第15次調査・D区、ZP-83、ZQ-83グリッドにおいて確認されていたものである。第07号建物跡と重複し、本建物跡が古い。

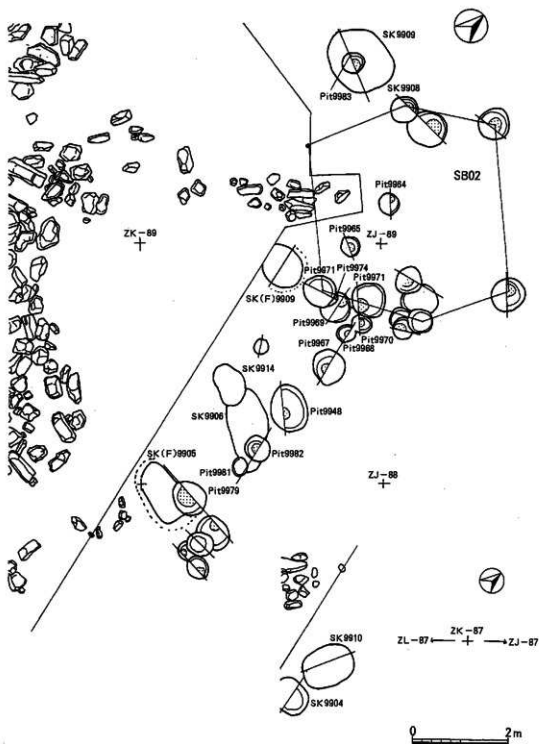
ピット25、26、29、32とフェンス下で確認したピット9954(b)、9909(c) |旧番号| を柱穴とする6本柱の建物で、長辺3.99m、張り出し軸長4.64mを測り、軸長方向はN-54°-Wである。

柱穴の掘り方は径50cm～70cm、深さ101cm～108cmを測る。ピット29より径35cmの柱痕が確認された。

本遺構ピットより縄文後期の土器破片が出土している。



第8图 D区建物跡実測図(1)



第9图 D区建物跡実測图(2)

第07号建物跡（第8図）

第15次調査・D₂区、ZP-83、ZQ-83グリッドで確認されていたものである。第06号建物跡と重複し、本遺構が新しい。ビット28、40、73、103とフェンス下に存在するビット9954（d）〔旧番号〕、9910（e）〔旧番号〕を柱穴とする6本柱の建物で長辺3.25m、張り出し軸長4.06mを測り、軸長方向はN-41°-Wである。

柱穴の掘り方は径47cm～55cm、深さ82cm～85cmを測り、ビット規模はほぼ均一している。ビット28を除き径17cm～20cmの柱痕が確認された。

建物柱穴より縄文後期の土器破片、板状土製品が出土している。

第02号建物跡（第9図）

万座環状列石の南東側、第12次調査区であるD₂区、ZI・ZJ-88・89グリッドにおいて確認されていたものである。第9910配石列と重複し、本遺構が古い。

ビット7、20、28、30とフェンス下に存在していたビット9951（f）〔旧番号〕と未調査地であるgを柱穴とする6本柱の建物で、長辺4.60m×短辺3.80mを測り、長軸方向はN-37°-Eである。

柱穴の掘り方は径55cm～74cm、深さ85cm～120cmを測る。

建物柱穴より縄文後期の土器破片が出土している。

第06号建物跡（第11図）

万座環状列石の南側、第12次調査区であるD₂区、ZM-84・85グリッドに位置していたもので、第07号建物跡、第9911号フラスコ状土坑と重複し、本遺構がいずれより古い。

ビット78、107、108と本調査で確認したビット9934、9936、第9911号フラスコ状土坑によって転用されたビットを柱穴とする6本柱の建物で、長辺3.24m×短辺1.93m、張り出し長軸は3.80mを測る。長軸方向はN-76°-Wである。

柱穴の掘り方は径40cm～58cm、深さ75cm～100cmを測る。

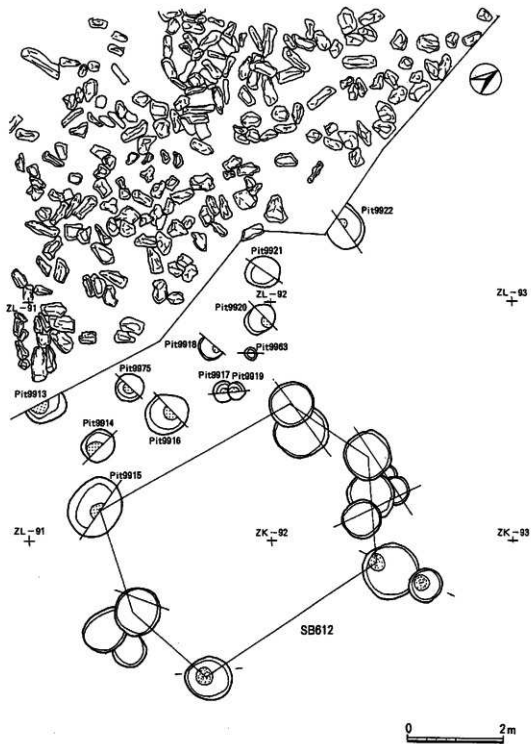
本遺構ビットより遺物は出土しなかった。

第07号建物跡（第11図）

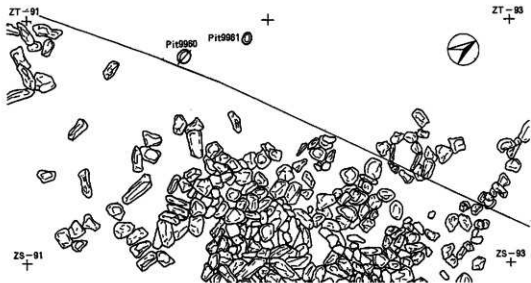
万座環状列石の南側、第12次調査区であるD₂区、ZM-84・85グリッドに位置していたもので、第06号建物跡と重複し、本遺構が新しい。

ビット38、80、78、45、9937、9935を柱穴とする6本柱の建物で、長辺2.80m×短辺1.40m、張り出し部軸長4.00mを測り、軸長方向はE-10°-Sである。

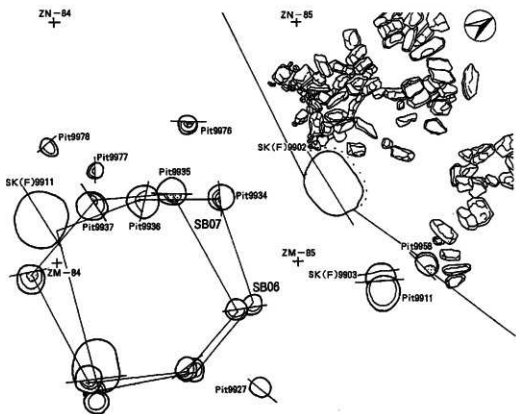
柱穴の掘り方は径30cm～58cm、深さ75cm～110cmを測り、径21cm～30cmの柱痕が確認された。建物柱穴より。



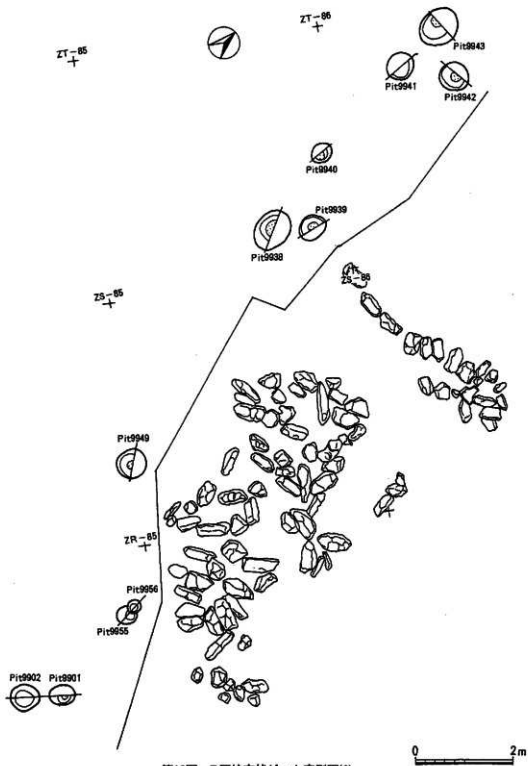
第10图 D区建物跡实测图(3)



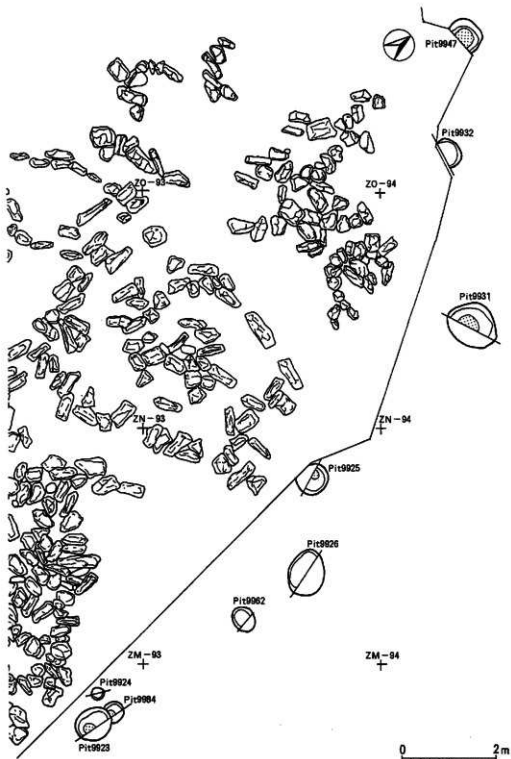
第10図 D区柱穴状ピット実測図(1)



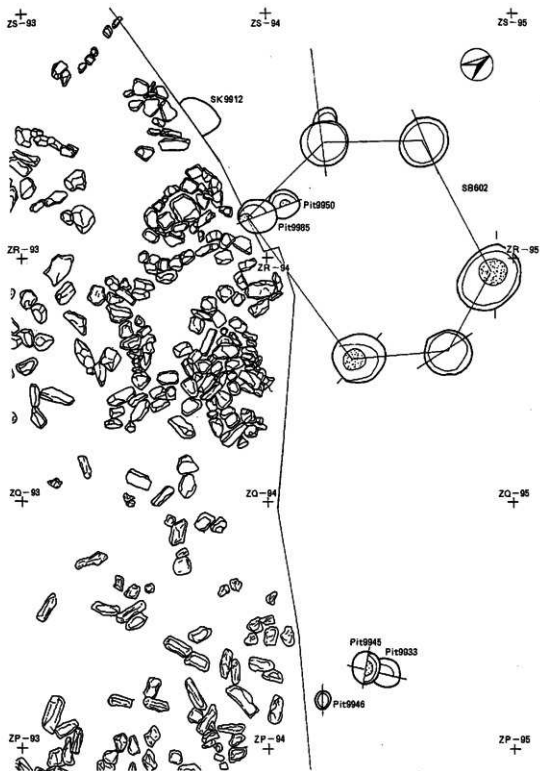
第11図 D区建物跡実測図(4)



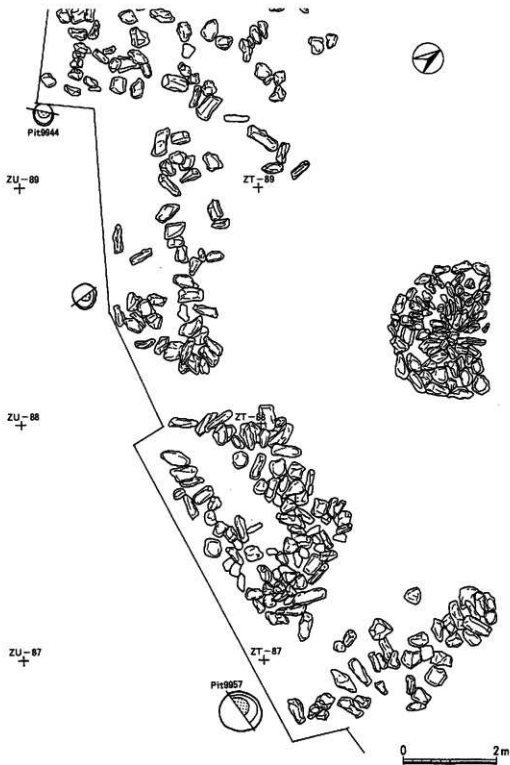
第13図 D区柱穴状ビット実測図(2)



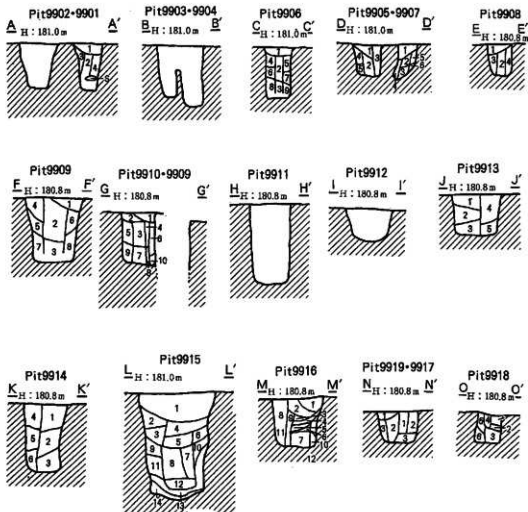
第14図 D区柱穴状ピット実測図(3)



第15图 D区建物跡実測图(4)



第16図 D区柱穴状ピット実測図(5)



Pit9901

1. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化層、PPA埋入
2. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
3. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
4. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
5. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
6. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
7. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入、白色腐食土層
8. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入

Pit9909

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 暗褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. 黒褐色土(OYR2/2)
7. 黒褐色土(OYR2/2)
8. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9915

1. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
2. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
3. 灰褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
4. α -Pイソ腐食土(OYR2/2) 腐化層、黄土埋入
5. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
6. 黒褐色土(OYR2/2) α -P埋入、腐化埋入
7. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
8. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
9. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
10. 暗褐色土(OYR2/2) トラス酸、腐化埋入
11. 暗褐色土(OYR2/2)
12. 暗褐色土(OYR2/2)

Pit9902

1. 黒褐色土(OYR2/1)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9910

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 暗褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. α -Pイソ腐食土(OYR2/2)
7. 黒褐色土(OYR2/2)
8. 黒褐色土(OYR2/2)
9. 黒褐色土(OYR2/2)
10. 黒褐色土(OYR2/2)
11. 黒褐色土(OYR2/2)
12. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9916

1. 暗褐色土(OYR2/1) 腐化埋入
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. α -Pイソ腐食土(OYR2/2)
7. 暗褐色土(OYR2/2)
8. 暗褐色土(OYR2/2)
9. 暗褐色土(OYR2/2)
10. α -Pイソ腐食土(OYR2/1)
11. 黒褐色土(OYR2/1)
12. 暗褐色土(OYR2/2)

Pit9906

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/1) 腐化埋入
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
6. 黒褐色土(OYR2/2)
7. 黒褐色土(OYR2/2)
8. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9913

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9917

1. α -Pイソ腐食土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9918

1. α -Pイソ腐食土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/1)

Pit9907

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. 灰褐色土(OYR2/2)

Pit9914

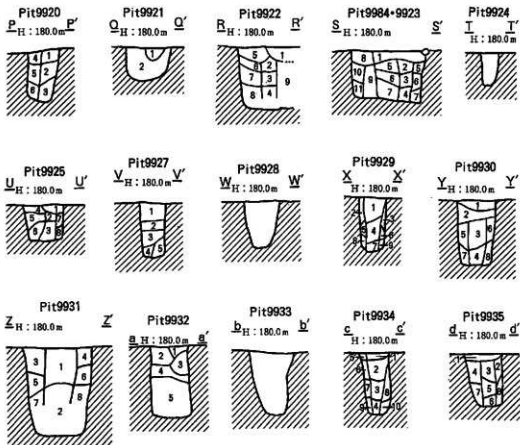
1. 黒褐色土(OYR2/2) 腐化埋入
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/2)
4. 黒褐色土(OYR2/2)
5. 黒褐色土(OYR2/2)
6. 黒褐色土(OYR2/2)
7. 黒褐色土(OYR2/2)
8. 黒褐色土(OYR2/2)

Pit9919

1. 黒褐色土(OYR2/2)
2. 黒褐色土(OYR2/2)
3. 黒褐色土(OYR2/1)



第17図 D区柱穴状ピット断面図(1)



Pit9920

1. 黒色土(09YR2/1)
2. 黒褐色土(09YR2/2)
3. 黒褐色土(09YR2/3)
4. 赤色土(09YR2/4)
5. 暗褐色土(09YR2/5)
6. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9921

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒色土(09YR1.5/2)

Pit9927

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒褐色土(09YR4/2)
3. 黒褐色土(09YR4/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒色土(09YR2/1)

Pit9922

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 暗褐色土(09YR2/3)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2) 破化物混入
6. 黒褐色土(09YR2/2) 破化物混入

Pit9929

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒褐色土(09YR2/2)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2)
6. 黒褐色土(09YR2/2) 破化物混入
7. 黒褐色土(09YR2/2)
8. 黒褐色土(09YR2/2)
9. 黒褐色土(09YR2/2)
10. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9933

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒褐色土(09YR2/2)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2)
6. 黒褐色土(09YR2/2) 破化物混入
7. 黒褐色土(09YR2/2)
8. 黒褐色土(09YR2/2)
9. 黒褐色土(09YR2/2)
10. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9923

1. 黒色土(09YR2/1)
2. 黒色土(09YR2/1)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 暗褐色土(09YR4/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2)
6. 暗褐色土(09YR4/2) 破化物混入
7. 暗褐色土(09YR2/3)

Pit9930

1. 暗褐色土(09YR4/2) 破化物混入
2. 暗褐色土(09YR2/2) 破化物混入
3. 黒褐色土(09YR2/2) 破化物混入
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2)
6. 黒褐色土(09YR2/2)
7. 黒褐色土(09YR2/2)
8. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9935

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 暗褐色土(09YR2/3)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒色土(09YR2/1)
6. 黒色土(09YR2/1)
7. 暗褐色土(09YR2/3)
8. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9925

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒褐色土(09YR2/2)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 黒褐色土(09YR2/2)
5. 黒色土(09YR2/1)
6. 暗褐色土(09YR4/2)
7. 暗褐色土(09YR2/3)

Pit9931

1. 黒褐色土(09YR2/2)
2. 黒褐色土(09YR2/2)
3. 黒褐色土(09YR2/2)
4. 暗褐色土(09YR4/2)
5. 黒褐色土(09YR2/2)
6. 暗褐色土(09YR4/2)
7. 暗褐色土(09YR2/2)
8. 黒褐色土(09YR2/2)

Pit9929

1. 暗褐色土(09YR2/2)
2. 暗褐色土(09YR2/2)
3. 暗褐色土(09YR2/2)
4. 暗褐色土(09YR2/2)
5. 暗褐色土(09YR2/2)
6. 暗褐色土(09YR2/2)
7. 暗褐色土(09YR2/2)
8. 暗褐色土(09YR2/2)
9. 暗褐色土(09YR2/2)
10. 暗褐色土(09YR2/2)
11. 暗褐色土(09YR2/2)

Pit9934

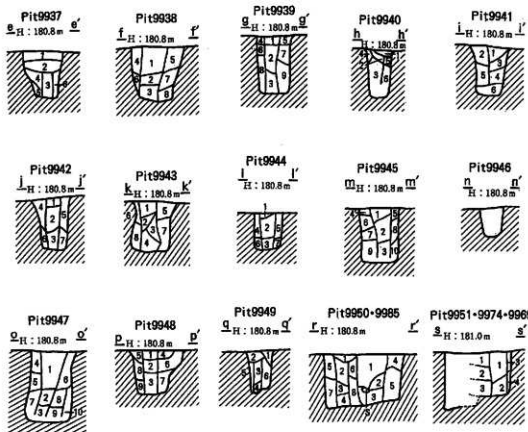
1. 暗褐色土(09YR2/2)
2. 暗褐色土(09YR2/2) 破化物混入
3. 暗褐色土(09YR2/2)
4. 暗褐色土(09YR2/2)
5. 暗褐色土(09YR2/2)
6. 暗褐色土(09YR2/2)
7. 暗褐色土(09YR2/2)
8. 暗褐色土(09YR2/2)
9. 暗褐色土(09YR2/2)
10. 暗褐色土(09YR2/2)
11. 暗褐色土(09YR2/2)
12. 暗褐色土(09YR2/2)

Pit9935

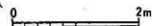
1. 暗褐色土(09YR2/2)
2. 暗褐色土(09YR2/2) 破化物混入
3. 暗褐色土(09YR2/2)
4. 暗褐色土(09YR2/2)
5. 暗褐色土(09YR2/2)
6. 暗褐色土(09YR2/2)
7. 暗褐色土(09YR2/2)
8. 暗褐色土(09YR2/2)
9. 暗褐色土(09YR2/2)
10. 暗褐色土(09YR2/2)
11. 暗褐色土(09YR2/2)
12. 暗褐色土(09YR2/2)



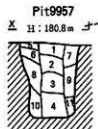
第18図 D区柱穴状ピット断面図(2)



- | | | | | |
|---|--|--|--|--|
| <p>Pit9937</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 4. 灰褐色土(10YR4/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9938</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 5. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物、粘土混入 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 | <p>Pit9939</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 6. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 7. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 8. 黒褐色土(10YR3/2) 9. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9940</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黄褐色土(10YR4/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9941</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) |
| <p>Pit9942</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黄褐色土(10YR4/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9943</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黄褐色土(10YR4/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) 9. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9944</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9945</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) 9. 黒褐色土(10YR3/2) 10. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9946</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) |
| <p>Pit9947</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) 9. 黒褐色土(10YR3/2) 10. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9948</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗褐色土(10YR3/3) 2. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物混入 3. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物混入 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 9. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 | <p>Pit9949</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9950-9985</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) 5. 黒褐色土(10YR3/2) 6. 黒褐色土(10YR3/2) 7. 黒褐色土(10YR3/2) 8. 黒褐色土(10YR3/2) 9. 黒褐色土(10YR3/2) 10. 黒褐色土(10YR3/2) | <p>Pit9951-9974-9969</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色土(10YR3/2) 2. 黒褐色土(10YR3/2) 3. 黒褐色土(10YR3/2) 4. 黒褐色土(10YR3/2) |



第19図 D区柱穴状ピット断面図(3)



Pit9963

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR2/3)
3. 黒褐色土(10YR2/3)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黒褐色土(10YR2/3)
6. 黒褐色土(10YR2/3)
7. 黒褐色土(10YR2/3)

Pit9969

1. 黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
2. 黄褐色土(10YR3/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 黒色土(10YR2/1)
6. 黒褐色土(10YR2/3)
7. 黒褐色土(10YR2/1)
8. 黒褐色土(10YR2/2)
9. 黒褐色土(10YR2/1)
10. 黒褐色土(10YR2/2)
11. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit9964

1. 黒褐色土(10YR2/1)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit9964

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黒褐色土(10YR3/2)

Pit9965

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 黄褐色土(10YR4/3)
4. 黄褐色土(10YR4/3)

Pit9967

1. 黄褐色土(10YR4/3)
2. 黒褐色土(10YR4/4) 炭化物、シラス粒混入
3. 黒褐色土(10YR4/2) 炭化物、シラス粒混入
4. 褐色土(10YR4/4) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

Pit9967

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR4/3)
3. 黄褐色土(10YR5/3)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黄褐色土(10YR5/6)
6. 黄褐色土(10YR2/2)
7. 褐色土(10YR4/4)
8. 褐色土(10YR2/1)
9. 明黄褐色土(10YR6/6)
10. 黒色土(10YR2/1)
11. 黄褐色土(10YR4/2)

Pit9969

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. ニオイ黄褐色土(10YR4/3)
4. 黄褐色土(10YR3/2)
5. ニオイ黄褐色土(10YR4/3)

Pit9968

1. 黄褐色土(10YR6/3) 炭化物混入
2. 黄褐色土(10YR4/2) 炭化物混入
3. 黄褐色土(10YR4/2)
4. 黄褐色土(10YR5/2)
5. 黄褐色土(10YR4/3)
6. 黄褐色土(10YR4/3)

Pit9968

1. 黄褐色土(10YR2/2)
2. 褐色土(10YR4/4)
3. 黄褐色土(10YR3/3)
4. 黄褐色土(10YR3/2)
5. 褐色土(10YR2/1)
6. 黄褐色土(10YR4/3)

Pit9970

1. 黄褐色土(10YR4/3)
2. 黄褐色土(10YR3/2)
3. 黄褐色土(10YR5/3)
4. 褐色土(10YR4/6)

Pit9971

1. 褐色土(10YR4/4)
2. 明黄褐色土(10YR6/6)
3. 黄褐色土(10YR3/2)
4. 黄褐色土(10YR5/3)
5. 黄褐色土(10YR3/3) シラス粒混入
6. 黄褐色土(10YR3/2)



第20図 D区柱穴状ビット断面図(4)



Pit9980

1. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
2. 褐色土(10YR4/4)
3. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
4. ヌブイ黄褐色土(10YR5/4)
5. ヌブイ黄褐色土(10YR5/3)

Pit9975

1. 黄褐色土(10YR4/3)
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit9976

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒色土(10YR2/1)
6. 黒色土(10YR2/1)

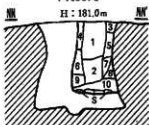
Pit9977

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒褐色土(10YR2/3)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit9973

1. 黄褐色土(10YR5/3)
2. 黄褐色土(10YR5/4)
3. 黄褐色土(10YR5/4)

Pit9979



Pit9979

1. 黄褐色土(10YR5/4) 炭化物混入
2. 黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2)
7. 黄褐色土(10YR5/4)
8. 黒褐色土(10YR2/2)
9. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

Pit9978



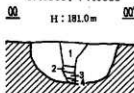
Pit9906

1. 褐色土(10YR4/4)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
4. 暗褐色土(10YR3/3)
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR2/2)

SK9906, Pit9982-9981



SK9908, Pit9983



Pit9983

1. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入



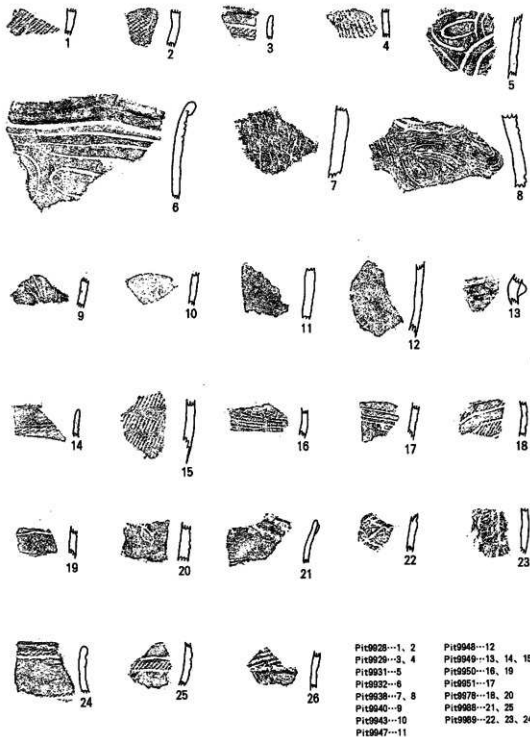
第21図 D区柱穴状ビット断面図(5)

第1表

D区柱状ビット一覽表(1)

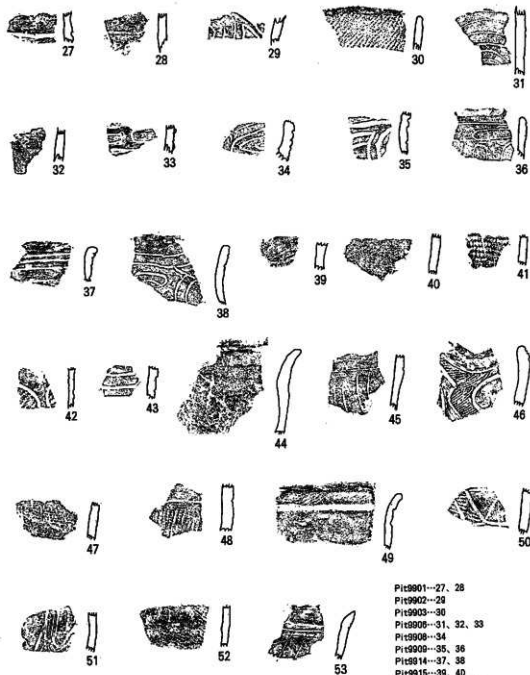
(新旧關係は同一新で表記。表記のないものは新旧關係不明)

ビット 番 号	グライド	規 格 (mm) 長さ×幅×高さ	重複關係	ビット 番 号	グライド	規 格 (mm) 長さ×幅×高さ	重複關係
9901	Z R-8 4	50×40×(74)		9941	Z T-8 6	58×50×80	
9902	Z R-8 4	63×57×(89)		9942	Z T-8 6	65×50×83	
9903	Z R-ZR-94	43×40×83	P9903-P9904	9943	Z T-8 6	95×63×79	
9904	Z R-ZR-94	62×39×93	P9903-P9904	9944	Z U-8 9	48×50×61	
9905	Z Q-8 4	66×51×53		9945	Z Q-9 4	64×49×(80)	
9906	Z Q-8 4	51×39×(100)		9946	Z Q-9 4	26×22×49	
9907	Z Q-8 4	33×33×56		9947	Z P-9 4	73×69×(112)	
9908	Z Q-8 4	48×40×49		9948	Z K-8 8	98×78×69	
9909	Z Q-83-94	93×74×(101)		9949	Z S-85-86	82×48×66	
9910	Z Q-8 4	53×49×83		9950	Z S-83-94	59×56×84	P9950-P9955
9911	Z M-8 5	78×65×124	SKP9903-P9911	9951	Z K-8 8	89×65×70	P9909-P74→51
9912	Z O-8 4	78×59×82	SKP9901-P9912	9952	Z P-8 9	59×43×77	
9913	Z L-9 1	82×78×63		9953	Z P-8 4	40×37×70	
9914	Z L-9 1	76×57×104		9954	Z S-83-84	41×38×60	
9915	Z L-9 1	130×130×164		9955	Z R-8 4	42×35×40	P9955-P9956
9916	Z L-9 1	116×82×79		9956	Z R-8 4	28×28×43	P9955-P9956
9917	Z L-9 1	46×43×51	P9917-P9919	9957	Z U-8 6	100×84×117	
9918	Z L-9 1	72×58×60		9958	Z M-8 6	62×38×67	
9919	Z L-9 1	47×35×46	P9917-P9919	9959	Z U-8 8	51×44×86	
9920	Z L-9 1	63×62×83		9960	Z U-9 0	x x	
9921	Z M-91-92	77×66×55		9961	Z U-9 0	x x	
9922	Z M-9 2	80×90×78		9962	Z N-9 3	60×44×	
9923	Z M-9 2	77×50×82	P9904-P9923	9963	Z L-9 1	29×27×26	
9924	Z M-9 2	38×27×61		9964	Z J-8 9	43×36×32	
9925	Z N-9 3	63×60×56		9965	Z S-88-89	43×42×39	
9926	Z N-9 3	102×85×		9966	Z K-8 8	34×31×46	
9927	Z M-8 4	39×39×86		9967	Z K-8 8	70×63×98	
9928	Z P-8 3	95×83×(73)	SKP9918→P9928	9968	Z K-8 6	38×34×56	
9929	Z P-8 3	46×39×65		9969	Z K-8 8	62×62×90	P9959-P74→51
9930	Z P-8 3	72×58×100		9970	Z K-8 8	48×35×36	
9931	Z O-9 4	106×96×(138)		9971	Z K-8 8	74×70×58	
9932	Z P-9 4	65×58×113		9972	Z K-8 7	55×53×59	
9933	Z Q-9 4	64×56×(98)		9973	Z K-8 7	46×42×(54)	
9934	Z N-8 4	51×51×96		9974	Z K-8 8	40×38×88	P9909-P74→51
9935	Z N-8 4	39×56×80		9975	Z L-9 1	60×35×(130)	
9936	Z N-8 4	68×66×		9976	Z N-8 4	40×40×40	
9937	Z N-8 4	51×60×78		9977	Z N-8 4	56×56×47	
9938	Z T-8 5	82×71×89		9978	Z S-83-84	67×32×46	
9939	Z T-8 5	66×51×92		9979	Z K-8 7	76×60×(113)	SKP9905-P9979
9940	Z T-8 5	45×35×(77)		9980	Z K-8 7	47×40×44	



第22図 D区柱穴状ビット出土土器拓影図(1)

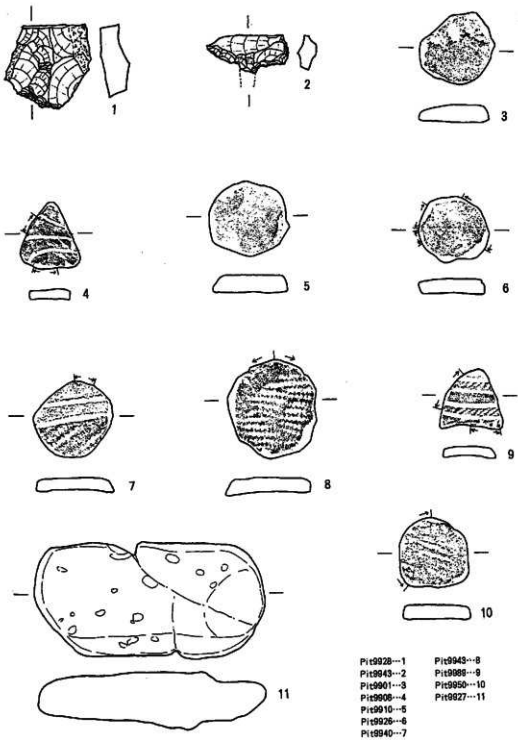
0 10m



- Pit9901--27, 28
- Pit9902--29
- Pit9903--30
- Pit9906--31, 32, 33
- Pit9908--34
- Pit9909--35, 36
- Pit9914--37, 38
- Pit9915--39, 40
- Pit9916--41, 42, 43
- Pit9920--44
- Pit9921--45
- Pit9923--46, 47, 48
- Pit9926--49, 50, 51
- Pit9927--52, 53

第23図 D区柱穴状ピット出土土器拓影図(2)

0 10m



第24図 D区柱穴状ビット出土土製品・石製品実測図

0 5cm

第602号建物跡（第15図）

万座環状列石の北側、第11次調査区であるD₇区、Z R・Z S-94・95グリッドで確認していたものである。ビット 604、612、621、630、1095とフェンス下で確認したビット9985を柱穴とする6本柱の建物で長辺3.30、短辺3.30m、張り出し軸長4.92mを測り、軸長方向はN-78°-Wである。

柱穴の掘り方は径91cm~135cm、深さ107cm~142cmを測り、確認された柱痕は径28cm~52cmである。

本遺構ビットより遺物は出土しなかった。

第612号建物跡（第10図）

万座環状列石の東側、第11次調査区であるD₇区、Z K-91・92、Z L-93・94グリッドで確認していたものである。ビット 963、969、972、976、1021とフェンス下で確認したビット9915を柱穴とする6本柱の建物で長辺4.40、短辺3.95m、張り出し軸長5.80mを測り、軸長方向はN-8°-Eである。

柱穴の掘り方は径98cm~139cm、深さ93cm~132cmを測り、確認された柱痕は径39cm~50cmである。

本遺構ビットより縄文後期土器破片が出土している。

2. 配石遺構

(1) 配石遺構

第9901号配石遺構（第25図）

万座環状列石内帯・外帯間のZ Q-91・92グリッドに位置し、Ⅲ d層上面において確認した。形態的にはこれまで万座環状列石周辺で確認されている環状配石遺構や方形配石遺構双方の要素を持ち合わせている。

15~60cm大の扁平な川原石を連結させるように2列並べを基本として置かれ、環帯部径2.60m、環帯幅0.40m前後を測る。配石内の北側帯辺中間には割れた立石があり、南側帯辺中間には立石であった可能性の高い川原石が内側に倒れていた。その石の下には縄文時代中葉の磨消縄文と沈線によって文様が描かれた深鉢形土器の破片が確認された。また、配石内東西隅にも川原石が立てられていたものと判断した。

石材は石英閃緑玢岩が約9割を占め、安山岩、石英安山岩が混じる。

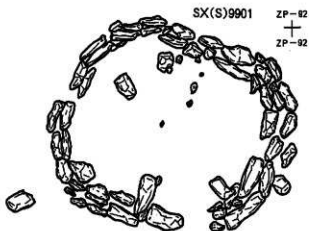
万座環状列石との新旧関係は不明である。

第9902号配石遺構（第27図）

万座環状列石内帯・外帯間のZ P-91グリッドに位置し、Ⅲ d層上面において確認した。や

+

ZR-91



ZQ-92

+

ZQ-92



第25図 D区第9901号・第9903号配石遺構実測図

や崩壊しているが、中央に立石を据え、それを囲むように石を組み合わせた構造をもつものと推定される。中央の立石は60cmを測る。

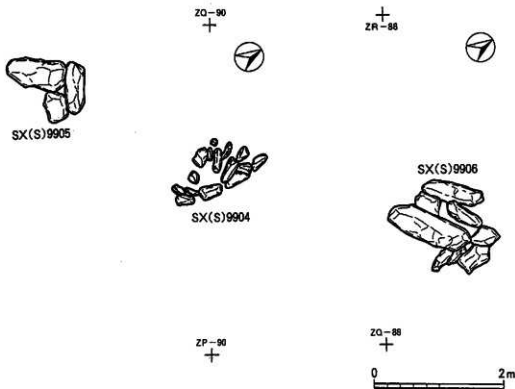
石材は1点のみ安山岩で、全て石英閃緑玢岩である。

第9903号配石遺構（第25図）

万座環状列石内帯・外帯間のZQ・ZP-91グリットに位置し、Ⅲd層上面において確認した。やや崩壊しているが、平石をやや方形に地面に置き、北側に立石を据える構造をもつものと推定される。北側の立石は90cmを測る。石材は、石英閃緑玢岩が大半を占め、泥岩、凝灰岩、石英安山岩が混じる。

第9904号配石遺構 (第26図)

万座環状列石内帯のZQ-89・90グリットに位置し、Ⅲd層上面において確認した。中央に立石を据え、それを囲むように石を組み合わせた構造をもつものと推定される。立石と思われる石は熱を受け、崩壊が著しい。石材は、石英閃緑玢岩が大半を占め、泥岩、緑色凝灰岩が混じる。



第26図 D区第9904号・第9905号・第9906号配石遺構実測図

第9905号配石遺構 (第26図)

万座環状列石内帯のZQ-89グリットに位置し、Ⅲd層上面において確認した。崩壊が著しく形態は不明であるが、立石をもつ構造であることは明確である。立石は88cmを測る。石材は、石英閃緑玢岩である。

第9906号配石遺構 (第26図)

万座環状列石内帯・外帯間のZR-88グリットに位置し、Ⅲd層上面において確認した。中央に立石を据え、それを囲むように石を組み合わせた構造をもつものと推定される。中央の立石は132cmを測り、かなり大きめである。石材は、石英閃緑玢岩が大半を占め、石英安山岩が1点混じる。

② 配石列

第9908号配石列（第27図）

万座環状列石内帯・外帯間のZ P-91・92、Z O-92グリッドに位置し、Ⅲ d層上面において確認した。

配石は準大～40cm大の川原石を連結させるように、内帯から外帯へ延びるように置かれ、長さは4.52mを測る。また、本配石列ののびる万座環状列石外帯には昭和26・27年国営調査時にNo12と付した組石が付加しているが、当時の組石下の調査において本組石下に土坑がないことから、本配石列の一部である可能性が考えられる。

使用されている石の石質は、石英閃緑岩が大半を占め、緑色凝灰岩が混じる。

第9909号配石列（第28図）

万座環状列石内帯・外帯間のZ R-90、Z S-90・91グリッドに位置し、Ⅲ d層上面において確認した。

やや崩壊しているが、配石は準大の礫や川原石を連結させるように、内帯から外帯へ延びるように置かれ、長さは11.20mを測る。

石の石材は石英閃緑岩の他、凝灰岩、緑色凝灰岩、石英安山岩がみられる。

第9910・9911号配石列（第29図）

万座環状列石外帯から東側方向にはほぼ直線状に延びる二列の配石列で、大きき10～60cm大の礫、縦長、扁平な川原石の長軸を連結させるように並べられている。長さは第9910が5.4m、第9911号配石列が6.6mを測る。

万座環状列石と一体となったものであったと考えられる。

石の石材は石英閃緑岩が大半を占める。

3. 土 坑

(1) フラスコ状土坑

第9901号フラスコ状土坑（第30図、第32・33図）

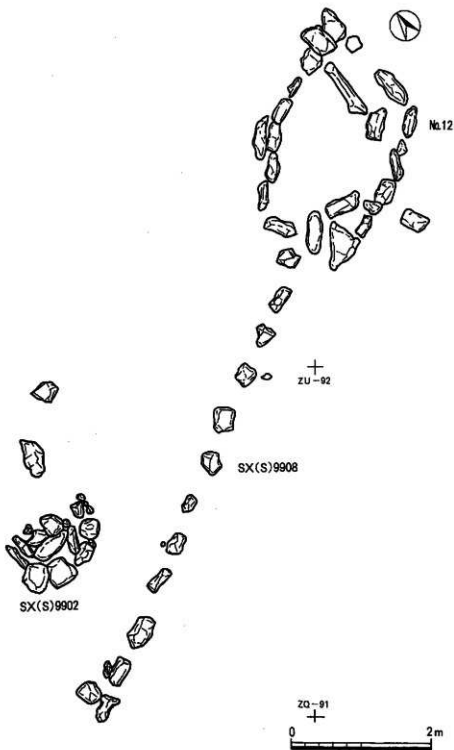
万座環状列石南側Z O-84グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。第9912号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

推定口縁部径は95cm×74cm、底部径112cmを測り、確認面からの深さは推定86cmである。堆積土は7ブロックに区分され人為堆積である。

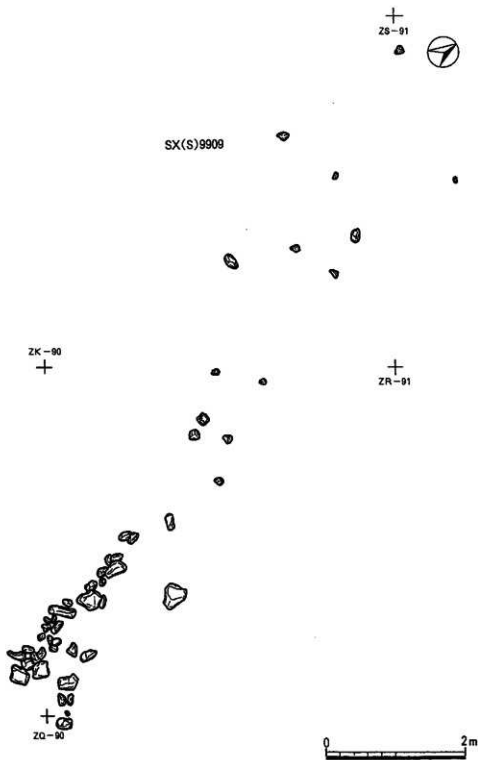
遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片27点、接器1点、土器片利用土製品1点が出土した。

第9902号フラスコ状土坑（第30図、第32・33図）

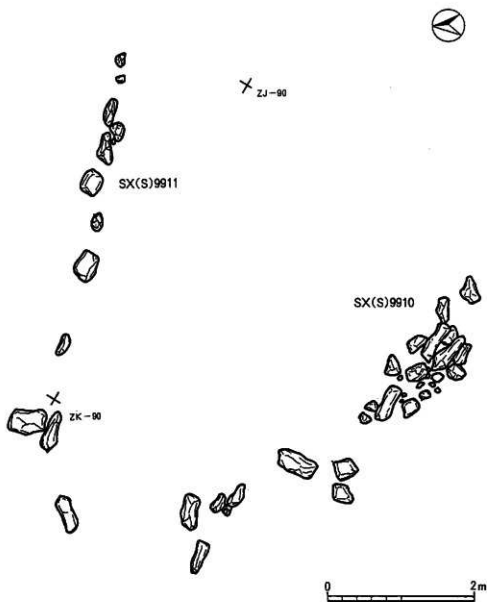
万座環状列石南側Z N-85グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。



第27图 D区第9902号配石遺構、第9908号配石列実測図



第28图 D区第9909号配石列实测图



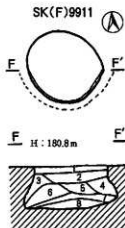
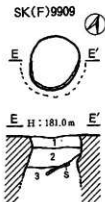
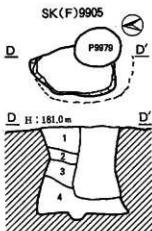
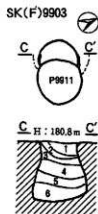
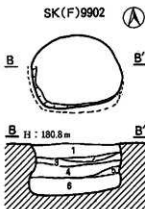
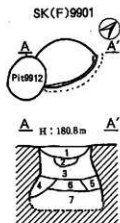
第29図 第9910号、第9911号配石列実測図

口縁部径は136cm×110cm、底部径140cmを測り、確認面からの深さは81cmである。堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片21点、土器片利用土製品1点が出土した。

第9903号フラスコ状土坑（第30図）

万座環状列石南側ZM-85グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。第9911号柱穴状ビットと重複し、本遺構が古い。



- SK(F)9906
1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 2. 黒褐色土(10YR3/2)
 3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 4. ニオイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 5. 黒褐色土(10YR2/2)
 6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 7. 黒褐色土(10YR2/2)
 8. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 9. 黒褐色土(10YR2/2) シラス粒混入

- SK(F)9902
1. 黒褐色土(10YR3/2)
 2. ニオイ黄褐色土(10YR4/3)
 3. 黒褐色土(10YR2/2)
 4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 5. ニオイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

- SK(F)9909
1. 黒褐色土(10YR3/2) 焼土粒、炭化物混入
 2. 褐色土(10YR4/4) 炭化物混入
 3. 暗褐色土(10YR3/4) 炭化物混入

- SK(F)9901
1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物、シラス粒混入
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 3. 暗褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物、白色粘質土混入
 7. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入

- SK(F)9903
1. 黒褐色土(10YR2/2)
 2. ニオイ黄褐色土(10YR4/3)
 3. 黒褐色土(10YR2/2)
 4. 黒褐色土(10YR2/2)
 5. ニオイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

- SK(F)9911
1. ニオイ黄褐色土(10YR4/3)
 2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 4. 黒褐色土(10YR2/2)
 5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 6. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 7. ニオイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 8. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

0 2m

第30図 D区フラスコ状土坑実測図

口縁部径は65cm、底部径80cmを測り、確認面からの深さは92cmである。底部はやや傾斜し鍋底状である。堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片13点、土器片利用土製品1点が出土した。

第9905号フラスコ状土坑（第30図、第32・33図）

万座環状列石南側Z L-86グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。第9979号柱穴状ビットと重複し、本遺構が古い。

口縁部径は130cm×84cm、底部径140cmを測り、確認面からの深さは150cmである。

底部は平坦で、中央部に径20cmのビットが検出された。確認される堆積土は4ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片6点、搔器1点が出土した。

第9909号フラスコ状土坑（第30図、第32・33図）

万座環状列石東側Z K-88グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。

口縁部径は95cm×77cmである。確認される堆積土は3ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片51点、土器片利用土製品1点が出土した。

第9911号フラスコ状土坑（第30図、第33図）

万座環状列石南側Z N-83グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。

口縁部径は123cm×118cm、底部径144cmを測り、確認面からの深さは66cmである。堆積土は8ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片17点が出土した。

第9915号フラスコ状土坑（第30図）

万座環状列石南側Z K-88グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。第9928号柱穴状ビットと重複し、本遺構が古い。口縁部径は90cm×75cmを測る。

(3) 土坑

第9904号土坑（第31図）

万座環状列石東側Z L-86グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

平面形は楕円形を呈し、径90cm×77cm、深さは23cmを測る。土坑長軸方向はN-12°-Eである。堆積土は3ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第9906号土坑（第31図）

万座環状列石東側Z K-87グリッドに位置し、Ⅲ d層下面での確認である。第9982号柱穴状ビット、第9914号土坑と重複し、本遺構がいずれより古い。

平面形は楕円形を呈し、径176cm×83cm、深さは30cmを測る。土坑長軸方向はN-28°-Eである。確認される堆積土は3ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第9907号土坑（第31図）

万座環状列石東側ZK-87グリッドに位置し、Ⅲd層下面での確認である。第9972号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

平面形は楕円形を呈し、径75cm×62cm、深さは39cmを測る。土坑長軸方向はN-17°-Wである。堆積土は5ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第9908号土坑（第31図）

万座環状列石東側ZK-89グリッドに位置し、Ⅲd層下面での確認である。第9983号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

平面形はやや楕円形を呈し、径146cm×135cm、深さは120cmを測る。土坑長軸方向はN-25°-Wである。堆積土は13ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第9910号土坑（第31図）

万座環状列石南東側ZL-86グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。

平面形は楕円形を呈し、径123cm×118cm、深さは66cmを測る。底部には川原石が確認された。土坑長軸方向はN-87°-Wである。堆積土は4ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第9912号土坑（第31図）

万座環状列石北側ZS-93グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。

平面形は楕円形を呈し、径91cm×62cm、深さは68cmを測る。土坑中央部には長さ70cmの立石が落ち込んでいた。石材は石英閃緑玢岩である。土坑長軸方向はN-72°-Eである。堆積土は5ブロックに区分され人為堆積である。

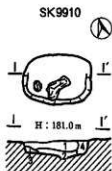
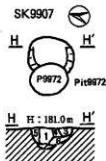
遺構内より遺物は出土しなかった。

第9914号土坑（第31図）

万座環状列石東側ZK-87グリッドに位置し、Ⅲd層下面での確認である。第9906号土坑と重複し、本遺構が新しい。

平面形は楕円形を呈し、径92cm×59cmを測る。土坑長軸方向はN-22°-Eである。

遺構内より遺物は出土しなかった。



SK9904

1. 黒褐色土(10YR5/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR3/2)

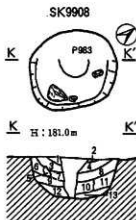
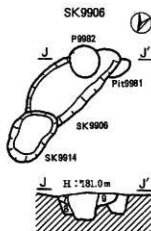
SK9907

Pit9979

1. ヌビイ黄褐色土(10YR5/4)
2. ヌビイ黄褐色土(10YR5/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR3/2)
4. 褐色土(10YR4/4) 炭化物混入

SK9910

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. ヌビイ黄褐色土(10YR4/3)



SK9906

7. 黒褐色土(10YR3/2)
8. 褐色土(10YR4/4) 粘土混入
9. 褐色土(10YR4/4) 粘土混入

SK9908

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
2. 褐色土(10YR4/4)
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
7. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
8. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
9. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
10. 黒褐色土(10YR2/1) 炭化物混入
11. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
12. 黒褐色土(10YR3/2)
13. 黒褐色土(10YR3/2)

SK9912

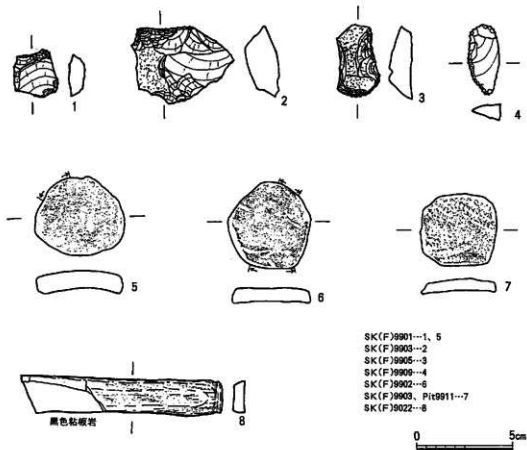
1. 黒色土(10YR2/1)
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2)



第31図 D区土坑実測図



第32図 D区フラスコ状土坑出土土器拓影図



SK(F)9901---1, 5
 SK(F)9903---2
 SK(F)9905---3
 SK(F)9909---4
 SK(F)9902---6
 SK(F)9903, Pit9911---7
 SK(F)9902---8

第33図 D区フラスコ状土坑出土遺物実測図

4. 遺構外出土遺物

① 土 器 (第34図~40図)

D区からは、コンテナ5箱の土器破片が出土した。これらの土器は縄文時代後期、晩期のものであり、数量的には縄文時代後期の土器が圧倒的に多い。土器は万座環状列石内から出土し、大半がⅢ a~b層からの出土である。

土器の分類に関しては、時期ごとに群別し、文様や施文技法等で分類した。

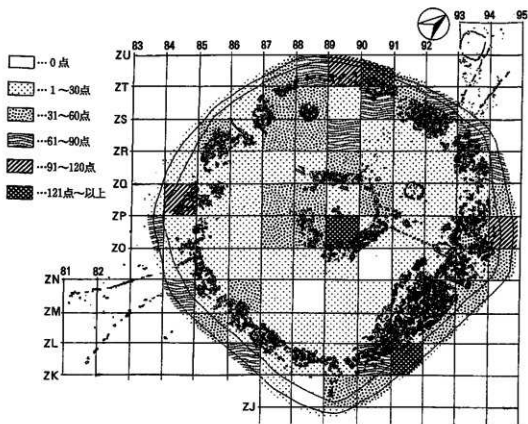
なお、調査区土器破片分布状況は第34、35図のとおりである。

第Ⅰ群 早期~前期の土器

本群土器は早期~前期に位置付けられるもので、本調査区からは出土しなかった。

第Ⅱ群 後期初頭から前葉の土器 (第37・38図)

本群は、縄文時代後期初頭から前葉に位置付けられるもので、本群1類・2類は前十腹内式、本群3、4類は十腹内I式、本群4類は大湯式土器に比定されるものである。



第34図 D区土器破片分布状況

1類：隆線文、隆沈文が施文される土器（5～10）

器形としては深鉢と壺がみられ、深鉢が主体となる。文様帯は隆沈文により区画され、その内部に円形文（渦巻文）が施文される。焼成は良好で、色調は浅黄褐色、黒褐色を呈する。

2類：地文上に沈線文が施文される土器（11～17）

深鉢が主体となる。12、13は地文としてLR縄文が施文され、S字文を主文様として楕円形文・沈線が付加されるものである。14、15、17は交差する平行沈線を主文様と、楕円形文を付加している。地文としてRL縄文が充填される。本類土器の焼成は良好で、色調は褐色、灰褐色、淡褐色を呈する。

3類：沈線文の土器（18～25、34、40）

無文研磨された器面に1～数条の沈線、平行沈線により文様を描きだしたものを一括したほか、隆沈文によって文様帯が区画されたものも含めた。器形としては深鉢、浅鉢、壺が主体となる。深鉢は波状口縁を呈するものや折り返し口縁のものが多数見受けられる。

a：主文様が縦位方向に施文される土器（18～20）

深鉢、壺、浅鉢が主体となる。深鉢は平・波状口縁、浅鉢は小さな山形口縁を呈し装飾的な粘土柱の貼りつけがみられる。

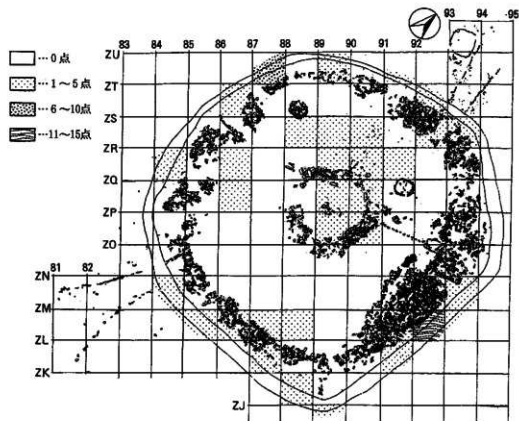
主文様として「S」字文、弧線文、渦巻文、円形文、楕円形文が縦位方向に施文されるものを一括した。は土器の壺で、つまみ部から数条の沈線が引かれ、沈線間に刺突文が付されている。18、19、20深鉢の胴部破片で縦位の連結S字文を主文様とし楕円形文を連結文として付加している。焼成は良好で、色調は灰褐色、明褐色、浅黄橙色、にぶい褐色を呈する。

b：斜行する平行沈線文の土器 (20)

本類は平口縁を呈する深鉢が主体となり、文様帯は胴部下半に及ぶ。21～23は胴部文様として格子目状沈線が施文されている。焼成は良好で、色調は黒褐色、にぶい黄橙色を呈する。

c：幾何学的な文様が施文される土器 (24)

本類には幾何学的な文様を施文したものを一括した。深鉢が主体となるものと考えられる。24は深鉢の胴部破片で、沈線が斜位方向に多重に施文され、鍵状文を作り出している。焼成は良好で、色調はにぶい橙色を呈する。



第35図 D区縄文時代後期中葉土器破片分布状況

d : 主文様が横位に施文される土器 (25、34、40)

平行沈線により曲線文、入組文が横位方向へ展開する土器を一括した。深鉢、浅鉢、壺の器形がみられる。文様帯は深鉢で胴部2/3、浅鉢で底部付近まで、壺で胴部最張部、浅鉢は胴部ほぼ全域に及ぶ。焼成は良く、色調はにぶい橙色～黒褐色を呈する。

4類：磨消縄文を主体とする土器 (26～50)

帯縄文により文様が描かれるものを一括した。26、32、45は本類土器に付加される花卉状文、刺突文である。

a : 主文様が縦位方向に当間隔に施文される土器 (29、26、31)

2～3条の平行沈線により区画された文様帯内に当間隔に弧線文、鍵状文、楕円形文、横位S字文、渦巻文を施文したものを一括した。この他に花卉状文が主文様として当間隔に施文されるものもみられる。器形は深鉢、鉢、壺が主体となる。深鉢は波状口縁を呈し頂部に刻目を施すものもあり、文様帯は胴部中程まで及ぶ。

26は口頸部・胴部文様帯をもち、弧線文により()字状の文様が施文されている。29、31は胴部に方形の区画をし主文様とし沈線間にはL R・R L縄が充填されている。焼成は良好なものが多く、色調は浅黄褐色～褐色、黄褐色を呈する。

c : 主文様が横位方向に施文される土器 (35、32、36、30、33、39)

帯縄文により曲線文、入組文が横位方向に展開する土器を一括した。主文様のほかに花卉状文や刺突(32)文が付加されるものもある。いわゆる「大湯式土器」と呼ばれるものである。深鉢、鉢、壺が主体を占め、台付土器や片口土器の破片(36)もみられる。深鉢は山形・波状口縁を呈し、胴部上端に最張部をもち、胴部上半に文様帯を有する。壺は胴部上半に文様帯を有する。30、35は深鉢の口縁部～胴部破片で入組文が主文様として施文されている。本類土器は焼成が良好なものも多く、色調はにぶい黄褐色、明赤褐色等を呈する。

第Ⅲ群 縄文後期中葉から後葉の土器 (第39図51～40図79)

本群には、縄文後期中葉から後葉の土器を一括した。東北地方北部の十層内Ⅱ式・Ⅲ式、東南部の宝ヶ峰式、関東地方の加曾利B1式・B2式に比定される。

1類：平行沈線文が主文様となる土器 (41～50)

口縁部に多条の平行沈線文を施文するものを一括した。深鉢、浅鉢が主体となる。

深鉢は波状・山形口縁を呈するもので頂部に裝飾突起が付けられるものもある。口縁部は胴部は大きく「朝顔状」に開き、口唇部は肥大となる。数条～5条の沈線を口縁部に巡らし、弧線文や刺突文、短刻線を連結している。41は楕円形文を互い違いに配置し、同じような文様を描きだしている。焼成は良好で、色調は浅黄褐色、黒褐色、にぶい黄褐色、にぶい橙色、灰褐色を呈する。

2類：磨消縄文の土器 (51～60)

曲線的な沈線で描きだした幾何学的な磨消縄文が施文された土器を一括した。深鉢・壺が主体となる。深鉢は1類に類似した形状を呈し、より装飾的な突起が付けられる。壺は平口縁を呈する。文様帯は口縁部・胴部に区画され、主文様として円形文、変形楕円形文（アメイノ）蛇行文がみられる。沈線内には条の細かい単節斜縄文が施文されている。は顔面把手付土器破片である。いずれの土器の焼成は良好で、色調はにぶい褐色、浅黄褐色、にぶい赤褐色を呈する。

3類：磨消縄文に刺突が伴う土器 (61～70)

本群2類土器に類似した器形と文様を持つものであるが、沈線内の縄文部分に連続する刺突が付加されたものを一括した。刺突には竹管を用い器面に対し垂直又は斜位に突刺している。本類土器には胴部に刺突が施されないものもみられる。

焼成は良好で、色調はにぶい赤褐色、明赤褐色、黒褐色、橙色を呈する。

4類：沈線・短刻線の土器 (71～76)

深鉢が主体となるが、前調査で筒形土器が出土している。71、72は深鉢で口縁部に隆帯を巡らし、短刻線を連続している。73注口土器の口縁部破片である。焼成は良好で、色調はにぶい橙色～明赤褐色を呈する。72は浅鉢に近い形状を呈する。文様帯は連続する山形の沈線で小さく区画され、焼成は良好で、色調は褐色を呈する。

第IV群 縄文時代後期の土器 (第40図53～92)

本群には無文、条痕文、縄文、摺糸文土器を一括した。出土土器のなかで本群土器の出土量は圧倒的に多い。時期別の細分は極めて困難であるが、時期の特定できたものについては各群のなか資料を提示している。

2類：条痕文の土器 (78、79、80、82)

平口縁の深鉢が主体となる。条痕は器面に対し縦位、斜行、横位方向に施文される。口縁部に無文帯を残すもの、上端より施文するものがある。焼成は良好で、色調は浅黄褐色、灰褐色を呈する。

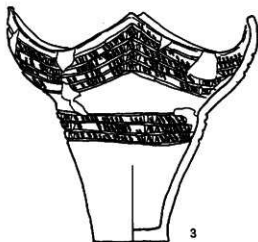
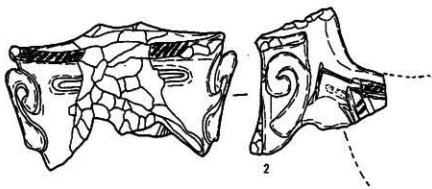
3類：縄文の土器 (第37図1～4、37、第38図77、81、83～92)

本類には、無節・単節縄文の施文された土器を一括した。

a：無節斜縄文が施文される土器 (1、2)

平口縁を呈する深鉢、壺が主体となる。地文としてL・R縄文が施文される。胴部上端に丘痕文を施し口縁部・胴部文様帯を区画し、口縁部を無文化するものなどがある。焼成は良好で色調は橙色、灰白色を呈する。

b：単節斜縄文が施文される土器 (3、4、88、89)



3--B区出土



第36图 D区遺構外出土土器実測図

深鉢、鉢、壺がみられ、平・緩やかな波状口縁の深鉢が主体となる。口縁部を磨り消し無文帯を作り出すものもある。焼成は良好で、色調は黄褐色を呈する。

4類：燃糸文の土器（113～118）

短軸絡条体回転文、網目状燃糸文を施文したものを一括した。

原体にはL・R無節縄文が使用される。

a：短軸絡条体回転文の土器（37、77、80、81、86、87、90、91）

平口縁の深鉢が主体となる。文様は口縁部上端より施文されるもののほか、口縁部を無文化するものがある。37は平行沈線に境に横位・縦位に燃糸文が施文され、口縁は開く。焼成は良好で、色調は灰黄褐色を呈する。

b：網目状燃糸文の土器（83～85）

平口縁を呈する深鉢を主体とするが、緩やかな波状を呈するもの、折返口縁が存在する。

口縁部に渦巻文、楕円形文、平行沈線文を施文するものも本類とした。焼成は良好で、色調はにぶい褐色灰黄褐色を呈する。

② 石 器

D区遺構外より出土した石器は多種多様で、その数は剥片石器86点、礫石器が22点の総計108点である。遺物は調査区ほぼ全域に分布しているが、特に万座環状列石外帯部や内帯・外帯間の北部に比較的多くみられる。遺物の大半は遺物包含層Ⅲa～Ⅲbからの出土である。石器の分類については、形態別に類別細分した。石器出土分布図は第43図の通りである。

石 鏃（第41図）

形態から2群5類に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩である。

1群…有茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

a…平基有茎石鏃で1点出土した。剥離調整はいいである。（1）

b…凹基有茎石鏃で、基部に抉れをもつもの。

c…凸基有茎石鏃で、基部は長めで、全体的に厚みがある。本調査区では出土しなかった。

2群…無茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

a…平基有石鏃で2点出土した。（2、3）

c…尖基石鏃で、剥離調整はやや粗く、厚みがある。本調査区では出土しなかった。

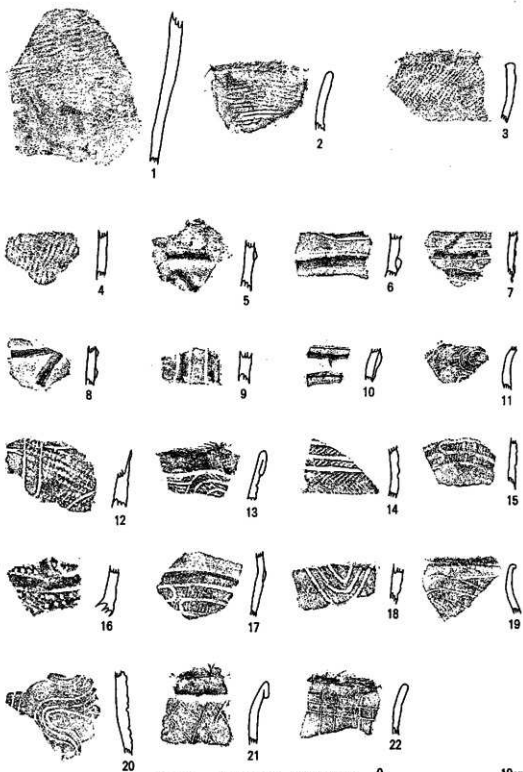
石 鏃（第41図）

形態から2群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩である。

1群…つまみ部と鏃部の境が明確でないもので、1点出土した。鏃部のみばかりでなく、

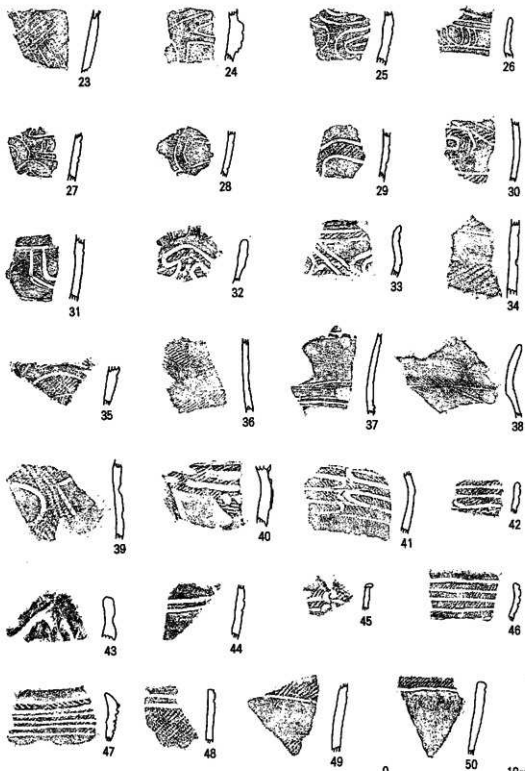
つまみ部にも比較的いい剥離調整がなされている。（5）

2群…剥片の一部に鏃部を作り出しているもので、6点出土した。鏃部には破損や磨耗がみ



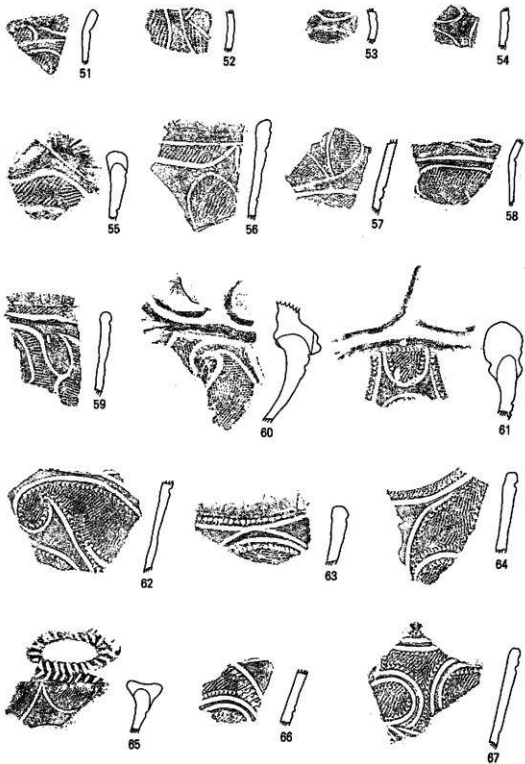
第37图 D区道桥外出土土器拓影图(1)

0 10cm

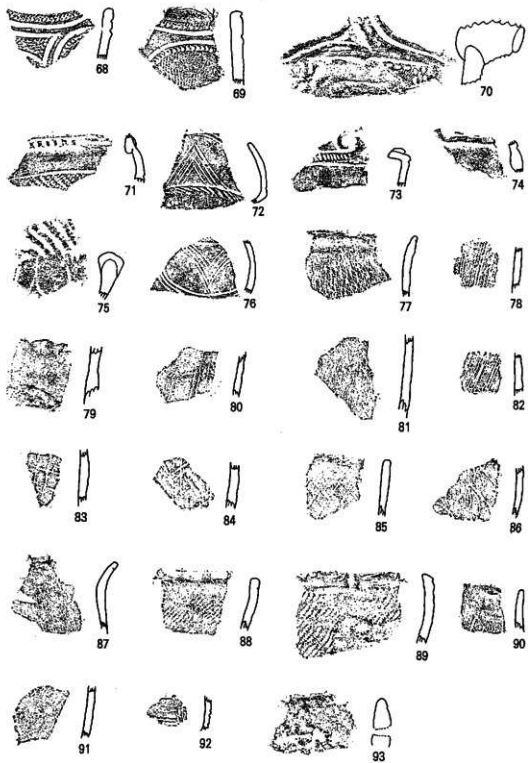


第38图 D区遺構外出土土器拓影(2)

0 50 10cm

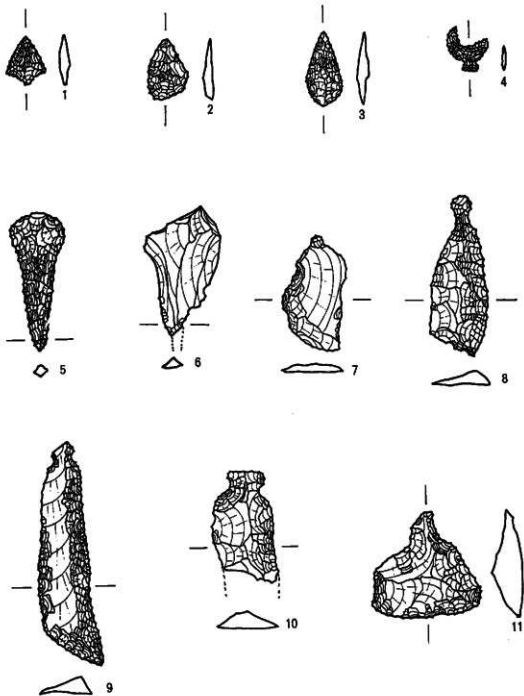


第39图 D区遺構外出土土器拓影图(3) 0 10cm

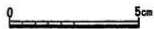


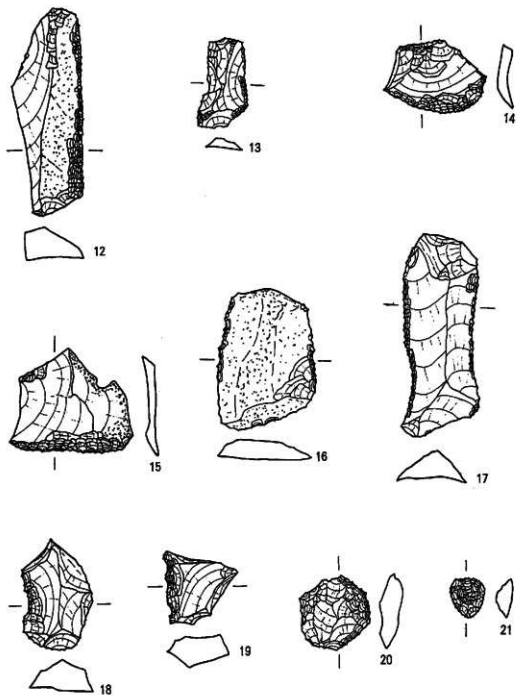
第40图 D区遺構外出土土器拓影图(4)

0 10cm



第41图 D区道横外出土石器实测图(1)





第42图 D区遗址外出土石器实例图(2)



られる。(6)

石 匙 (第41図)

形態から2群に分け、さらにつまみ部を上にして主要刃部が作り出される位置から、5類に細分した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩、黑色頁岩である。

1群…縦型石匙である。刃部が破損しているものがみられる。

- a…主要刃部が、一側縁に作り出されるもので、10点出土した。(8、9)
- b…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、1点出土した。破損品である。(10)
- c…主要刃部が先端部に作り出されるもので、本調査区では出土しなかった。

2群…横型石匙である。刃部の作りはていねいである。

- a…主要刃部が一側縁に作り出されるもので、1点出土した。破損が著しい。
- b…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、本調査区では出土しなかった。
- c…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、1点出土した。(11)

掘 器 (第42図)

打面を上にして、主要刃部が作り出される位置および、刃部の形態別に6群に分類した。

石材は硬質頁岩、珪質頁岩が多く、黑色頁岩、赤色頁岩もみられる。

- 1群…主要刃部が左、右、一側縁に作り出されるもので、21点出土した。(12、13)
- 2群…主要刃部が先端部に作り出されるもので、7点出土した。(14、15)
- 3群…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、4点出土した。(16)
- 4群…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、6点出土した。(17)
- 5群…主要刃部が周縁全域に作り出されるもので、2点出土した。(20、21)
- 6群…刃部に抉れをもつもので、15点出土した。(18、19)

異形石器 (第41図4)

1点出土した。つまみ部をもち、剝離調整はていねいで、基部先端部に抉れをもち、三日月状となっている。万座環状列石東側No23の組石付近で出土した。石材は硬質頁岩である。

石 斧 (第44図)

形態別に2群に分類した。

- 1群…打製石斧である。1点のみの出土である。剝離調整は粗く、石材には緑色片岩を使用する。(25)
- 2群…定角式磨製石斧である。5点出土し、基部や刃部が破損しているものが多い。石材は緑色凝灰岩、安山岩、石英安山岩である。

石 鏟 (第44図26、25)

扁平な川原石の両側縁を打ち欠かしているもので、2点出土した。安山岩である。

凹 石 (第44、45図27~30、35)

円礫、棒状の礫、扁平な川原石に使用痕として凹が観察されるもので、12点出土した。両面を使用しているものがほとんどで、磨痕を観察できるものもある。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、石英安山岩、安山岩、玄武岩である。

磨 石 (第45図31~34)

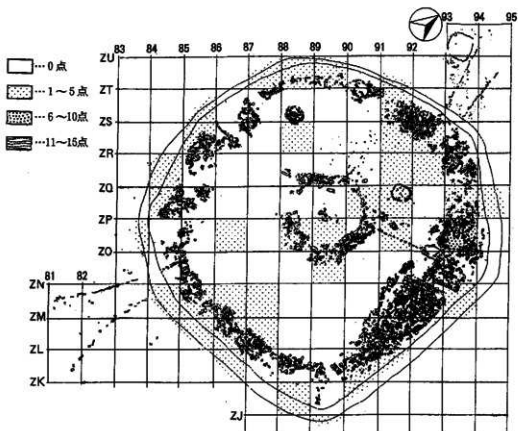
円礫に磨痕が観察されるもので、4点出土した。石材は凝灰岩、石英安山岩、凝灰質泥岩である。

③ 土 製 品

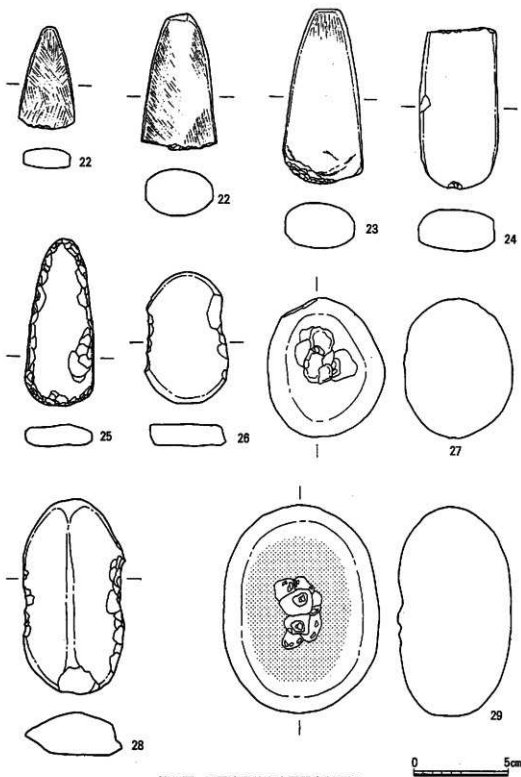
D区遺構外より出土した土製品は、土偶4点、装飾品1点、葺形土製品1点、土器片利用土製品が54点の総計60点が出土した。土製品の出土分布状況は第48図の通りであるが、万座環状列石内帯・外帯間の北部から北西部に多くみられる。

土 偶 (第47図4~7、PL)

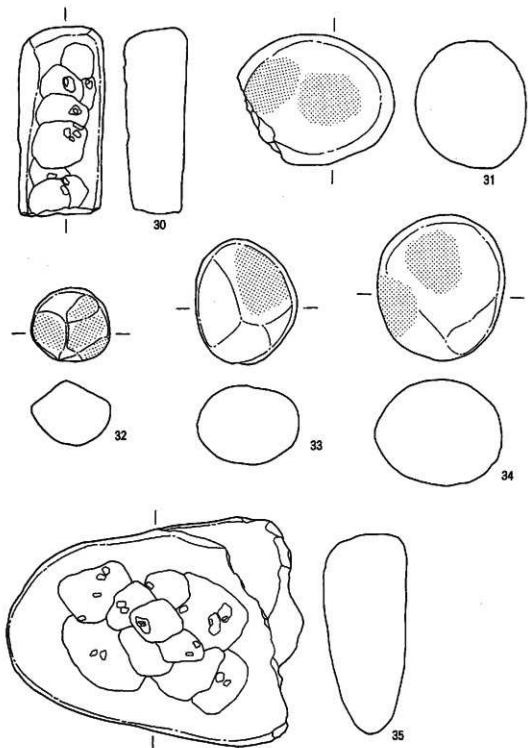
7、5は土偶の大腿部で、LR縄文が施文され、沈線によりV字状の文様がなされている。



第43図 D区石器分布状況



第44图 D区道槽外出土石器实测图(3)



第45图 D区遺構外出土石器実測図(4)

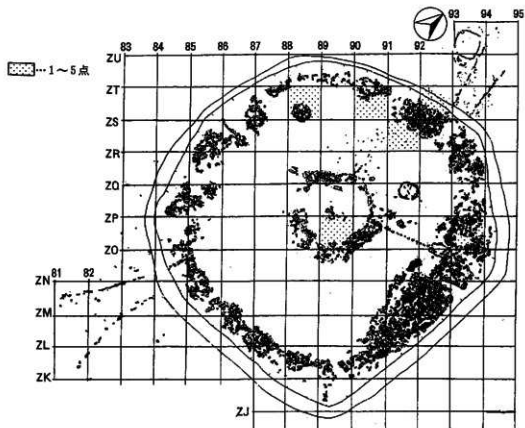
さらに、7は沈線と刺突文による文様が付加される。4、5は中空土偶の右脚部と右手部である。右脚部はLR縄文が充填され、膝後部がせり出し、大腿部には平行沈線と渦巻き状文により文様が施文されている。万座環状列石内帯・外帯間ZS-91グリットから出土した。5の右手部は万座環状列石北側出入口に隣接するZT-92グリットの祖石から出土したものである。磨り消し技法により磨きかけられ、手度は省略されている。4、5とも胎土、焼成、作成方法が同じことから同一個体のもつと判断し、さらに、第6次F区出土の中空土偶左脚部と旧大湯中学校より寄贈されていた左手部とも同一個体であることが判明し、推定復元高50cm以上の大型中空土偶になるものとおもわれる。

装飾品(第47図3)

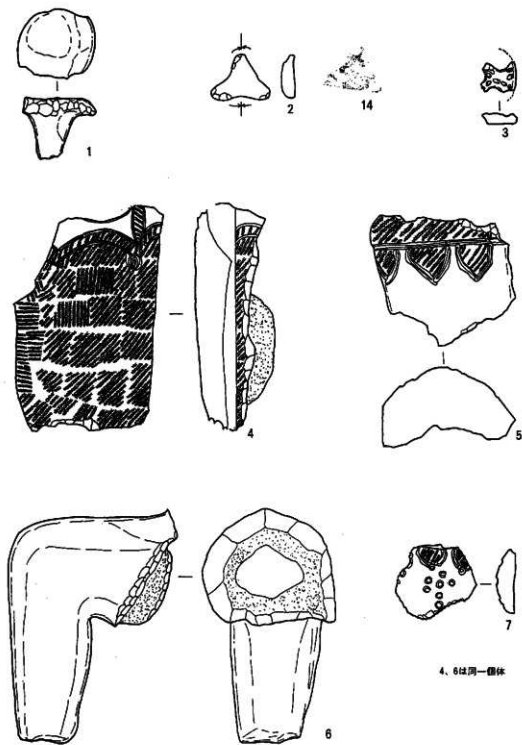
1点のみの出土である。破損品であるが、円形のもつと刺突文が施文され、4ヶ所に孔が穿たれている。

罎形土製品(第47図1)

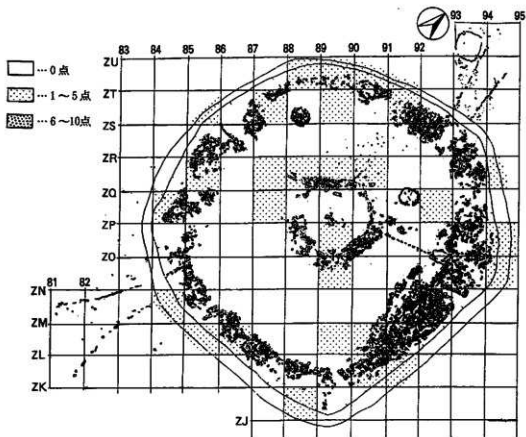
葺を模した土製品で、かさの部分がつ平坦なものである。



第46図 D区土製品分布状況



第47图 D区道槽外出土土製品实例图



第48図 D区土器片利用土製品分布状況

土器破片利用土製品 (第49、50図)

土製品の中で最も多く出土した。形態的に円形 (41点)、三角 (13点) に分類した。土器破片を打ち欠きと研磨により整形しているもので、前者による整形技法が多い。特に第45図2は三角形というよりは、三脚に近く整形されている。

④ 石製品

D区遺構外より出土した石製品は、石刀1点、板状石製品1点、有溝石製品1点が出土した。出土分布状況は第51図の通りである。

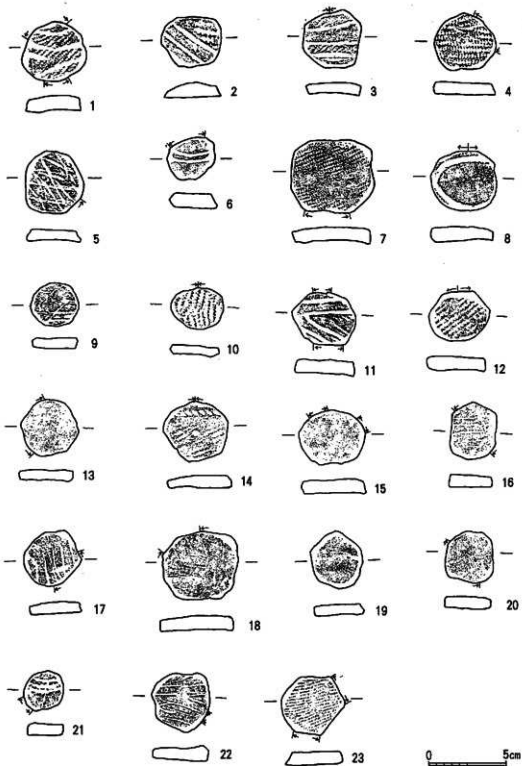
石 刀 (第52図3)

内反りの石刀で、丹念な研磨により整形されている。石材は粘板岩である。

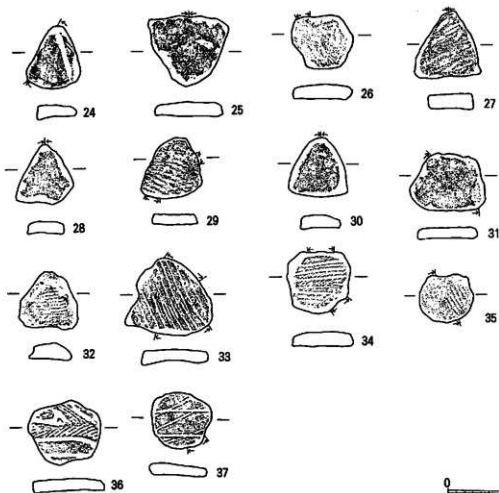
板状石製品 (第52図1)

土器破片利用土製品同様の研磨により円形に整形されたもので、板状の石製品である。石材は砂質凝灰岩である。破損が著しい。

有溝石製品 (第52図2)

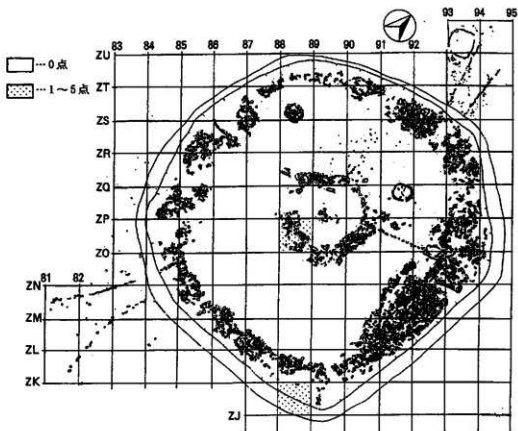


第49图 D区遺構外出土土器片利用土製品拓影图(1)

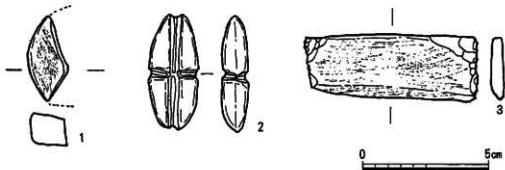


第50図 D区遺構外出土土器片利用土製品拓影図(2)

黒色片岩を石材とし、丹念な研磨により楕円形に整形し、横位と縦位方向に溝を有し、側面にも溝がひかれる。



第51图 D区石製品分布状況



第52图 D区遺構外出土石製品実測図

第IV章 B区の検出遺構と出土遺物

B区において、確認された縄文時代の遺構は、柱穴状ピット78個、配石列2条、Tピット3基、フラスコ状土坑13基、土坑5基、焼土遺構27基である。

1. 建物跡と柱穴状ピット (第53～61図)

B区からは78個の柱穴状ピットが確認された。それらは、野中堂環状列石を取り囲むように検出された。柱穴状ピットの輪郭は基本層序第Ⅲd層で確認された。柱穴状ピットの規模は径18cm～98cm、深さ9cm～88cmを測る。確認される柱痕は径8cm～36cmである。なお本調査においては、トレンチ調査のためこれまでの万座環状列石周囲のような柱配置を検出するまには至っていない。柱穴状ピットについては別表3と第53～61図で記す。なお、柱穴状ピットからは、縄文土器破片が出土している。

2. 配石遺構

(1) 配石列

第02号配石列 (第64図)

野中堂環状列石の南側P-89グリッドに位置し、Ⅲd層上面において確認した。

配石は準大～30cm大の川原石を連結させるように、「く」の字状に並べられている。長さは3.60mを測り、

使用されている石材は、緑色凝灰岩、凝灰岩、石英安山岩である。

第03号配石列 (第65図)

調査区南端のX-81グリッドに位置し、Ⅲb層上面において確認した。

配石は30cm～70cm大の川原石を横並べに置き、その長さは2.50mを測る。配石は調査区外へ延びるものと推定される。石の石材は礫岩と泥岩である。

3. 土 坑

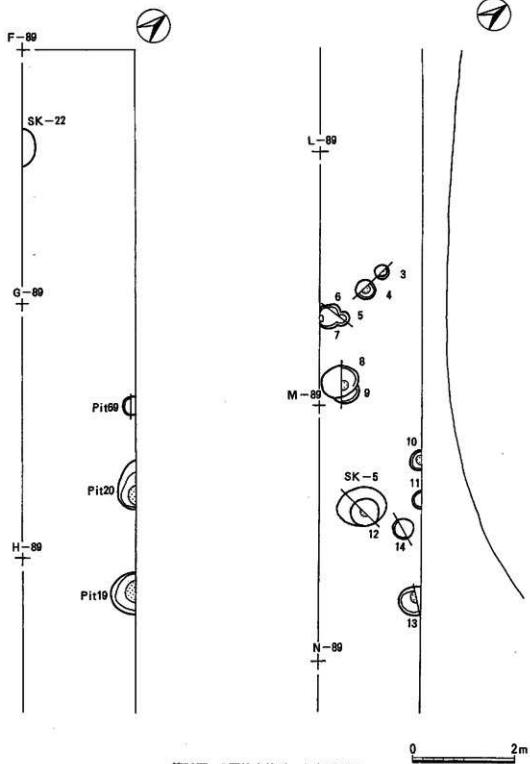
(1) Tピット

第10号Tピット (第66・71図)

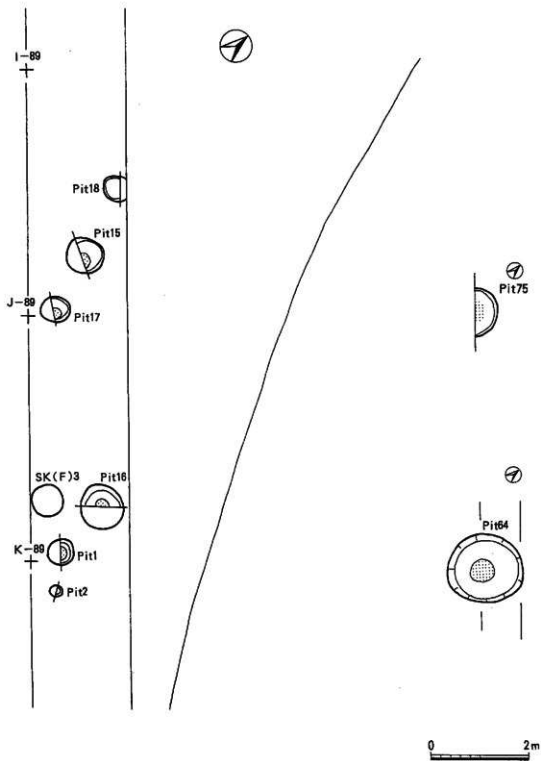
野中堂環状列石隣接地であるD-97グリッドに位置し、Ⅲd層下面で確認した。

規模は、長軸200cm以上×65cm、深さ132cmを測り、長軸方向はN-20-Eである。堆積土は6ブロックに区分され、人為堆積である。

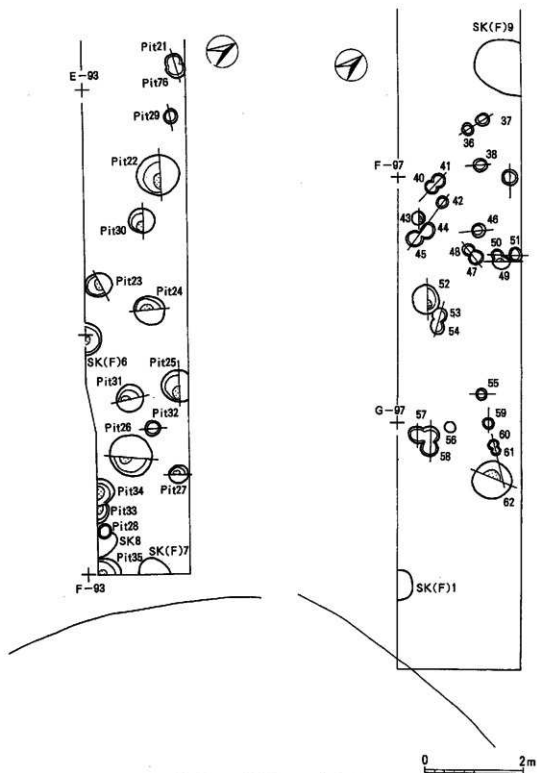
遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片9点が出土した。



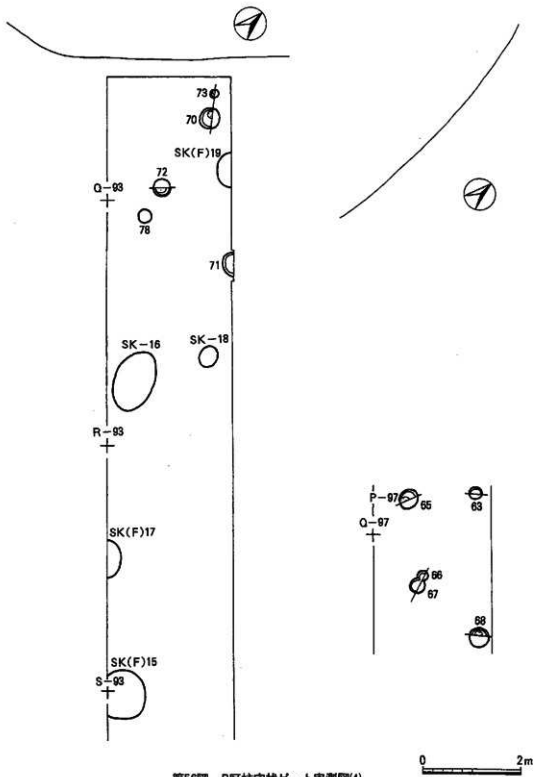
第53図 B区柱穴状ピット実測図(1)



第54図 B区柱穴状ピット実測図(2)

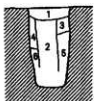


第55図 B区柱穴状ビット実測図(3)

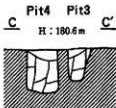


第56図 B区柱穴状ピット実測図(4)

Pit1
A H: 180.6m A'



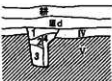
Pit2
B H: 180.6m B'



Pit6,5
D H: 180.6m D'



Pit7
E H: 181.0m E'



Pit9 Pit8
F H: 180.6m F'



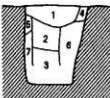
Pit10 Pit14
G H: 180.6m G'



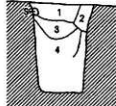
Pit13
H H: 180.6m H'



Pit15
I H: 180.6m I'



Pit16
V H: 180.6m V'



Pit1

1. 黒褐色土(10YR2/1) 炭化物混入
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)
5. 黒色土(10YR2/1)
6. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit7

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/3)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit9

1. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)
2. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)

Pit13

1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物混入
3. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR3/2)
7. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit4

1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR3/2)
7. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit10

1. 暗褐色土(10YR3/4)
2. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
3. 黒色土(10YR2/1)
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 明黄褐色土(10YR7/6)
7. 黒褐色土(10YR2/2)
8. 黒色土(10YR2/1)

Pit13

1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. ニブイ黄褐色土(10YR5/4)
5. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit11

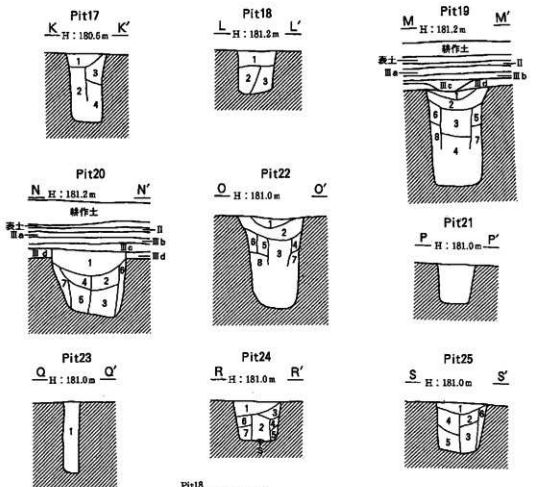
1. 暗褐色土(10YR3/4)
2. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
3. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入

Pit16

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 淡い黄褐色土(10YR8/4)
4. 明黄褐色土(10YR8/6)
5. 暗褐色土(10YR3/3)



第57図 B区柱穴状ビット断面図(1)



Pit18

1. 黒褐色土(10YR2/3)
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)

Pit17

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒色土(10YR2/1)

Pit20

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒色土(10YR1、7/1) 炭化物混入
5. 黒色土(10YR1、7/1) 炭化物混入
6. 黒色土(10YR1、7/1)
7. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入

Pit23

1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入

Pit22

1. 黒褐色土(10YR3/2) 糞土粒、炭化物混入
2. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 糞土粒混入
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
5. 明黄褐色土(10YR1/6)
6. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 糞土粒、炭化物混入
7. 黒褐色土(10YR3/2)
8. ニブイ黄褐色土(10YR5/4) 炭化物混入

Pit24

1. 黒褐色土(10YR3/2) 糞土粒混入
2. 暗褐色土(10YR3/3)
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR3/2)
5. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
6. 明黄褐色土(10YR6/6)
7. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit19

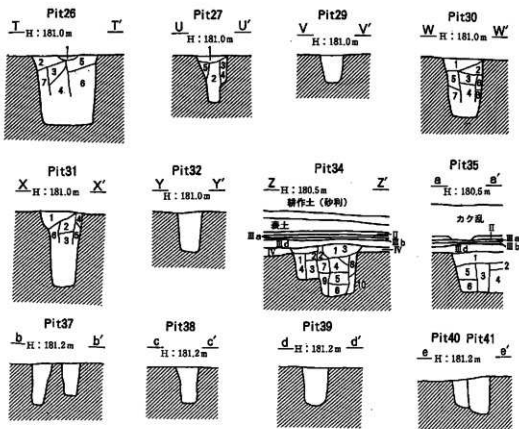
1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物混入
4. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
5. 暗褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 暗褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
7. 黒色土(10YR2/1)
8. 黒色土(10YR2/1)

Pit25

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
5. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2)

第58図 B区柱穴状ピット断面図(2)





Pit26

1. 暗褐色土(10YR3/4)
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 黒褐色土(10YR3/2)
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
7. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit31

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
6. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入

Pit27

1. 黒色土(10YR2/1)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒色土(10YR2/1)
5. 黒褐色土(10YR3/2)

Pit33

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 暗褐色土(10YR2/3) 炭化物、腐土粒混入
3. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物、腐土粒混入
4. ヌブイ黄褐色土(110YR4/3) 炭化物混入

Pit34

1. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物混入
2. 黒色土(10YR2/1)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物、腐土粒混入
6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
7. 黒色土(10YR2/1) 炭化物、腐土粒混入
8. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物、腐土粒混入
9. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
10. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit30

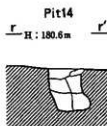
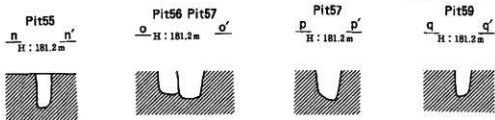
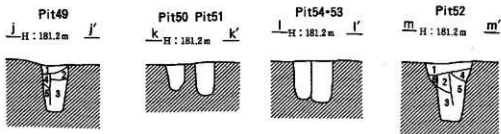
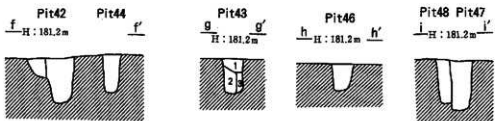
1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3)
7. 黒色土(10YR2/1)
8. 黒色土(10YR2/1)

Pit35

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
3. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 褐色土(10YR4/4) 腐土粒混入
6. 褐色土(10YR4/4) 腐土粒混入
7. 黒褐色土(10YR2/2)
8. 黄褐色土(2.5Y5/4)



第59図 B区柱穴状ピット断面図(3)



- Pit43
1. 黒色土(10YR1/1)
 2. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
 3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)

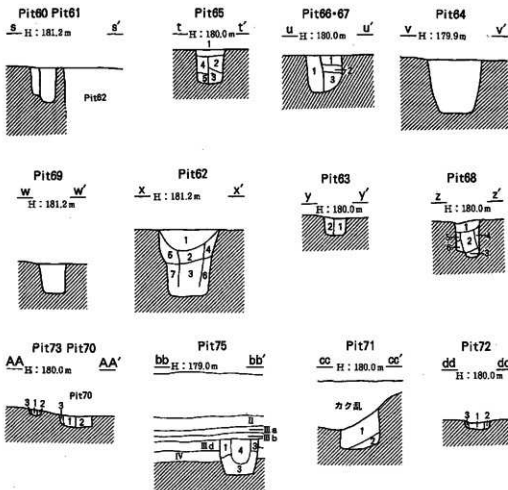
- Pit52
1. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 2. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
 3. 黒色土(10YR2/1)
 4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 5. ニブイ黄褐色土(10YR5/3) 炭化物混入
 6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物、白色土混入

- Pit14
1. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
 2. 暗褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
 3. 暗褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 4. 暗褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
 5. 暗褐色土(10YR2/3) 炭化物混入
 6. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入

- Pit49
1. 黒色土(10YR2/1)
 2. 黒褐色土(10YR3/2)
 3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3) 炭化物混入
 4. 黒褐色土(10YR2/2)
 5. ニブイ黄褐色土(10YR5/3)

0 2m

第60図 B区柱穴状ビット断面図(4)



Pit65

1. 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒、炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒色土(10YR2/1)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit62

1. 黒色土(10YR2/1) 粘土粒混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2)
7. 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒混入

Pit73

1. 暗褐色土(10YR3/3) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

Pit66

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

Pit63

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit71

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

Pit75

1. 暗褐色土(10YR3/4)
2. 暗褐色土(10YR3/3)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物混入

Pit68

1. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒色土(10YR2/1)
6. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit67

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit70

1. 黒褐色土(10YR2/3) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2)

Pit72

1. 黒褐色土(10YR2/1)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入

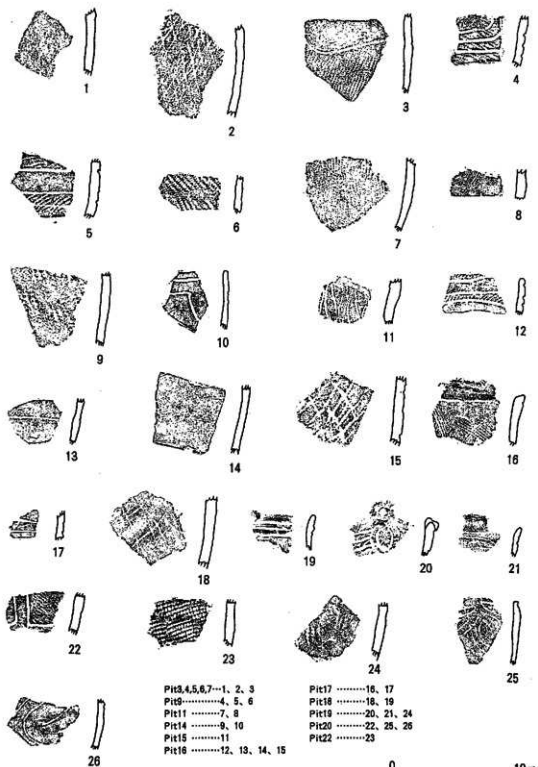
0 2m

第61図 B区柱穴状ピット断面図(5)

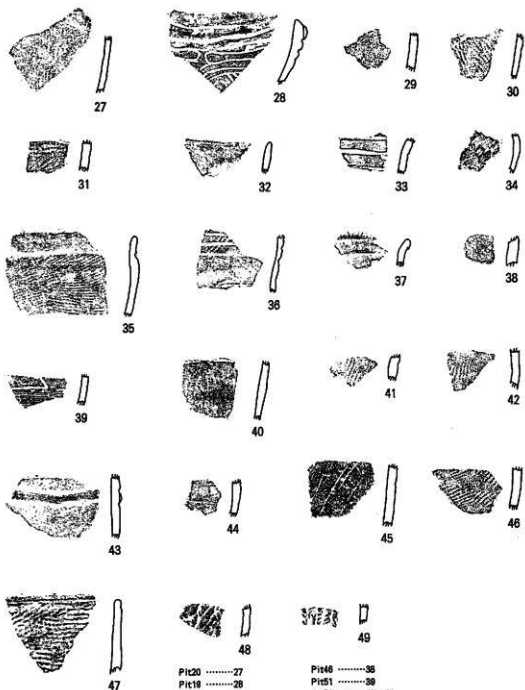
第3表 B区柱状ビット一覧表

(新旧関係は旧一新で順記。順記のないものは新旧関係不明)

ビット 番号	グラッド	長さ (m)	直径 (mm)	重 量 (kg)	重複関係	ビット 番号	グラッド	長さ (m)	直径 (mm)	重 量 (kg)	重複関係
1	K-L-89	58	54	81		41	E-F-97	32	28	50	P40-P41
2	K-89	22	27	19		42	F-97	25	24	50	
3	L-89	29	28	42		43	F-97	28	28	44	
4	L-89	38	38	54		44	F-97	34	29	58	P45-P46
5	L-89	32	27	36	P6-P6	45	F-97	35	32	22	P45-P46
6	L-89	42	36	40	P6-P6	46	F-97	36	28	34	
7	L-89	47	34	48		47	F-97	32	28	68	P48-P47
8	L-89	74	61	58	P9-P9	48	F-97	25	25	57	P48-P47
9	L-89	54	49	56	P9-P9	49	F-97	33	31	50	
10	M-89	45	41	63		50	F-97	22	20	33	
11	M-89	36	34	15		51	F-97	30	25	42	
12	M-89	54	56	43	S55-P12	52	F-97	61	54	58	
13	M-89	55	54	52		53	F-97	31	30	56	P54-P53
14	M-89	42	42	55		54	F-97	34	26	50	P54-P53
15	I-89	78	70	79		55	F-97	23	22	44	
16	J-89	93	83	74		56	G-97	46	32	39	P58-P56
17	I-89	61	52	58		57	G-97	37	34	45	
18	I-89	55	50	55		58	G-97	37	36	35	
19	H-89	87	77	78		59	G-97	24	24	39	
20	G-89	95	67	88		60	G-97	22	20	37	P60-P61
21	D-93	35	29	51		61	G-97	20	18	45	P60-P61
22	K-93	89	85	60		62	G-97	80	77	73	
23	E-93	57	47	49		63	P-97	27	24	24	
24	E-93	62	55	52		64	M-109	77	76	50	
25	F-93	70	64	65		65	F-97	43	28	44	
26	F-93	85	85	52		66	Q-97	23	18	45	P67-P66
27	F-93	40	38	21		67	Q-97	30	30	48	P67-P66
28	F-93	31	27	51	S59-P28	68	Q-97	40	40	49	
29	E-93	30	28	36		69	G-89	36	32	20	
30	E-93	54	49	54		70	P-93	43	38	15	
31	E-93	56	56	40		71	Q-93	49	45	55	
32	F-93	31	31	42		72	P-93	37	34	12	
33	F-93	46	44	44	P33-P34	73	P-93	15	15	9	
34	F-93	59	55	69	P33-P34	74	次 番	×	×		
35	F-93	76	72	58		75	Y-85	49	×	48	
36	E-97	25	23	54		76	D-93	39	35	50	P76-P21
37	E-97	28	27	44		77	F-97	22	22	×	
38	E-97	28	27	47		78	Q-93	28	28	×	
39	E-F-97	33	32	51		79	×	×	×		
40	F-97	28	25	37	P40-P41	80	×	×	×		



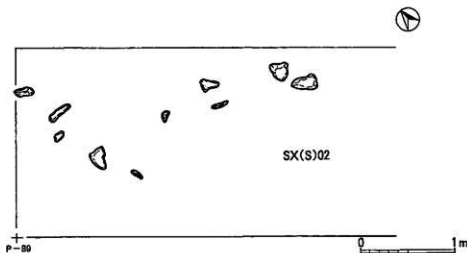
第62図 B区柱穴状ピット出土土器拓影図(1)



- | | | | |
|-----------|-------------|---------------|-----------------|
| Pit20 |27 | Pit46 |35 |
| Pit18 |28 | Pit51 |39 |
| Pit28 |29 | Pit52 |40, 41 |
| Pit31 |30 | Pit53 |42, 43, 44 |
| Pit32 |31 | Pit56, 57, 58 |45 |
| Pit38 |32, 35 | Pit62 |46, 47, 48 |
| Pit37 |33, 34 | Pit22 |49 |
| Pit44, 45 |36, 37 | | |

第63図 B区柱穴状ピット出土土器拓影図(2)

0 10m



第64図 B区第02号配石列実測図

第12号Tピット (第66、71、73図)

調査区南部のY-85グリッドに位置し、Ⅲd層下面で確認した。

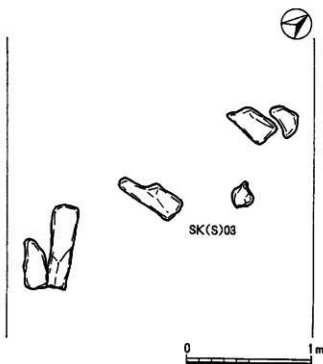
規模は、長軸 200cm以上×57cm、深さ 161cmを測り、長軸方向はN-63-Eである。

堆積土は6ブロックに区分され、人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片13点、石刀1点が出土した。

第14号Tピット (第66図)

調査区南東部のW-101グリッドに位置し、Ⅲd層下面で確認した。



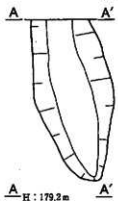
第65図 B区第03号配石列実測図

規模は、長軸 200cm以上×73cm、深さ 117cmを測り、長軸方向はN-50-Eである。

堆積土は6ブロックに区分され、人為堆積である。

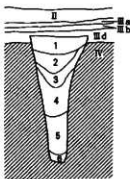
遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片13点、石刀1点が出土した。

SK(T)12



H : 179.2m

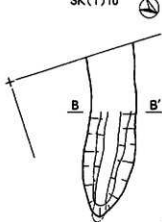
研



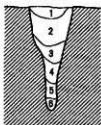
SK(T)12

1. 黒色土(10YR1、7/1)
2. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR6/6) 炭化物混入
5. 明黄褐色土(10YR6/8)
6. 黄褐色土(10YR5/6)

SK(T)10



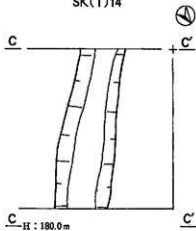
H : 181.2m



SK(T)10

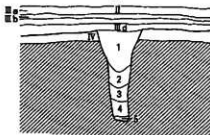
1. ヌブイ黄褐色土(10YR5/4)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. ヌブイ黄褐色土(10YR4/3)
5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR2/2)

SK(T)14



H : 180.0m

研



SK(T)14

1. 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒、炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR2/2)
5. 黒色土(10YR2/1)

第66図 B区Tピット実測図



② フラスコ状土坑

第01号フラスコ状土坑 (第67図、第71図)

調査区東側のO-105グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

口縁部径は144cm×138cm、底部径167cmを測り、確認面からの深さは107cmである。

底部はやや鍋底状を呈し、中央部より西寄りに径20cmほどのピットをもっている。堆積土は9ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片16点が出土した。

第02号フラスコ状土坑 (第67図、第71図)

調査区東側のP-109グリッドに位置し、Ⅳ層面で確認した。

口縁部径は112cm×95cm、底部径125cmを測り、確認面からの深さは64cmである。堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片7点が出土した。

第03号フラスコ状土坑 (第68図)

野中堂環状列石隣接地であるJ-89グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

口縁部径は67cm、底部径64cmを測る。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片24点が出土した。

第05号フラスコ状土坑 (第67図、第71図)

野中堂環状列石隣接地であるM-89グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。第12号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

口縁部径は98cm×74cm、底部径80cmを測り、確認面からの深さは75cmである。断面形は「靴」形を呈し、変形フラスコ状土坑となる。確認される堆積土は5ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片18点が出土した。

第06号フラスコ状土坑 (第67図)

野中堂環状列石隣接地北側のF・G-93グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

口縁部径は64cm×57cmである。確認される堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

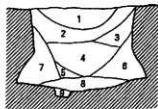
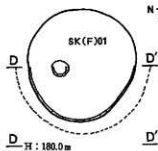
第07号フラスコ状土坑 (第67図)

野中堂環状列石隣接地北側のF-93グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

口縁部径は77cm×54cm、底部径160cmを測り、確認面からの深さは70cmである。堆積土は9ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

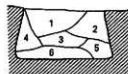
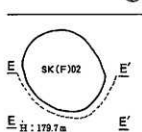
SK(F)01



SK(F)01

1. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 黒色土(OYR2/1) 礫土埋入、礫土埋入
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
5. 黒色土(OYR2/1)
6. 明褐色土(OYR3/2)
7. 明褐色土(OYR3/2)
8. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
9. 黒色土(OYR2/1)

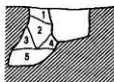
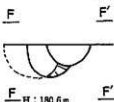
SK(F)02



SK(F)02

1. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 黒褐色土(OYR3/2)
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
5. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
6. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土、礫土埋入

SK(F)5



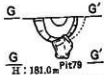
SK(F)5

1. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
5. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入

Pit2

1. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
5. 黒色土(OYR2/1) 礫土埋入
6. 黒色土(OYR2/1) 礫土埋入

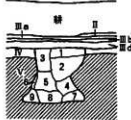
SK(F)6



SK(F)6

1. オイ 黄褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 暗褐色土(OYR3/2) 礫土、礫土埋入
3. オイ 黄褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. オイ 黄褐色土(OYR3/2) 礫土埋入、礫土埋入
5. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
6. 黒褐色土(OYR3/2)

SK(F)7



SK(F)7

1. 黒褐色土(OYR3/2)
2. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2)
5. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
6. 黒褐色土(OYR3/2)
7. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
8. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
9. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入

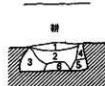
SK(F)11



SK(F)11

1. 黒色土(OYR2/1) 礫土埋入
2. 黒褐色土(OYR3/2)
3. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
4. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
5. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入

SK(F)19



SK(F)19

1. 黄褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
2. 黒褐色土(OYR3/2) 礫土埋入
3. 黒色土(OYR2/1)
4. 黒褐色土(OYR3/2)
5. 黒色土(OYR2/1)
6. 黒褐色土(OYR3/2)

0 2m

第67図 B区フラスコ状土坑実測図(1)

第9号フラスコ状土坑 (第68図、第70、71、73図)

野中堂環状列石隣接地北側のE-97グリッドに位置し、Ⅲ d層下面で確認した。

口縁部径は142cm×112cm、底部径120cmを測り、確認面からの深さは104cmである。確認される堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の復元可能土器1点、土器破片61点、石皿の破損品1点、土器片利用土製品1点が出土した。土器は波状口縁の深鉢で無文研磨された器面に沈線による楕円形文が縦位に連結されているもので、焼成は良好である。

第11号フラスコ状土坑 (第67図)

野中堂環状列石隣接地北側のG-93グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。口縁部径は72cmを測る。確認される堆積土は5ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第15号フラスコ状土坑 (第68図、第71~73図)

野中堂環状列石隣接地南東側のR・S-93グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。

口縁部径は105cmを測り、底部径125cm、確認面からの深さは124cmである。堆積土は5ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より縄文時代後期前葉の土器破片66点、凹石3点、石皿の破損品1点、土器片利用土製品1点が出土した。

第17号フラスコ状土坑 (第68図)

野中堂環状列石隣接地南東側のR-93グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。

口縁部径は77cm、底部径55cmを測り、南東側壁面が外反する、変形フラスコ状土坑となる。確認される堆積土は4ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第19号フラスコ状土坑 (第67図)

野中堂環状列石隣接地南側のP-93グリッドに位置し、Ⅳ層上面で確認した。

口縁部径は77cm、底部径55cmを測り、確認面からの深さは37cmである。堆積土は6ブロックに区分され人為堆積である。

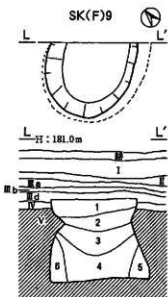
遺構内より遺物は出土しなかった。

第20号フラスコ状土坑 (第68図)

調査区南端部のX-79グリッドに位置し、Ⅲ d層上面で確認した。

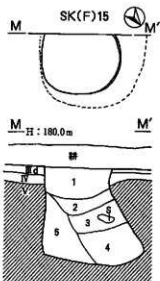
口縁部径は135cm、底部径55cmを測り、確認面からの深さは110cmである。堆積土は17ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。



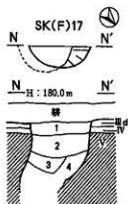
SK(F)9

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粘土粒、炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒、炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR3/2) 粘土粒、炭化物混入
4. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入



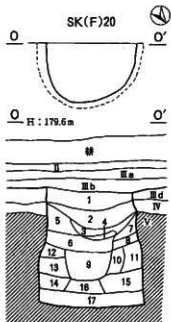
SK(F)15

1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
4. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入



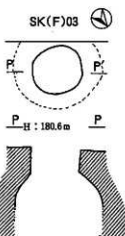
SK(F)17

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粘土粒、炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 粘土粒、炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入

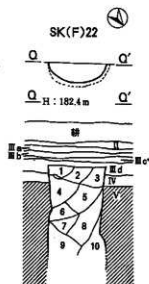


SK(F)20

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒色土(10YR1, 7/1)



5. 黒褐色土(10YR2/2)
6. 黒褐色土(10YR3/2)
7. 黒褐色土(10YR2/2)
8. 黒色土(10YR2/1)
9. 黒褐色土(10YR2/3)
10. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
11. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
12. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
13. 黒褐色土(10YR2/2)
14. 黒褐色土(10YR2/2)
15. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
16. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
17. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入



SK - 22

1. 黒色土(10YR2/1)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
4. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
6. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
7. 黒色土(10YR2/1)
8. 黒色土(10YR2/1) 炭化物混入
9. 黒色土(10YR1, 7/1)
10. 黒色土(10YR1, 7/1)

第68図 B区フラスコ状土坑実測図(2)

0 2m

第22号フラスコ状土坑（第68図、第70、72図）

野中堂環状列石隣接地南西側のF-89グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。

口縁部径は72cmを測り、壁面はやや外反する。確認される堆積土は10ブロックに区分され人為堆積である。堆積土より赤色塊が検出しており、その分析については第 章のとおりである。

遺構内より縄文時代後期前葉の復元可能土器1点、土器破片46点が出土した。土器は波状口縁の深鉢で無文研磨された器面に斜行沈線を主文様に、楕円形文によって連結された「0」状文が2段重なりながら等間隔に巡らされている。焼成は良好である。

(3) 土 坑

第08号土坑（第60図）

野中堂環状列石隣接地北側のF-93グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。第28号柱穴状ピットと重複し、本遺構が古い。

平面形は楕円形を呈し、径78cm×57cm、深さは27cmを測る。土坑長軸方向はN-21-Eである。確認される堆積土は、4ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第13号土坑（第69図）

調査区東端のS-116グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。

平面形は円形を呈し、径140cm、深さは12cmを測る。堆積土は2ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第16号土坑（第69図）

野中堂環状列石隣接地南東側のQ-93グリッドに位置し、Ⅳ層面で確認した。

平面形は楕円形を呈し、径127cm×79cm、深さは37cmを測る。土坑長軸方向はN-27-Wである。堆積土は2ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

第18号土坑（第69図）

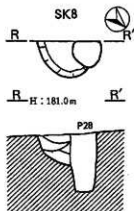
野中堂環状列石隣接地南東側のQ-93グリッドに位置し、Ⅳ層面で確認した。

平面形は楕円形を呈し、径43cm×36cm、深さは20cmを測る。土坑長軸方向はN-32-Wである。堆積土は3ブロックに区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。

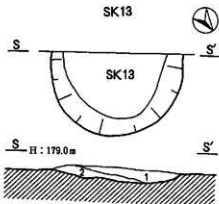
第23号土坑（第69図）

調査区南端部のX-79グリッドに位置し、Ⅲd層上面で確認した。平面形は楕円形を呈し、径91cm×78cm、深さは69cmを測る。土坑長軸方向はN-32-Wである。堆積土は8ブロックに



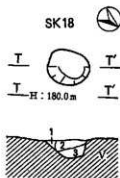
SK-8

1. 黒色土(10YR2/1)
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
3. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
4. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)



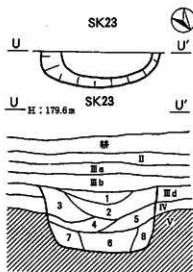
SK-13

1. ニブイ黄褐色土(10YR4/3)
2. 黒褐色土(10YR2/2)



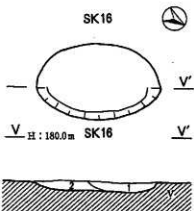
K-18

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR2/2)
3. 黒色土(10YR2/1)



SK23

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
3. 黒褐色土(10YR2/2)
4. 黒褐色土(10YR3/2) 炭化物混入
5. 黒褐色土(10YR2/2) 白色粘質土混入
6. 黒褐色土(10YR3/2)
7. 黒褐色土(10YR3/2)
8. 黒褐色土(10YR3/2)



SK-16

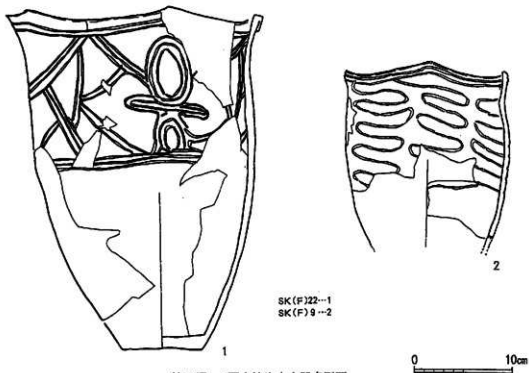
1. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物混入



第69図 B区土坑実測図

区分され人為堆積である。

遺構内より遺物は出土しなかった。



第70図 B区土坑出土土器実測図

4. 焼土遺構

第01号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のR-117グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は50×35cmである。

第2号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のR-113グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は80×50cmである。

第3号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のR-113グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は40×38cmである。

第4号焼土遺構 (第74図)

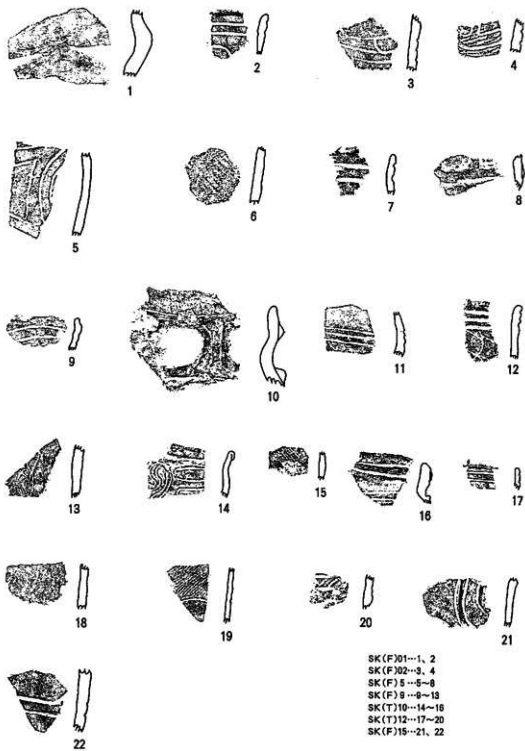
調査区東端のR-109グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は70×45cmである。

第5号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のR-109グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は50×40cmである。

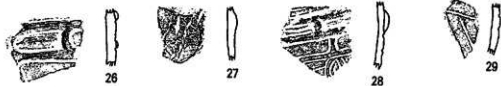
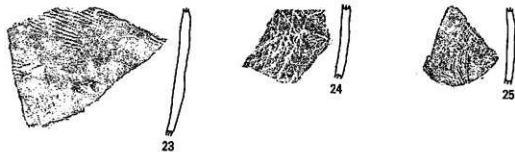
第6号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のS-109グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は60×40cmである。



第71图 B区土坑出土土器拓影图(1)

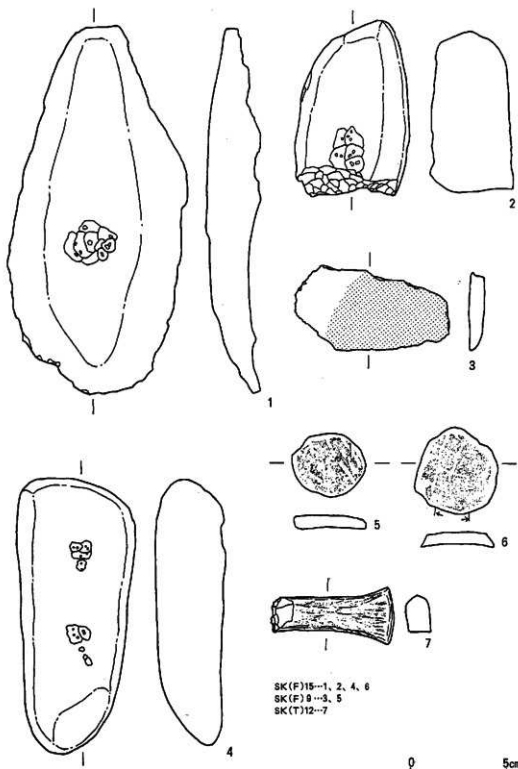
0 10cm



SK(F)15--23~30
SK(F)22--31~38

第72图 B区土坑出土土器拓影图(2)

0 10cm



第73图 B区土坑出土遗物实例图

第7号焼土遺構 (第74図)

調査区南西部のN-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は60×42cmである。

第8号焼土遺構 (第74図)

調査区南西部のN-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は95cmである。

第9号焼土遺構 (第74図)

調査区東端のR-113グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は117×45cmである。

第10号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のS-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は60×40cmである。

第11号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のS-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は×47cmである。

第12号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のS-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は50×37cmである。

第13号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のS-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は82×58cmである。

第14号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のV-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は53×38cmである。

第15号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のV-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は62×37cmである。

第16号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のV-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は54×33cmである。

第17号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のV-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は57×43cmである。

第18号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のW-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は50×35cmである。

第19号焼土遺構 (第74図)

調査区南端のW-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は53×37cmである。

第20号焼土遺構 (第74図)

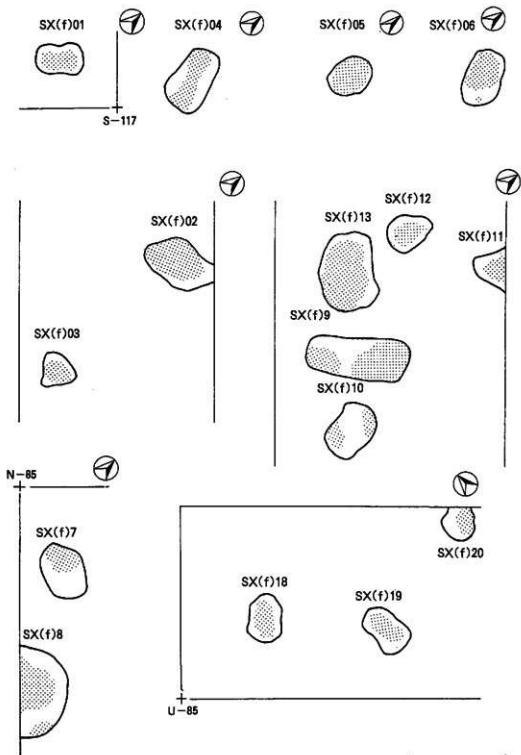
調査区南端のW-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は×33cmである。

第21号焼土遺構 (第75図)

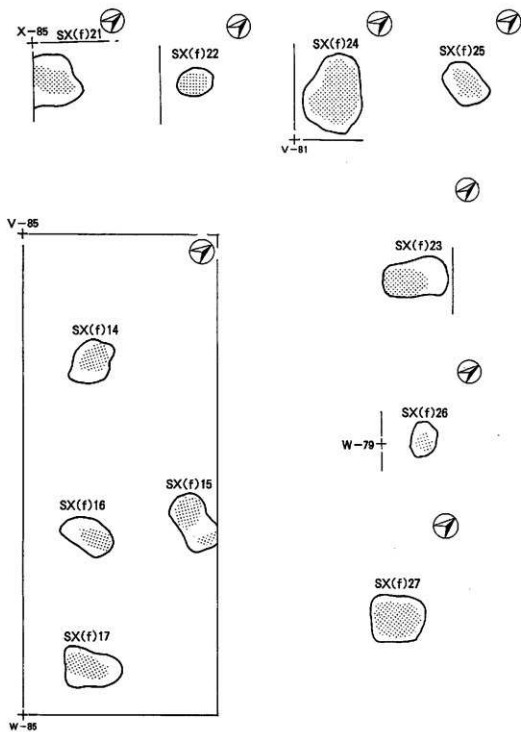
調査区南端のW-85グリッド・Ⅲd層上面で確認した。焼土範囲は×55cmである。

第22号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のT-81グリッド・Ⅲb層上面で確認した。焼土範囲は40×30cmである。



第74図 B区焼土遺構実測図(1)



第75图 B区烧土遺構実測図(2)

第23号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のU-81グリッド・Ⅲ b層上面で確認した。焼土範囲は65×40cmである。

第24号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のU-81グリッド・Ⅲ b層上面で確認した。焼土範囲は82×62cmである。

第25号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のX-81グリッド・Ⅲ b層上面で確認した。焼土範囲は50×35cmである。

第26号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のV-79グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は38×25cmである。

第27号焼土遺構 (第75図)

調査区南端のW-79グリッド・Ⅲ d層上面で確認した。焼土範囲は55×47cmである。

5. 遺構外出土遺物

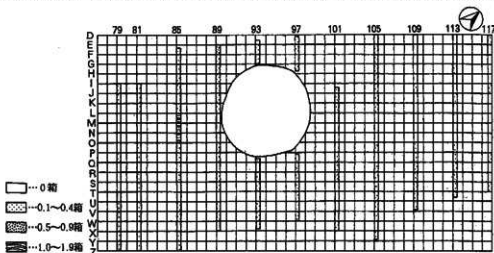
① 土 器 (第35図、第76～83図)

B区からは、8個体の復元・図化土器とコンテナ15箱の土器破片が出土した。これらの土器は縄文時代早期、後期、晩期、のものであり、数量的には縄文時代後期の土器が圧倒的に多い。土器は調査区にはは全域に点在しているが、特に野中堂環状列石南西側の外帯から約25m離れた地域に集中している。ほとんどが遺物包含層である第Ⅲ a～b層からの出土である。土器破片の分布状況については、第76、77図のとおりである。

土器の分類に関しては、時期ごとに群別し、文様や施文技法等で分類した。

第I群 早期～前期の土器 (第79図)

本群土器は早期～前期に位置付けられるもので、早稲田6類、春日町式A類に比定される土



第76図 B区土器破片分布状況

器である。

1類：沈線が施文される土器（4）

口縁部には平行の沈線が施文され、縦位方向に区画された沈線間に連結したS字状文が施文されている。焼成は良好で、色調は明褐色である。

2類：刺突が施文される土器（1～3）

口縁部から胴部にかけて竹管による刺突が施文される土器である。胎土には植物繊維、極めて細かい砂粒が含まれ、砂っぽい感じを受けるが焼成は良好である。色調は明黄褐色である。

第Ⅱ群 後期初頭から前葉の土器（第78図7、第77、80、81図5、12～67）

本群は、縄文時代後期初頭から前葉に位置付けされるもので、本群1類・2類は前十腰内式、本群3、4類は十腰内I式、本群4類は大湯式土器に比定されるものである。

1類：隆線文、隆沈文が施文される土器（13～15、18、20、23、24、27、28、64～67）

器形としては深鉢と壺がみられ、深鉢が主体となる。文様帯は隆沈文により区画され、その内部に円形文（渦巻文）、入組文、（ ）状文が施文される。焼成は良好で、色調は浅黄褐色、黒褐色を呈する。

2類：地文上に沈線文が施文される土器（第80図29～36）

深鉢が主体となる。地文としてRL・LR縄文、斜縄文が施文される、磨り消しを行い磨消手法がみられるものもある。平行沈線を主文様とするもの（31、34、35、36）、楕円形文を付加するもの（32、33）等がみられる。本類土器の焼成は良好で、色調は橙色、灰褐色、淡橙色を呈する。

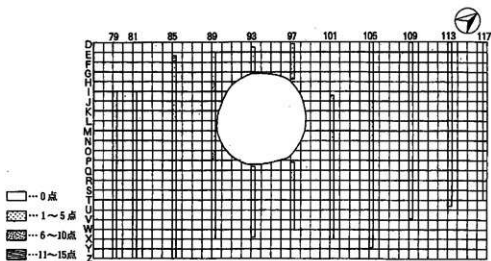
3類：沈線文の土器（第79、80図）

無文研磨された器面に1～数条の沈線、平行沈線により文様を描きだしたものを一括したほか、隆沈文によって文様帯が区画されたものも含めた。器形としては深鉢、浅鉢、壺が主体となる。深鉢は波状口縁、山形口縁を呈するものが多数見受けられる。

a：主文様が縦位方向に施文される土器（16、17、19、21、22、25、26、39、44、59）

深鉢、壺、浅鉢が主体となる。深鉢は平・波状口縁、山形口縁を呈し装飾的な粘土粒の貼りつけがみられる。

主文様として、弧線文、渦巻文、円形文、楕円形文が縦位方向に施文されるものを一括した。19は弧線文を主文とし（ ）字状を平行沈線間に挟み込む。21、26は弧線文を主文としている。16、17、25、44は楕円形文を縦位に施文するもので、44は円形文を挟み込み、17は弧線文で連結している。59は沈線によって連結した渦巻条文が縦方向に施文される。焼成は良好で、色調は灰褐色、明褐灰色、浅黄褐色、にぶい褐色を呈する。



第77図 B区縄文時代後期中葉土器破片分布状況

b : 斜行する平行沈線文の土器 (37, 38)

本類は平口縁を呈する深鉢が主体となる。37は平行沈線間に斜行沈線を、38は3条の平行沈線上に重なるように、数条の沈線を等間隔に施文している。焼成は良好で、色調はにぶい黄褐色、黒褐色を呈する。

c : 幾何学的な文様が施文される土器 (40, 43)

本類には幾何学的な文様を施文したものを一括した。深鉢が主体となるものと考えられる。40は深鉢の胴部破片で、入組文が連結され、43は平行沈線に「S」字状文が付加したものが施文される。焼成は良好で、色調はにぶい橙色、暗褐色である。

d : 主文様が横位に施文される土器 (41, 45)

平行沈線により曲線文、入組文が横位方向へ展開する土器を一括した。深鉢、浅鉢の器形がみられる。平行沈線によって区画された文様帯には入組文、弧線文が横位に展開し、41は孔を有する。焼成は良く、色調はにぶい橙色を呈する。

4類 磨消縄文を主体とする土器 (第78図7、第80、81図46~67)

帯縄文により文様が描かれるものを一括した。54~56、58、60は本類土器に付加される花卉状文、刺突文である。

a : 主文様が縦位方向に当間隔に施文される土器 (第78図7、第81図50、56、57)

2~3条の平行沈線により区画された文様帯内に当間隔に弧線文、鍵状文、楕円形文、横位S字文、渦巻文を施文したものを一括した。この他に花卉状文が主文様として当間隔に施文されるものもみられる。器形は深鉢、鉢、壺が主体となる。深鉢は液状口縁を呈し頂部に刻目を施すものもあり、文様帯は胴部中程まで及ぶ。

第77図7は平口口縁の深鉢である。口縁部には等間隔の刻目があり、胴部上半部に文様帯を持つ。主文様として楕円形文と鍵状文が当間隔に施文される。沈線間には無節の斜縄文が充填される。口径は20cm、器高は27.2cmを計り、色調は暗褐色を呈する。

50は口頸部・胴部文様帯をもち平行沈線による方形の区画を連結させ、沈線間にはRL縄文が充填する。57は2段鍵状文が施文され、沈線間にはL R縄文が充填される。色調は浅黄橙色褐灰色、黄橙色を呈する。

c：主文様が横位方向に施文される土器（46～63）

帯縄文により曲線文、入組文が横位方向に展開する土器を一括した。主文様のほかに花卉状文や刺突文（54～56、58、60）が付加されるものもある。いわゆる「大湯式土器」と呼ばれるものである。深鉢、鉢、壺が主体を占め、片口土器の破片もみられる。深鉢は山形・波状口縁を呈し、胴部上端に最狭部をもち、胴部上半に文様帯を有する。壺は胴部上半に文様帯を有する。47は片口土器の破片で弧線文と花卉状文が施文され、沈線間には無節の斜縄文が施文されている。46、48、49、52は胴部文様帯に入組文が展開される深鉢土器である。51、55、60、63は2～3段の沈線間に花卉状文が縦位に展開される。本類土器は焼成が良好なものが多く、色調はにぶい黄橙色、明赤褐色等を呈する。

第三群 縄文後期中葉から後葉の土器（第35図3、第82、83図68～100）

本群には、縄文後期中葉から後葉の土器を一括した。東北地方北部の十腰内Ⅱ式・Ⅲ式、東北南部の空ヶ峰式、関東地方の加曾利B1式・B2式に比定される。

1類：平行沈線文が主文様となる土器（第35図3、68～62）

口縁部に多条の平行沈線文を施文するものを一括した。深鉢、浅鉢が主体となる。

深鉢は波状・山形口縁を呈するもので頂部に裝飾突起が付けられるものもある。第34図3は胴部から口縁部にかけて大きく「朝顔状」に開き、口唇部は肥大となる。数条～5条の沈線を口縁部に巡らし、短刻線で連結している。沈線間にはL R縄文が施文されている。口縁部径は19cm、器高は18cmを計る。焼成は良好で、色調は黒褐色である。69は弧線文を巡らし、山形口縁部頭頂部には刻目を有する。いずれの土器破片もRL縄文が沈線間に施文される。焼成は良好で、色調は浅黄橙色、黒褐色、にぶい黄褐色、にぶい橙色、灰褐色を呈する。

2類：磨消縄文の土器（76～89）

曲線的な沈線で描きだした幾何学的な磨消縄文が施文された土器を一括した。深鉢・壺が主体となる。深鉢は1類に類似した形状を呈し、より裝飾的な突起が付けられる。壺は平口縁山形口縁を呈する。文様帯は口縁部・胴部に区画され、主文様として円形文、変形楕円形文（アメイバ）蛇行文がみられる。沈線内には条の細かい単節斜縄文が施文されている。焼成は良好で、色調はにぶい褐色、浅黄橙色、にぶい赤褐色を呈する。

3類：磨消縄文に刺突が伴う土器（92、95、97～99、100）

本群2類土器に類似した器形と文様を持つものであるが、沈線内の縄文部分に接続する刺突が付加されたものを一括した。刺突には竹管を用い器面に対し垂直又は斜位に突刺している。本類土器には胴部に刺突が施されないものも存在する。焼成は良好で、色調はにぶい赤褐色、明赤褐色、黒褐色、橙色を呈する。

4類：沈線・短刻線の土器（90、91、94、98）

深鉢が主体となるが、万座環状列石周辺調査では注口土器や筒形土器が出土している。91は深鉢型の注口土器で注口に隆帯を巡らし、短刻線を連続している。90、98は数条の沈線を巡らし、短刻線で連結している。94は口縁部に短刻線が連続して施文されるものである。いずれも本調査区からは出土しなかった。

第IV群 縄文時代後期の土器（第78図1～6、第79図6～11、第83図101～115）

本群には無文、条痕文、縄文、鬚糸文土器を一括した。出土土器のなかで本群土器の出土量は圧倒的に多い。時期別の細分は極めて困難であるが、時期の特定できたものについては各群のなか資料を提示している。

1類：無文の土器（第78図1、2、4、5）

深鉢、鉢、浅鉢、壺がみられる。深鉢、鉢は平口縁、壺は平口縁・波状口縁を呈する。1は深鉢土器、2、5は壺形土器のミニチュア土器である。焼成は良く、色調は赤褐色、にぶい黄橙である。4は台付鉢で、口縁部径11.5cm、器高7cmを計る。焼成は良好で、色調は明黄褐色である。

2類：条痕文の土器（107～112、115）

平口縁の深鉢が主体となる。条痕は器面に対し縦位、斜行、横位方向に施文される。口縁部に無文帯を残すもの、上端より施文するものがある。109は格子目文が施文され、111、115は縦位と横位の条痕文が重ねられている。焼成は良好で、色調は浅黄橙色、灰褐色を呈する。

3類：縄文の土器（第78図6、第79図6～11）

本類には、無節・単節縄文の施文された土器を一括した。

a：無節斜縄文が施文される土器（第78図3、第79図6）

平口縁を呈する深鉢、壺が主体となる。地文としてL・R縄文が施文される。第78図3は頸部の短い壺形土器で、器面にはR斜縄文が施文されている。6はL斜縄文が施文され、折返し口縁の深鉢土器である。焼成は良好で、色調は黄橙色、黒褐色を呈する。

b：単節斜縄文が施文される土器（第78図7、第79図7～11）

平口縁を呈する深鉢、壺が主体となる。地文としてLR・RL縄文が施文される。第78図7は深鉢で頸部はやや絞まり、口縁部は外反する。LR縄文を地文とし、磨消技法もみられる。

口縁部径は24.4cm、器高は34.4cmを計る。焼成は良く、色調はにぶい黄橙である。また、11のように胴部上端に圧痕文を施し口縁部・胴部文様帯を区画し、口縁部を無文化するものなどがある。焼成は良好で色調は橙色、灰白色を呈する。

4類：燃糸文の土器（102、106）

短軸結条体回転文、網目状燃糸文を施したものを一括した。

原体にはL・R無節縄文が使用される。

a：短軸結条体回転文の土器（102、105、106）

折返しをもち平口縁の深鉢が多くみられる。文様は口縁部上端より施文されるもののほか、口縁部を無文化のものがある。焼成は良好で、色調は灰黄褐色を呈する。

b：網目状燃糸文の土器（103、104）

平口縁を呈する深鉢を主体とするが、緩やかな波状を呈するもの、折返口縁が存在する。焼成は良好で、色調はにぶい褐色灰黄褐色を呈する。

第Ⅳ群 孔が穿たれた土器（第83図113～114）

土器の口縁部や胴部に孔が穿たれた土器を一括した。孔は土器作成段階から開けられているものや後から開けられているものがある。

② 石 器

B区遺構外より出土した石器は多種多様で、その数は剥片石器148点、礫石器が67点の総計215点である。遺物は調査区ほぼ全域に分布しているが、特に野中堂環状列石南東側、外帯から約25m付近に多くみられる。遺物の大半は遺物包含層Ⅲa～Ⅲbからの出土である。石器の分類については、形態別に類別細分した。石器出土分布図は第84図の通りである。

石 鏃（第85図）

形態から2群4類に分類した。石材は硬質頁岩が多く、珪質頁岩、黒色頁岩と続く。

1群…有茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

a…平茎有茎石鏃で4点出土した。剥離調整はいいである。（1～4）

b…凹茎有茎石鏃で1点出土した。基部に抉れをもつものである。（5）

2群…無茎石鏃で、基部形態から以下のように細別した。

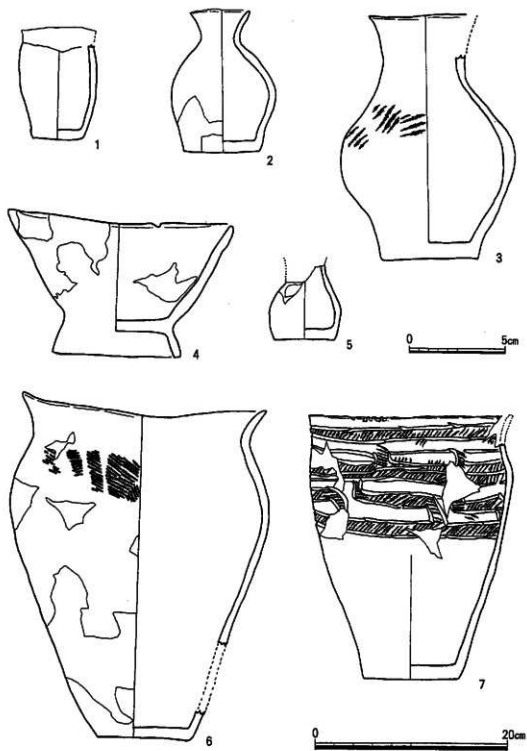
a…平茎有石鏃で1点出土した。（6）

b…凹茎石鏃で1点出土した。全体的に薄く、剥離調整はいいである。（7）

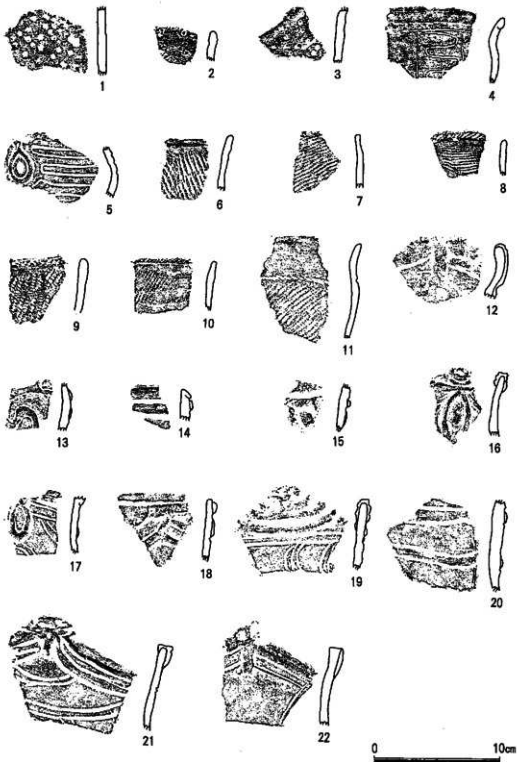
石 鏃（第85図）

形態から3群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩である。

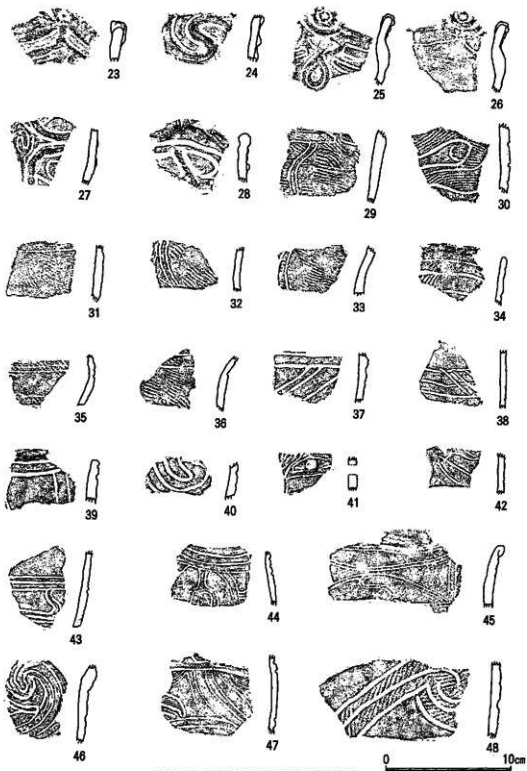
1群…つまみ部と錐部の境が明確なもので、2点出土した。錐部のみばかりでなく、つまみ部にもいいな剥離調整がなされている。破損品が多い（8、9）



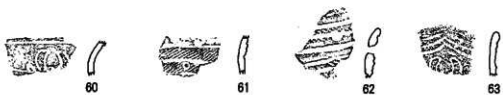
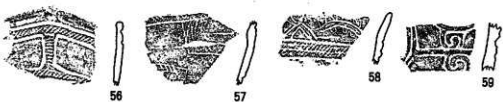
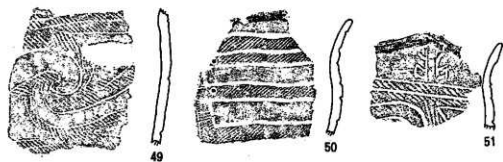
第78图 B区道溝外出土土器実測図



第79图 B区遺構外出土土器拓影图(1)

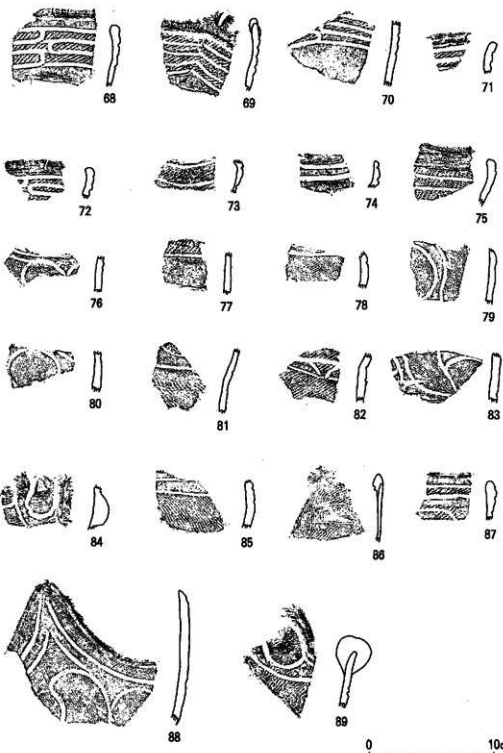


第80图 B区道横外出土土器拓影图(2)

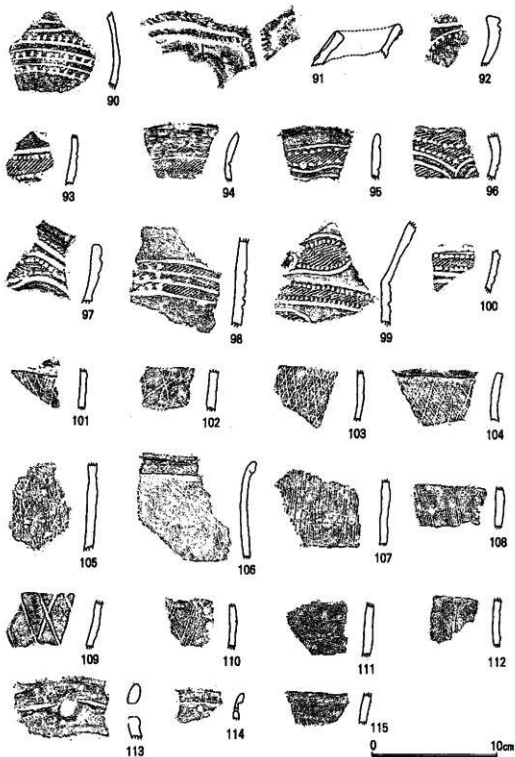


0 10cm

第81图 B区遺構外出土土器拓影图(3)



第82图 B区遺構外出土土器拓影图(4)



第83图 B区遺構外出土土器拓影图(5)

- 2群…つまみ部と錐部の境が明確でないもので、4点出土した。錐部のみばかりでなく、つまみ部にも比較的いいいな剥離調整がなされている。破損品が多い(10、11)
- 3群…剥片の一部に錐部を作り出しているもので、8点出土した。錐部には破損や磨耗がみられる(12、13)

石 匙 (第85、86図)

形態から2群に分け、さらにつまみ部を上にして主要刃部が作り出される位置から、5類に細分した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩、黑色頁岩である。

1群…楯型石匙である。刃部が破損しているものがみられる。

- a…主要刃部が、一側縁に作り出されるもので、4点出土した。(14、15)
- b…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、7点出土した。(16、17)
- c…主要刃部が先端部に作り出されるもので、2点出土した。(18)

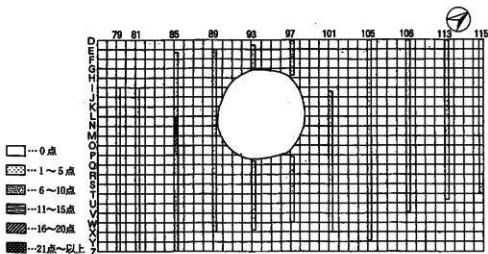
2群…楕型石匙である。刃部の作りはいいである。

- a…主要刃部が一側縁に作り出されるもので、1点出土した。
- b…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、1点出土した。(19)
- c…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、1点出土した。(25)

攝 器 (第86、87図)

打面を上にして、主要刃部が作り出される位置および、刃部の形態別に6群に分類した。石材は硬質頁岩、珪質頁岩が多く、黑色頁岩、赤色頁岩もみられる。

- 1群…主要刃部が左、右、いずれか一側縁に作り出されるもので、61点出土した。(20~22)
- 2群…主要刃部が先端部に作り出されるもので、6点出土した。(23、24)



第84図 B区石匙分布状況

- 3群…主要刃部が二側縁に作り出されるもので、19点出土した。(25)
 4群…主要刃部が三側縁に作り出されるもので、3点出土した。(26、27)
 5群…主要刃部が周縁全域に作り出されるもので、3点出土した。(30、31)
 6群…刃部に抉れをもつもので、16点出土した。(28、29)

石 斧 (第90図)

形態から2群に分類した。

- 1群…打製石斧である。1点出土し、刃部、基部ともに破損が著しい。石材は砂質凝灰岩である。(54)
 2群…定角式磨製石斧である。3点出土し、刃部、基部ともに破損が著しい。石材は緑色片岩、砂岩、火山礫凝灰岩安山岩である。(55、56、58)

石 錘 (第88図32~38)

扁平な川原石の一部が打ち欠かかれているもので、7点出土した。石材は砂質凝灰岩、砂質凝灰岩、緑色凝灰岩、泥岩等である。

敲 石 (第88図39~42)

円礫、扁平な川原石の一部が打ち欠かかれているもので、14点出土した。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、砂質凝灰岩、石英閃緑王分岩、緑色凝灰岩、石英安山岩等である。

凹 石 (第89、90図51、52、47~50)

円礫、棒状の礫、扁平な川原石に使用痕として凹が観察されるもので、27点出土した。両面を使用しているものがほとんどである。磨面が観察されるものもみられる。石材は砂質凝灰岩、凝灰質泥岩、緑色凝灰岩、緑色片岩、石英閃緑王分岩、砂岩、石英安山岩と様々である。

磨 石 (第88、89図43~46)

円礫に磨痕が観察されるもので、12点出土した。石材は砂質凝灰岩、石英安山岩である。

石 皿 (第90図57)

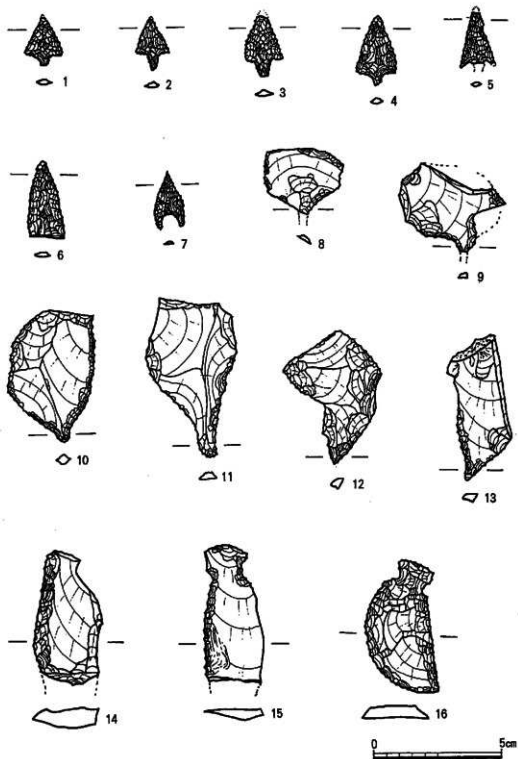
1点出土した。欠損品で、縁をもつものである。破損後砥石として使用されたものと考えられる。石材は砂質凝灰岩である。

砥 石 (第90図53)

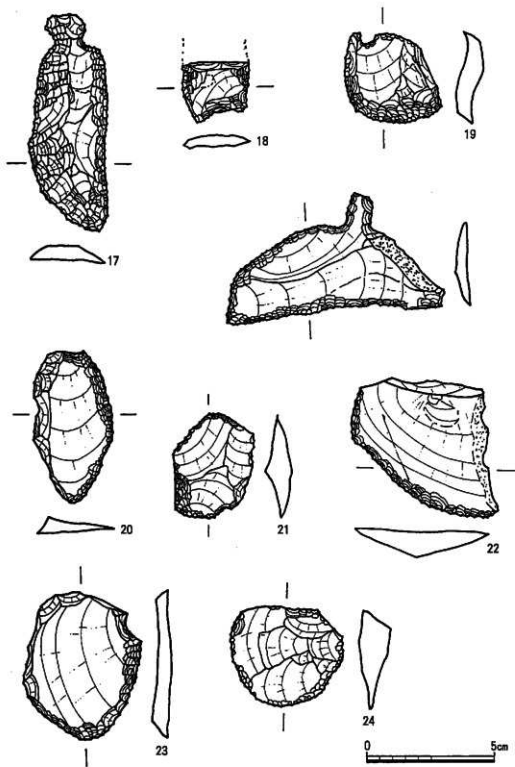
1点出土した。石材は砂質凝灰岩である。

③ 土 製 品

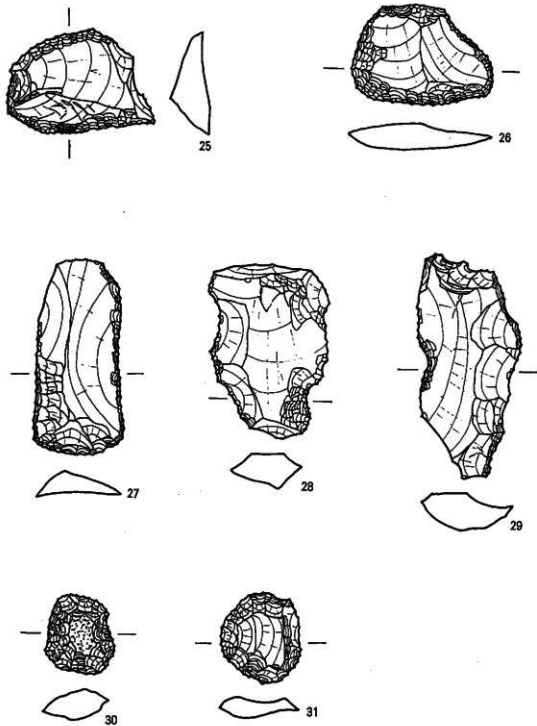
B区遺構外より出土した土製品は、装飾品1点、鐙形土製品2点、土器片利用土製品が66点の総計69点が出土した。土製品の出土分布状況は第91、93図の通りであるが、野中堂環状列石周辺に分布し、特に南西部に多く分布する。



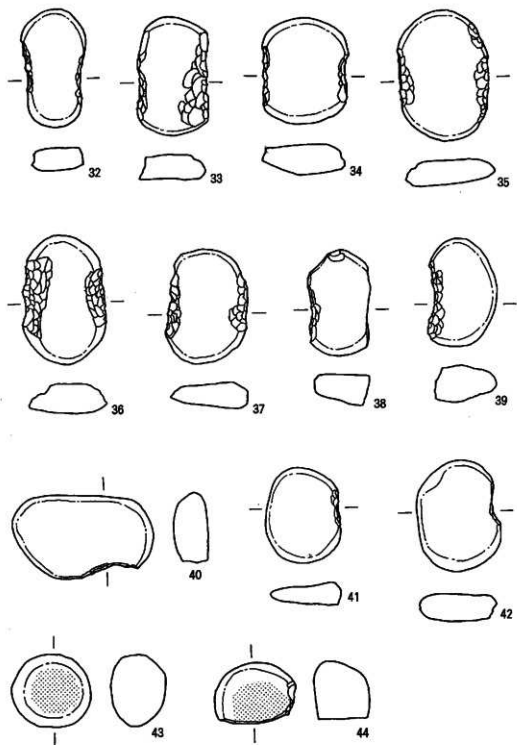
第85图 B区道横外出石器实例图(1)



第86图 B区遺構外出石器実測図(2)

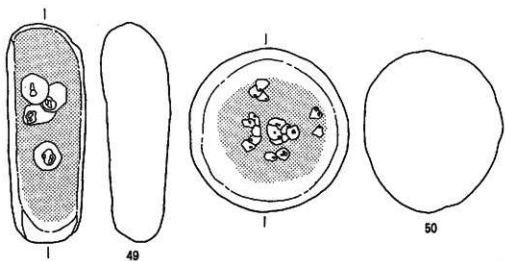
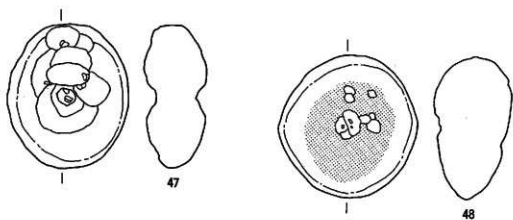
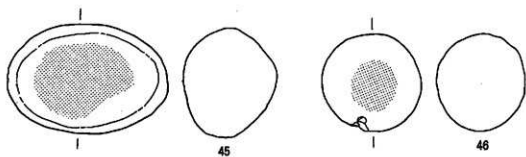


第87图 B区遺構外出土石器実測図(3)

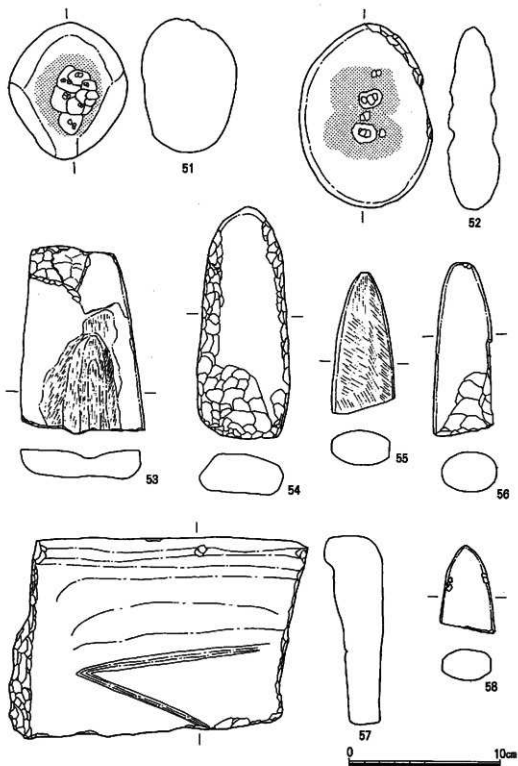


第88图 B区遺構外出土石器実測図(4)





第89图 B区道桥外出石器实测图(5) 10cm



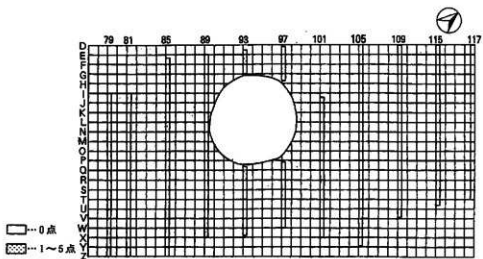
第90图 B区道槽外出土石器夹测图(6)

裝飾品（第92図3）

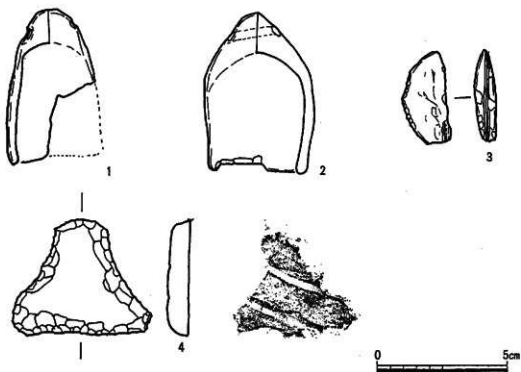
破損品であるが、円形のもので縦方向に貫通孔を有する。

銅形土製品（第92図1、2）

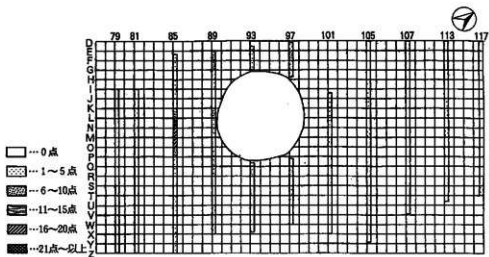
破損品が多く、全て無文のものである。胴部に対して横方向に貫通孔が穿たれている。



第91図 B区土製品分布状況



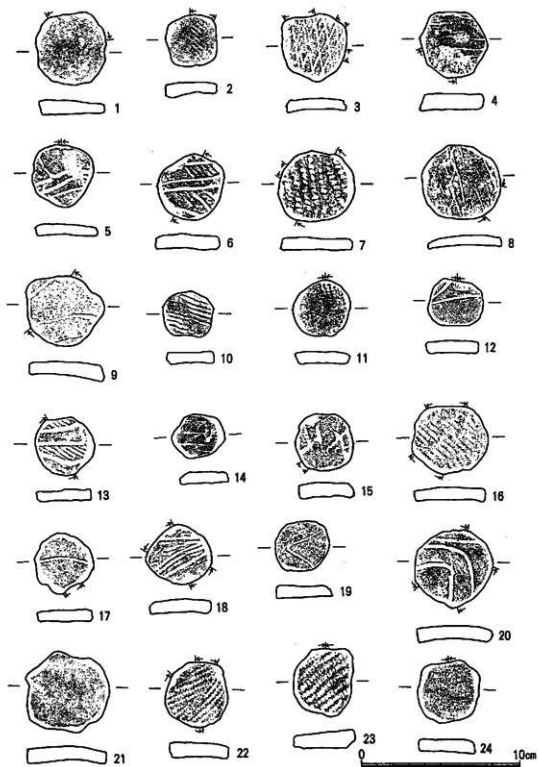
第92図 B区遺構外出土土製品実測図



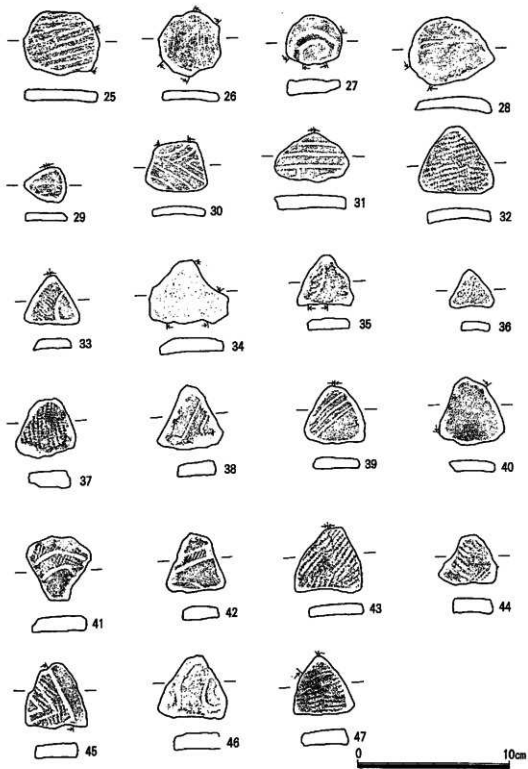
第93図 B区土器片利用土製品分布状況

土器破片利用土製品（第92図4、第94、95図）

土製品の中で最も多く出土した。形態的に円形（44点）、三角（22点）に分類した。土器破片を打ち欠きと研磨により整形しているもので、前者による整形技法が多い。特に第92図4は三角というよりは三脚に近い整形がなされている。



第94图 B区遺構外出土土器片利用土製品拓影圖(1)



第95图 B区遗址外出土土器片利用土製品拓影图(2)

④ 石製品

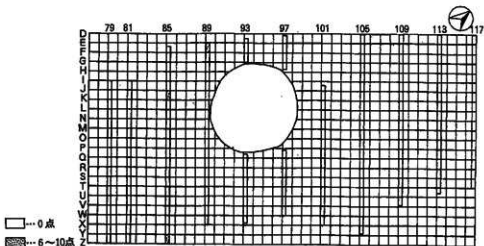
B区遺構外より出土した石製品は、板状石製品4点、環状石製品1点、石棒1点が出土した。
出土分布状況は第 96 図の通りである

板状石製品 (第97図1~4)

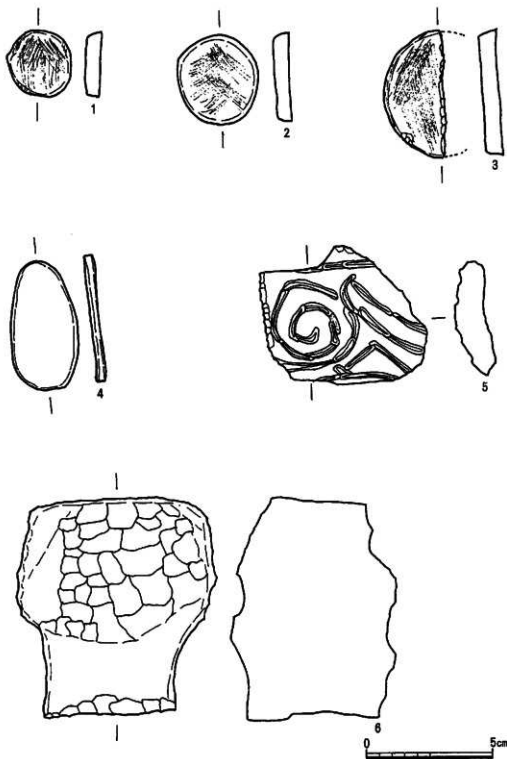
土器破片利用土製品同様打ち欠き、研磨により円形に整形された、板状の石製品である。4は鋭利な刃物で切断されたような断面をしており、側面は研磨により磨かれている。石材は砂質凝灰岩、石英安山岩、泥質凝灰岩である。

石 棒 (第97図6)

棒状の礫を打ち欠き先端にふくらみをもたせたものである。先端部は破損し、両面が凹んでいる。泥質凝灰岩である。



第96図 B区石製品分布状況



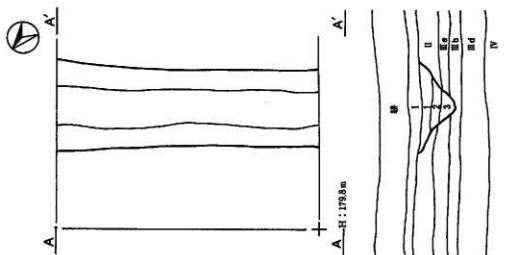
第97图 B区渡槽外出土石製品实测图

第V章 歴史時代の遺構

1. 溝状遺構

第01号溝状遺構 (第 四 図)

調査区南端部V-79グリット、II層上面で確認した。深さ25cmの溝に火山灰の混入した堆積土がみられ、それらは3層に区分され、自然堆積である。確認された規模は長さ200cm以上、幅70cmを測る。調査区外へと延びるものである。遺構内より遺物は出土しなかった。



SD1

1. 黒色土(10YR2/1) 浮石粒混入
2. 黒褐色土(10YR2/2) 浮石粒混入
3. 浮石(火山灰)(YR2/2)

第98図 B区第01号溝状遺構実測図

第VI章 自然科学的調査

大湯環状列石第16次発掘調査 B区第20号柱状ビット出土炭化材の樹種同定結果

秋田県小坂町立十和田小中学校 山谷昌久

1. 樹種同定方法

出土した炭化材は、軟化し非常に脆くなっているため、光学顕微鏡観察用切片を作成するため、徒手切片法を用いたが、切片の作成は困難であった。

そこで、資料の表面の土を洗い落とすあと、割れてできた断面を写真撮影することで観察した。

2. 出土炭化木材の特徴

構成要素 構成要素としては導管要素のみがはっきりと確認できる。

木口面 環境孔材であり、孔部の導管はほとんど単独で、1～4列に並び、孔圏外で急に大きさが減ずる。

孔圏外の小導管はやや斜線状に配列をしているようにみえるものの、クリ（ブナ科）のようなはっきりとした火災状の配列は確認できない。

柀目面 孔部部の導管のようすから、単せん孔であることが確認できる。

また、導管の内腔にはチロースが存在する。

3. 樹種の同定

構成要素、木口面、柀目面の特徴から、ブナ科コナラ属（FAGACEAE, *Quercus*）のうちの落葉ナラ類（コナラ亜属に）分類される樹種のうち、クヌギやアベキのなかまと考えられる。また、木片端に人工的な切断面が確認され、その部分の火災が著しい。

4. 出土炭化植物の特徴

構成要素 炭化が進んでいるため、構成要素の確認ができなかった。

5. 種の同定

構成要素の確認ができなかったこと、形状などからみて草本類、単子葉類（ヨシ・アシ）ではないかと考えられる。しかし、草本類に関する資料がみられず、種の同定はできなかった。

参考文献

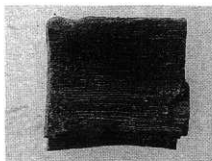
- 島地 謙、伊藤隆夫 共著 「図説 木材組織」 地球社
「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣
- 井上 浩、岩槻邦雄 等 共著 「植物系統分類の基礎」 北隆館
- 北村四郎、村田 源 共著 「原色日本植物図鑑」

炭化材

98' 大湯pit20 中位



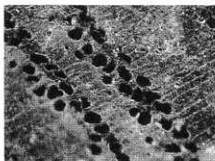
出土した炭化物



木片全体 (内側)



炭化物



木口面



炭化物の断面図



柁目面

遺跡基本層序の成分分析とSK(F)22号出土赤色岩石の鑑定

秋田県資源技術開発機構

研究開発課研究員 岸

勉

1. 概要

(1) 調査内容

大湯環状列石（野中堂環状列石）周辺に分布する土壌基本層序各層の物性、構成鉱物及び化学成分の特徴を明らかにすることを目的に、加熱時の重量変化測定、X線回折による主要構成鉱物の同定、蛍光X線分析による主成分元素の定量などを行った。

(2) 採集試料

野中堂環状列石周辺のトレンチ坑より土壌試料7点、及び礫1点を採集した。また、界道を挟み北西に位置する万座環状列石周辺に露出するⅢd層直下の土壌も採集した。採集試料を第1表に示す。

野中堂環状列石周辺試料99SC01はトレンチ底部に発見されたピット坑（SK22）底部に産した赤色土であり、下位の黒色～濃褐色土壌との境界部には99SC02に代表される数cm～拳大程度の大きさの礫が混在している。

99SC03～05と06～08はそれぞれ同一地点で鉛直方向に採集したものである。（第2図及び第3図参照）

2. まとめ

(1) 土壌基本層序の物性、鉱物学的・化学的特徴

野中堂環状列石周辺の基本層序Ⅲ～Ⅴ層を比較すると、上位ほど保水率、含水量、揮発成分含有量が高く、低い含礫率を示す。化学成分では、上位層ほどTi, Al, Fe, Mg, Pに富みNaに乏しい。

こうした物性及び化学的特徴は、土壌母材に占める腐食起源物と岩石風化起源物の量比によるものと考えられる。

化学成分のなかで Na_2O のみが下位層ほど多く含まれるのは、周辺の地質が火山ガラスを多く含む凝灰岩で形成されているためと考えられる。

Ⅲ層内（ab, c, d）の層位関係と物性及び化学成分の関係は、直上の凝灰岩礫層からの礫の混入などの影響により、必ずしも一致しないが、2個のⅢc層試料を比較すると、礫含量以外の物性値や化学成分はほぼ類似した値を示すことから、物性値や化学成分による詳細な層位対比も可能であると思われる。

Ⅲd層はⅢ層内で最も保水率、含水量、揮発成分含有率や Na_2O が高く、 Ti_2O_3 , Al_2O_3 , Fe_2O_3 , MgO , P_2O_5 が低いことから、Ⅲ層内でも有機物を多く含む層と考えられる。このことは、

Ⅲ d 層形成時に多量の有機物を堆積する環境にあったことを示しているのかもしれない。

99SC09は万座環状列石の近辺のⅢ d 層直下で採集した試料であるが、物性値及び化学成分の特徴は、野中堂Ⅲ d 層 (99SC05) に類似したものである。

基本層序は共通して石英と斜長石及び微量のスメクタイトを含むが、Ⅲ a b 層は普通輝石、Ⅲ d 層は方解石を含むことで特徴付けられる。Ⅲ d よりも下位の層準 (Ⅲ d、Ⅳ、Ⅴ) で緑泥石が産するが、万座Ⅲ d 下位 (99SC09) には認められなかった。

② 遺構にみられる赤色塊の物性及び化学的特徴

99SC01は、トレンチ坑底に発見されたSK(F)22号ピット内に堆積した赤褐色の層であるが、その物性は保水率、含水率、揮発成分含有量とも基本層序各層よりも著しく低い値を示す。

鉱物組み合わせでは、石英に著しく富み、その他の大部分は斜長石、赤鉄鉱から構成されている。こうした鉱物学的特徴は、第15次発掘調査で産した「赤色岩石」に類似している。

99SC01や「赤色岩石」は、極端にSiO₂に富むなど、化学的特徴は基本層序各層と大きく異なっているが、99SC01は「赤色岩石」よりもFeに富みAl、Ca、Na、Kに乏しい。また、99SC01と「赤色岩石」両者間におけるこれらの元素の相違は他の元素成分よりも顕著である。

こうした物性や鉱物学及び化学的特徴は、99SC01や「赤色岩石」が、いずれも比較的粗粒な石英、赤鉄鉱、斜長石の粒子集合であることに由来すると考えられる。また、こうした赤色塊の化学成分は赤鉄鉱と斜長石の量比に直接的に支配されていると考えられる。

第1表 採集試料一覧

試料名	区分	採集位置	層準	野外での色調	風乾後の色調	備考
99SC01	土壌	野中堂環状列石SK22坑	—	赤褐色	赤褐色	トレンチ坑底90cm下出土
99SC02	礫	◇	—	灰緑色	—	SC01基底部の礫
99SC03	土壌	◇	Ⅲab	黒色	黒色	
99SC04	土壌	野中堂環状列石M85坑	Ⅲc	暗褐色	黒色	
99SC05	土壌	◇	Ⅲd	黒色	黒色	
99SC06	土壌	◇	Ⅳ	褐色	褐色	
99SC07	土壌	◇	Ⅴ	黄褐色	黄褐色	トレンチ坑底
99SC08	土壌	◇	Ⅲc	暗褐色	黒色	
99SC09	土壌	万座環状列石	—	黒色	黒色	Ⅲdの下位層

(平成11年11月4日採集)

1-2. 分析法の概要

採取した土壌試料の分析及び検出限を以下の手順で行った。



第4図 分析・検出手順



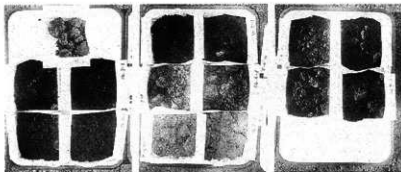
第1図 試料 99SC01 及び 02 の産状



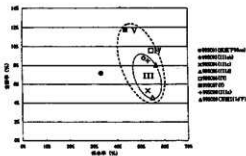
第2図 試料 99SC03～05 の産状



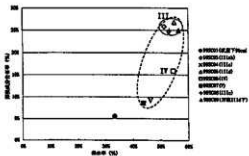
第3図 試料 99SC06～08 の産状



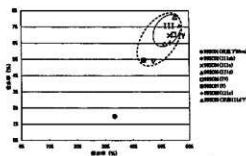
第5図 風乾中の土壌試料



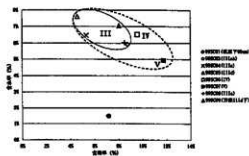
第12圖 礫石第一全水率



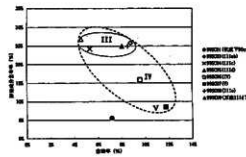
第13圖 礫石第二群組成成分分布



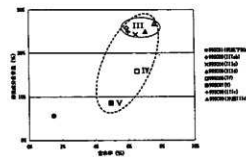
第14圖 礫石第三全水率



第15圖 礫石第四全水率



第16圖 礫石第五群組成成分分布



第17圖 全水率一礫石組成成分分布

第5表 試料中の主成分組成物の濃比

試料名 (番号)	鉱物名					粘土鉱物	
	石 尖	斜 長	赤 鉄	方 解	雲 母	ス ノ ク ラ イ ト	緑 泥 石
99SC01 (枕底 90cm)	◎	△	△			-	
99SC03 (IIIa)	◎	◎		△		-	
99SC04 (IIIc)	◎	◎	△			-	
99SC05 (IIIb)	◎	◎	△		○	-	-
99SC06 (IV)	◎	◎	△			-	-
99SC07 (V)	◎	◎				-	-
99SC08 (IIIc)	◎	◎				-	
99SC09 (万葉 III4 下)	◎	◎				-	

◎ : 多量 (含量比が 30% 以上) ○ : 少量 (含量比が 10% 以上)
 △ : 少量 (含量比が 10% 以下) - : 発見 (検出可能範囲)

第七章 調査のまとめ

大湯環状列石は、鹿角市の北東部、米代川の支流である大湯川と豊真木沢川に挟まれた舌状台地上に造られている。台地上は現況では平坦であるが、環状列石が構築された当時は起伏に富む地形であった。万座・野中堂環状列石及びそれと関連する遺構は大半は丘状部に造られている。鹿角市内の遺跡の大半が舌状台地上で確認されているが、これまでの調査で1遺跡でこのような起伏の小刻みな場所は環状列石が唯一である。また、前調査で遺跡周辺の花粉分析を行いクリ科、ブナ科、コナラ科等の多種多様な植物が自生していたことが明らかとなっている。さらに、環状列石両側の台地縁辺部には現在でも豊富な水量を誇る湧水があり、周辺の山並みを一望できる等、環状列石を中心とした「まつりの場」を構築する場所としては好条件の地であった。

昭和59年度より開始した発掘調査も、本年度で第16次調査となり、平成10年度より地方拠点史跡等総合整備事業により遺跡の保存と研究・縄文の雰囲気大切にしたい整備事業を進めている。

本年度の調査は環境整備事業に係わる基礎資料収集と環状列石から発信される縄文時代の精神文化を解明する糸口をつかむことを目的に、万座環状列石を取り囲むフェンス下及び万座環状列石内帯・外帯間（D区）と野中堂環状列石周辺（B区）の3ヶ所に調査区を設定した。

D区では、これまで万座環状列石の防護のために据えられていたフェンス撤去に伴い、同フェンス下未調査部分の遺構分布状況を確認した。また、万座環状列石内帯・外帯間では、残存するⅡ層下面～Ⅲa・b層除去作業を行うとともに、土砂の流入によって埋もれた粗石の露出作業を行った。さらに、昭和26・27年の国営調査時に行われた列石内トレンチ調査の再調査も行った。

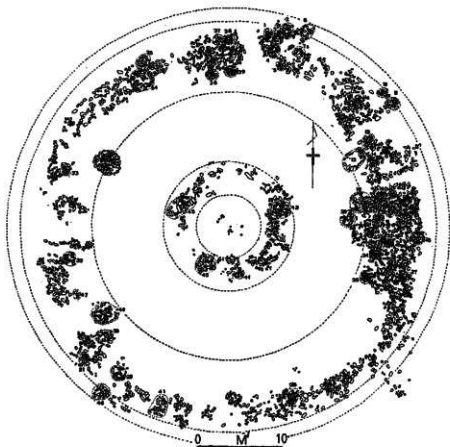
B区では、平成12年度より行われる野中堂環状列石周辺の調査計画の基礎資料を得るために、調査区内に20m間隔のトレンチ掘りを行い、遺構の分布状況を把握することとした。

1. フェンス下調査成果

万座環状列石を取り囲むフェンス下未調査部分を調査した結果、柱穴状ピット89個、フラスコ状土坑7基、土坑7基を確認した。柱穴状ピットはこれまで万座環状列石周辺で相当数検出し、それらが4～6本柱からなる建物配置を示すことが明らかとなっていた。これまでの調査から検出された建物跡は56棟を数え、それらが規則的な配置に構築されていることが、第15次調査報告書で述べた。しかし、56棟のうち9棟の建物跡の一部柱穴が本調査地であるフェンス下未調査部分に存在するものとして、推定の域を出ずにいた。本年度の調査ではそ

圖
第
四
圖
Pt. 4 A survey map of the site at Manna

万
里
塚
遺
跡
圖



第99圖 D区万座環状列石実測圖（昭和26・27年國營調査時図面）



第100图 D区万座环状列石实测图最新版(1999年)

これらの柱穴が予想される配置の部分で確認することができ、第15次調査報告書で推定した建物跡の規則的な配置が明確となった。

今後、柱配置を示さない柱穴状ピットの用途が課題となる。

万座環状列石には、北側と南側に出入り口部分をもつことがわかってきたが、本年度の調査で東側出入り口と思われる、第9910、9911号配石列が新たにみつかった。

本配石列は、万座環状列石東部外帯から東側に延びるように並べられている。配石列は南北出入り口と比較し、短めで、不整形である。

土坑は外帯部により近い部分で確認され、特に第9912号土坑は、堆積土中に1本の立石が直立の状態で落ち込んでいたことが注目される。

2. 万座環状列石内帯・外帯間Ⅱ～Ⅲ a b層除去作業結果

昭和26・27年調査時では万座環状列石の内帯・外帯の組石を露出し、その後昭和58年に鹿角市教育委員会が内帯・外帯間の表土～Ⅱ層上までの除去を行っている。本年度は残存するⅡ～Ⅲ a b層の除去作業を行った。その結果、内帯・外帯間に予想もされなかった配石遺構や配石列が検出された。その数は配石遺構6基、配石列4条となる。

第9908号配石列は環状列石北東部の内帯から外帯方向へ延び、内・外帯を連結させるように置かれている。配石列先端の外帯には昭和26・27年調査時にNo12(第 図)と付された組石遺構が存在し、当時の調査で同遺構の下部調査を行っているが、土坑は確認されていない。また、石の配列が第9908号配石列と同様の形態であることから、同組石は本配石列の一部となる可能性もある。

また、列石内帯北西部から外帯北西部へ延びる第9909号配石列も検出している。

第9901号配石遺構は、環帯を2列並べとする方形のもので、配石北西辺と南東辺中間部に立石が置かれている。また、東西隅にも立石の可能性ある川原石がみられる。遺構内部には柱穴状ピットは存在しない。形態的には、万座環状列石周辺で確認されている環状配石遺構、方形配石遺構と類似し、これらとの関連が問題となる。構築されている場所は北側出入口と列石内帯間の中間部である。

その他の配石遺構は組石となるもので、内帯・外帯間を5基の組石が東西に延びるように構築されている。比較的大きめの立石をもつタイプで、これらの並びにこれまで内帯を構成する組石と考えられていたものも含まれる可能性がある。本報告書ではこれらの組石遺構と列石内帯との新旧関係については判断できなかったが、今後の課題とする。

また、内帯・外帯部から本年度調査出土の遺物で特に注目され、大型中空土偶が出土した。大型土偶はこれまでも頭部、手、足部が単体ではみつかったが、1個体となる可能性が

期待されるものは本遺跡初である。そのうち、右手部は北側出入口西側に隣接する列石外帯組石下から出土したものである。

土偶の時期は縄文時代後期中葉のもので、十腰内Ⅱ式に比定される。

なお、列石外帯南東部では組石が地山直上に構築されていることが確認され、環状列石構築時の整地の可能性も考えられる。

4. 万座環状列石内昭和26・27年調査時トレンチ再調査

昭和26・27年の国営調査時に万座環状列石南西部外帯・内帯間に1本のトレンチ調査を行っており、本年度再調査を行った。その結果、内帯・外帯間では遺構は確認できなかった。

5. B区調査成果

B区からは縄文時代の遺構として、柱穴状ピット78個、配石列2条、Tピット3基、フラスコ状土坑13基、土坑5基、焼土遺構27基が検出した。また、歴史時代の遺構として、溝状遺構1基も確認している。

柱穴状ピットは野中堂環状列石周辺に集中する。さらに、万座環状列石周囲にみられた環1・環2（列石と中心を同一にする半径24～36mの範囲）に相当する地域に集中することが確認された。柱穴状ピットの規模は万座環状列石周囲で確認されたものと比較しやや小規模になる傾向がある。これらの柱穴が万座環状列石周辺同様の建物跡柱配置を示すかは平成12年度からの調査で明らかとしたい。

フラスコ状土坑・土坑も野中堂環状列石の周辺に集中し、それらの外側では遺物の出土状況を増している。

これらのことから、野中堂環状列石も、万座環状列石同様の規則的な同心円構造を示す可能性が考えられる。

焼土遺構は、調査区南端部に集中するものと思われ、それらの確認される地域が、昭和26・27年調査時で確認されている野中堂環状列石南側から延びる出入り口部分と思われる配石列の延びる方向のもあたるため、野中堂環状列石南側台地縁辺部に列石と関連する遺構が存在するものと推測される。

歴史時代の遺構では、調査区南端の台地縁辺部で溝状遺構が1基確認された。平成10年度に台地南側縁辺部の試掘調を行い、本溝状遺構と同時期の竪穴住居がみつかったことから、それらと関連する溝状遺構と考えられる。

本年度の調査で、万座環状列石周辺の調査は一応の終了を迎えるが、これまでの調査では、万座環状列石周辺の建物跡、フラスコ状土坑・土坑等、遺物廃棄域が規則的な配置を示すこと等の環状列石構造を解明する上での多くの成果を得ることができた。しかし、本年度第16次調査において、万座環状列石内帯・外帯間で新たな配石遺構が検出され、また、一つ大きな課題が課せられた。今後は、平成12年度から行われる野中堂環状列石周辺の本格的な調査と合わせながら、万座環状列石周辺の調査で課せられた課題を解決していきたいと思う。

参 考 文 献

- 文化財保護委員会 【大湯町環状列石】 1953年
 青森県教育委員会 【中の平遺跡発掘調査報告書】 1975年
 青森市教育委員会 【小牧野遺跡発掘調査報告書】 I～IV 1996年～
 岩手県教育委員会 【東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書 西田遺跡】 1980年
 大迫町教育委員会 【立石遺跡 昭和52年・53年度発掘調査報告書】 1979年
 秋田県教育委員会 【高屋館跡発掘調査報告書】 1988年
 鷹巣町教育委員会 【伊勢堂岱遺跡詳細分布調査報告書】 1998年
 阿部 義 平 「日時計の考察 大湯環状列石の配石類型の意味」
 『よねしろ考古 第2号』 よねしろ考古学研究会 1986年
 小 林 達 雄 「縄文人の世界」朝日選書557 朝日新聞社 1996年
 『縄文時代の自然の社会化』『季刊考古学・別冊6』雄山閣 1995年
 『縄文土器の研究』小学館1994
 小林 達雄ほか 『縄文時代の考古学』学生社 1998年
 岡 村 道 雄 『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店 1997年
 富 樫 泰 時 『秋田県大湯遺跡』『季刊考古学・別冊6』雄山閣 1995年
 『日本の古代遺跡24 秋田県』保育社 1985年
 林 謙 作 『Ⅱ 縄文時代 3 マツリと記念物』
 『発掘が語る日本史1 北海道・東北編』新人物往来社 1986年
 戸沢 充則 編 『縄文時代研究事典』東京堂出版 1994年
 浅川 滋男 編 「先史日本の住居とその周辺」
 『奈良国立文化財研究所シンポジウム』同成社 1998年
 成 田 滋 彦 「青森県の土器」『縄文文化の研究 4』雄山閣 1984年
 小 林 克 『東北地方北部縄文時代の墓制』『月刊考古学ジャーナル 422』
 ニュー・サイエンス社 1997年
 上記の他に多くの研究論文、報告書を活用させていただいた。

第Ⅷ章 特別史跡大湯環状列石環境整備事業

1. 特別史跡大湯環状列石環境整備事業

史跡指定面積が約240,000㎡と広大なことから、環境整備事業実施については、数期に分けて実施する計画である。

平成10年度から平成14年度を第1期5カ年計画として、野中堂・万座環状列石を中心に遺跡の主要部分約105,000㎡を整備対象範囲とした。

2. 平成10年度環境整備

平成10年度の整備は、万座環状列石の北側の約48,000㎡を対象に、環状配石遺構8基、配石列2条の遺構復元、地形や植栽の自然環境復元のほか、圍路設置等を行った。

環状配石遺構や配石列は、遺跡の特徴を表す遺構であるため、時期の異なるものについても表示可能なものはすべて復元することにした。復元については遺構保護のため50cmの盛土を施し、実物と同様の石材を用い、遺構周辺に浸透した雨水等により土が凍結し、復元遺構の崩壊が進まぬよう砕石基礎を設けた。

環状列石の造られた縄文時代後期の地形は、これまでの発掘調査によって台地縁より大小の沢が多数入り込み、起伏のあることが判明しており、当時の地形の様子を復元した。

植栽については、花粉分析や炭化堅実類をもとにブナ・コナラ・クリ・クミ等の高木～低木計1,053本を植栽し、当時の自然環境を復元した。

圍路設置については、洗出平板を使用し、目地間に芝を植え込みながら周辺の自然環境と違和感の無いように設置した。

3. 平成11年度環境整備

平成11年度の整備は、万座環状列石周辺及び同列石南西側の約21,000㎡を対象に、掘立柱建物や環状配石遺構、配石遺構等の遺構復元、万座環状列石の復元、地形や植栽の自然環境の復元、万座環状列石保護構、圍路設置を行った。

建物については万座環状列石に隣接する4本柱建物6棟（復元4棟、柱表示2棟）、6本柱建物6棟（復元4棟、柱表示2棟）の復元・柱表示と共、同列石北西部台地縁に位置する5本柱建物1棟の柱表示を行った。建物復元に際しては、各地の竈穴住居跡・建物の資料やアイヌの住居構造も参考に「平地式・奇棟造り」とした。

万座環状列石周辺は環状・方形配石遺構計5基や配石列2条、同列石の南西側に配石群（配石遺構4基）が分布している。列石から離れた2基の環状・方形配石遺構及び配石群に

については平成10年度と同様な方法を用いての復元、列石に隣接するものについては露出展示した。

万座環状列石は、昭和26年、27年の文化財保護委員会の調査以降、露出展示されている。この間、冬期間の土の凍結や雨水による土砂の流れ込みによって立石が倒れたもの、位置が移動したものも見受けられることから昭和26年、27年時の資料をもとに復元を行った。

これまで万座環状列石を取り囲んでいたフェンスについては、遺跡の景観を損なうこと、フェンス下の発掘調査を行うため撤去した。しかし撤去と共に多くの見学者の立ち入りが予想されたことから、同列石保護のため2段埋込み式のボール槽を設置した。

地形復元及び植栽の自然環境復元については、平成10年度に引き続き地形復元約21,000㎡と樹木525本を植栽し、自然環境の復元を行った。

園路については、平成10年度に設置したものを延長したほか、短絡路を増設した。また万座環状列石東側に洗出平板を繋ぐようにパーク敷きの園路を設置した。



PL1 D区調査区全景



PL2 B区調査区全景



万座環状列石フェンス下



柱穴状ビット（基礎石が置かれる）



大型土偶の出土した万座環状列石北側出入口
付近組石



大型土偶右手部出土状況



柱穴状ビット



検討委員現場視察風景

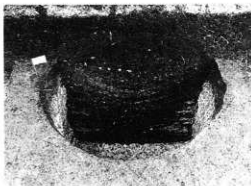
PL3 D区遺構



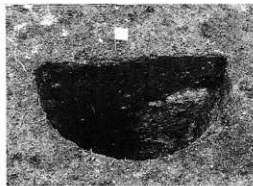
トレンチ掘近景



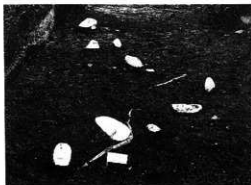
トレンチ掘近景（焼土遺構）



フラスコ状土坑



柱穴状ビット



SX(S)02



SX(S)03

PL4 B区遺構



Pit9927



SK(F)22



SK(F)9



SK(T)12

PL5 B区、D区遺構内出土遺物



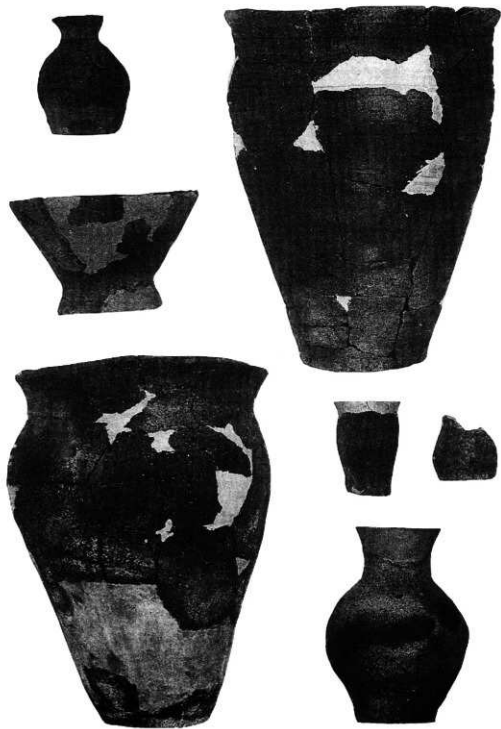
PL6 B区、D区遗物外出土土器



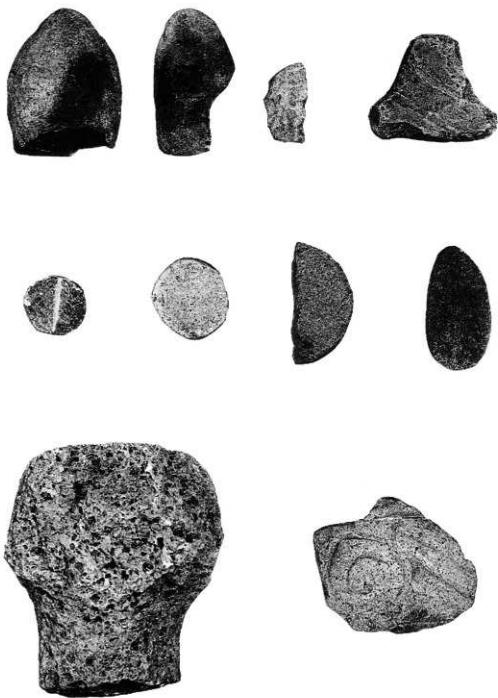
大型土偶・手足
 左手…旧大湍中学校
 寄贈
 左足…大湍第6次
 調査(F区)出土

SK(F)9022出土

PL7 D区遺構内外出土遺物



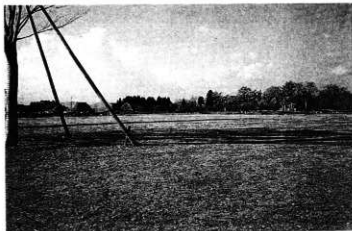
PL8 B区遺構外出土土器



PL9 B区遺構外出土遺物



PL10 万座環状列石周辺の整備状況



万座環状列石周辺（E→W）
写真左に万座環状列石と建物右に
5本柱建物、中央に環状配石整備
の復元がみえる。



万座環状列石周辺（E→W）
近景、万座環状列石周辺の復元建
物、手前に配石列がみえる。



万座環状列石周辺（S→N）
左からSB203、SB601、背後に復
元された地形と植栽がみえる。

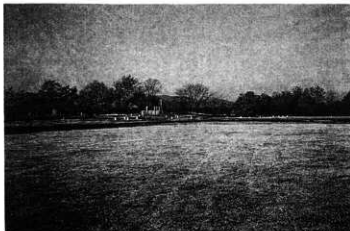
PL11 整備状況(1)



復元建物 (SB601・W→E)
復元された4本柱建物で、後方に植栽された木々、手前に万塚環状列石外帯がみえる。



復元建物 (SB604・W→E)
復元された6本柱建物で、後方に出土文化財管理センターがみえる。



整備地区北西端部 (E→W)
中央に5本柱建物、手前に環状配石遺構の復元がみえる。

PL12 整備状況(2)

報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせき おわゆかんじょうれいせきだい16にほくつちようさほうこくしょ							
書名	特別史跡 大湯環状列石第16次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿角市文化財調査資料							
シリーズ番号	66							
編著者名	鹿角市教育委員会 (生涯学習課 藤井安正・花海義人)							
編集機関	鹿角市教育委員会							
所在地	〒018-5292 秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくべつしせき 特別史跡 おおゆまわらじりょうせき 大湯環状列石	秋田県鹿角市 十和田大湯 字万座 字野中堂 字一本木 後口	05209	123	40度 16分 20秒	140度 48分 49秒	19990420 / 19991030	3,910	史跡整備 に伴う発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
特別史跡 大湯環状列石	環状列石	縄文時代後期	建物跡・土坑 フラスコ状土坑 配石遺構・石囲炉 Tピット		縄文土器 石器 石製品 土製品 ほか		万座環状列石を 囲んで建物が一 巡する。	

鹿角市文化財調査資料66

特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書 (16)

発行年月日 平成12年3月31日
発行者 鹿角市教育委員会
〒018-5292
秋田県鹿角市花輪字荒田4番地1
☎ 0186-30-1111

印刷所 (株)大館孔版社
〒017-0042
秋田県大館市字観音堂316-1
